

国語教育・日本語教育における筆順指導の実態及び意識に関する研究

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治

はじめに

国語教育において、漢字の筆順指導は、漢字学習初期段階（小学校低学年）で盛んに行われている。そのため、熱心な学習者の多くは、学校で学んだ筆順が「正しい筆順」つまり「絶対的なもの」と認識している。しかし、漢字には、同じ字体を持ちながら、日本と中国とで異なる筆順をとる字や、時代によって異なる筆順をとる字があり、本来筆順は絶対的なものではない。漢字学習における一つの目安としての筆順が、なぜ「正しい筆順＝絶対的なもの」として認識されるようになった（なっている）のだろうか。

従来、筆順に関しては、国語教育（特に書写教育）や筆跡鑑定の分野において盛んに研究されてきた。それら従来の研究の多くは、調査対象者がどのような筆順をとるのか、規範となる筆順との相違（正誤）に関する研究（筆順の実態に関する研究）や、筆順の実態を踏まえどのように指導するかに関する研究（筆順指導法に関する研究）であり、これら以外の研究は進展してこなかった。そこで筆者は、従来あまり研究されることのなかった「筆順指導」をテーマにとりあげ、特に以下の2点に注目して研究を進めてきた。

- (1) 筆順指導がどのように行われているか……………筆順指導の実態
- (2) 筆順指導に対してどのような意識を抱いているか……………筆順指導に対する意識

このような中、財団法人 日本漢字能力検定協会による「平成23年度漢字・日本語教育研究助成制度」を受ける機会に恵まれた。この助成により、平成23(2011)年7月から平成24(2012)年3月までの9か月に渡り、これまで調査してきた国語教育においてその調査範囲を広げるとともに、日本語教育にまで調査範囲を広げ、延べ1300人を超える大規模なアンケート調査を行うことができた。本報告書は、その研究成果をまとめたものである。

本研究は、今までにない新たな観点から行った研究である。荒削りな部分も多く問題も残されているが、本研究の成果が、これまで筆順指導の意義を十分に教えることのできていなかった国語教育において、筆順指導ひいては漢字指導の在り方を見直す契機となるとともに、年々学習者が増加している日本語教育において、効率的かつ意義ある漢字学習法を開発するその一助となれば幸甚である。

第1部 調査の目的と調査方法

1. 調査の目的と背景

現在、漢字に対する関心が非常に高い。財団法人 日本漢字能力検定協会によれば、平成22年度に日本漢字能力検定を受検した人数は232万人を超えており、受検者の年齢も3歳から101歳までと実に幅広いものとなっている。

国語教育においても、漢字指導は熱心に行われている。しかし、熱心に行われているがゆえに、一方で「行き過ぎた指導」という問題も生じている。阿辻哲次（2008）によれば、学校教育において、漢字のハネやハライ、トメの書き方あるいは筆順など非常に細かく指導しているために、学習者に「過度に過酷な要求」をし、学習者の意欲が減退することが指摘されている。

同様の問題は、年々学習者が増加している日本語教育においても生じている。日本語教師として必要な心構えや問題点などをまとめた斎藤明・坂根慶子（1989）によれば、日本語教育では、ハネやトメなどが非常に厳しい基準になりがちで、学習者に必要以上の負担をかける傾向にあることが指摘されている。

このような状況下にあつて、筆者は、国語教育及び日本語教育における漢字学習・指導の在り方を考えるために、筆順に焦点をあてて研究を行ってきた。

筆順指導に関する研究は、国語教育（主に書写教育）や筆跡鑑定の分野で盛んに行われてきたが、それらの多くは、筆順の実態に関する研究や筆順指導法に関する研究であり、それら以外の研究は進展していない。日本語教育でも、筆順のことは話題によくあがるものの、研究としてはあまり行われていない。そこで、秋山英治（2010）では、従来あまり研究されることのなかった「筆順指導」をテーマとしてとりあげ、高校生を対象にアンケート調査を行った。その結果、

- ①高校生の95%以上の比率で筆順指導を受けてきていること
- ②その筆順指導は小学校のみであること
- ③筆順指導は、女子よりも男子の方が長期間に渡っていること
- ④筆順指導を必要としている比率が32%、不必要としている比率が23%で、半数近くはどちらでもないと考えていること
- ⑤筆順指導は、男子よりも女子の方が必要と考える傾向にあること（相対的に女子よりも男子の方が不必要と考える傾向にあること）
- ⑥筆順指導を必要と考える主な理由が、きれいな字を書くためであること
- ⑦筆順指導を不必要と考える主な理由が、文字が書ければそれでよい（筆順に気を付けなくても正しい字が書ける）ということ

などが明らかになった。

本研究では、これらの研究成果をもとに、小学校・中学校、さらに日本語教育にまで調査範囲を広げ、筆順指導の実態及び筆順指導に対する意識の調査研究を行った。

2. 調査方法

筆順指導の実態及び筆順指導に対する意識を明らかにするために、アンケート調査を行った。調査対象者を、調査目標人数とともに示すと、以下のようになる。

(1) 国語教育

●漢字学習者

- ・小学生……………200人
- ・中学生……………200人

●漢字指導者

- ・小学校教員……………100人
- ・中学校教員……………100人

(2) 日本語教育

●漢字学習者：日本語学習者……………200人

●漢字指導者：日本語教員……………100人

これらの調査対象者にアンケート調査を実施するために、秋山英治（2010）をもとに、それぞれ6種類のアンケート調査票を作成した。ただし、日本語学習者については、日本語によるアンケート調査票での回答が困難な学習者もいるため、英語によるアンケート調査票も作成した。なお、英語によるアンケート調査を含めた7種類のアンケート調査票については、巻末資料として末尾に掲げる。

アンケート調査の質問項目については、調査対象者によって一部異なっている部分もあるが、それぞれの結果が比較できるように、漢字学習者（小学生・中学生・日本語学習者）と漢字指導者（小学校教員・中学校教員・日本語教員）で共通するように作成した。また、国語教育と日本語教育も比較できる項目も作成した。それら質問項目の主なものをあげると、次のようになる。

(1) 漢字学習者（小学生・中学生・日本語学習者）

- ①学年（日本語学習者については、出身国・使用言語・日本語学習歴等）
- ②性別
- ③漢字学習の好き嫌い
- ④漢字を書く時に注意していること
- ⑤筆順指導を受けてきた（受けている）か
 - (ア) 受けてきたと回答した場合、いつまで受けてきたか、なぜ筆順指導が必要か、筆順指導を受けてどのような変化があったか
 - (イ) 受けてこなかったと回答した場合、筆順指導を受けたかったか
- ⑥筆順指導は必要か
 - (ア) 必要と回答した場合、なぜ必要か、いつ受けるのが適当か
 - (イ) 必要ないと回答した場合、なぜ必要ないのか
- ⑦筆順が違う人を見てどう感じるか
- ⑧漢字を学習する上で問題があるか

(2) 漢字指導者（小学校教員・中学校教員・日本語教員）

- ①担当学年

- ②性別
- ③年代
- ④主要担当教科・科目（日本語教員については、日本語教育指導歴）
- ⑤漢字指導を積極的に行っているか
- ⑥筆順指導を行っているか
 - (ア) 行っていると回答した場合、なぜ筆順指導を行っているのか、行うことによってどのような変化があったか
 - (イ) 行っていないと回答した場合、なぜ筆順指導を行っていないのか
- ⑦筆順指導は必要か
 - (ア) 必要と回答した場合、なぜ必要か、いつ行うのが適当か
 - (イ) 必要ないと回答した場合、なぜ必要ないのか
- ⑧板書において注意していることは何か
- ⑨筆順が違う人を見てどう感じるか
- ⑩漢字指導を行う上で問題があるか
- ⑪筆順が絶対的なものではないということを知っていたか
 - (ア) 知らなかったと回答した場合、知って考えに変化があったか

アンケート調査は、小学校・中学校、日本語教育の諸機関に依頼した。アンケート調査票の回収数を合わせて示すと、以下の【表1】～【表3】のようになる。

中学校について、中学生は438人と調査目標人数（200人）を200人以上超えることができたが、中学校教員は84人と調査目標人数（100人）を超えることができなかった。課題として残るが、本研究では、ご協力いただいた人数で結果の分析を行うこととする。

日本語教育機関については、大学を中心に、短期大学、専門学校、非営利国際交流ボランティア団体等にご協力いただいた。また、多くの日本語教員の方々にもご協力いただき、日本国内だけでなく外国で日本語を教えているの方々にもご協力いただくことができた（日本語教員の所属機関は、ご紹介いただいた方の所属する機関名に含めた）。多くの日本語教員の方々のご協力を得ることができたが、調査目標人数（100人）を超えることができなかった。課題として残るが、本研究では、ご協力いただいた人数で結果の分析を行うこととする。

【表1】 アンケート調査対象機関と調査票回収人数（小学校）

	単位（人）	
	児童	教員
①東京学芸大学附属小金井小学校	70	20
②金沢大学附属小学校	67	24
③岡山大学教育学部附属小学校	59	23
④香川大学教育学部附属高松小学校	39	15
⑤愛媛大学教育学部附属小学校	76	23
⑥宮崎大学教育文化学部附属小学校	66	14
合 計	377	119

【表2】 アンケート調査対象機関と調査票回収人数（中学校）

単位（人）

	生徒	教員
①立命館宇治中学校	65	20
②鳴門教育大学附属中学校	36	18
③愛媛大学教育学部附属中学校	80	25
④福岡教育大学附属福岡中学校	117	0
⑤福岡教育大学附属久留米中学校	67	15
⑥福岡教育大学附属小倉中学校	73	6
合 計	438	84

【表3】 アンケート調査対象機関と調査票回収人数（日本語教育機関）

単位（人）

	学習者	教員
①山形大学	30	5
②千葉大学	23	17
③東京農工大学	0	7
④中央学院大学	27	17
⑤京都精華大学	2	1
⑥香川大学	28	9
⑦徳島大学	23	2
⑧愛媛大学	35	7
⑨松山東雲女子大学	24	0
⑩愛媛女子短期大学	16	2
⑪長崎外国語大学	0	3
⑫英数学館岡山校	17	1
⑬えひめJASL（愛媛国際日本語研修会）	9	7
合 計	234	78

以下、国語教育（小学校・中学校）・日本語教育におけるアンケート調査の結果について、それぞれ漢字学習者と漢字指導者に分けて分析を行っていく。

第2部 国語教育における調査結果の分析

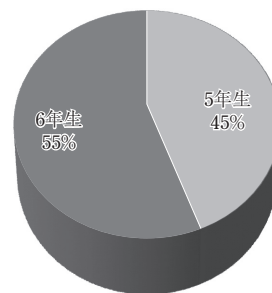
第1章 国語教育における漢字学習者の調査結果の分析

1.1. 小学生における調査結果の分析

1.1.1. 学年について

小学校のアンケート調査は当初、低学年・中学年・高学年の3つの学年層に分けて実施する予定であった。しかし、ある小学校教員の方から、低学年・中学年にアンケート調査を行うのは困難であるのご指摘を受けた。そこで、今回のアンケート調査は、高学年（5・6年生）のみを対象に実施した。その結果を示すと、【図①1】のようになる。

【図①1】より、6年生の比率が55%と5年生より10%程度多くなっている。



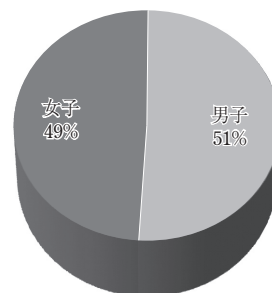
【図①1】小学生全体

1.1.2. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図①2】のようになる。

【図①2】より、男子の比率が51%、女子の比率が49%でほぼ同じとなっている。これは、各小学校にアンケート調査を依頼する際、男子・女子がある程度均等になるようお願いしたことによる。

これより以降の結果については、性別（小学生全体・小学生男子・小学生女子）に分けて見ていくこととする。



【図①2】小学生全体

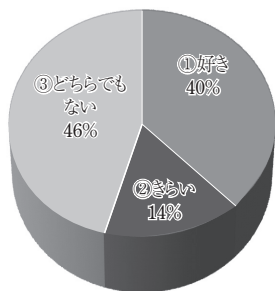
1.1.3. 漢字学習に対する好き嫌いについて

漢字学習が好きか嫌いかについて、3つの選択肢（「①好き」「②きらい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①3-1】【図①3-2】【図①3-3】のようになる。

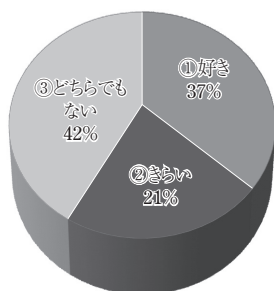
【図①3-1】より、小学生全体では、最も高い比率を示しているのが「③どちらでもない」の46%で、「①好き」は40%、「②きらい」は14%である。「①好き」と「③どちらでもない」とで大きく2つに分かれていることがわかる。

【図①3-2】【図①3-3】より、性別によって好き嫌いに差があることがわかる。小学生男子は小学生女子よりも「①好き」の比率が5%低く、「②きらい」の比率が14%高い。小学生男子は、小学生女子よりも漢字学習を嫌っている。

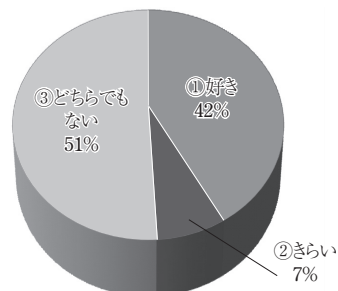
一方、女子は、「②きらい」の比率が7%と低く、半数以上が「③どちらでもない」と回答している。小学生女子は、小学生男子と比べて、漢字学習に対して肯定的に捉える傾向にあることがわかる。



【図①3-1】小学生全体



【図①3-2】小学生男子



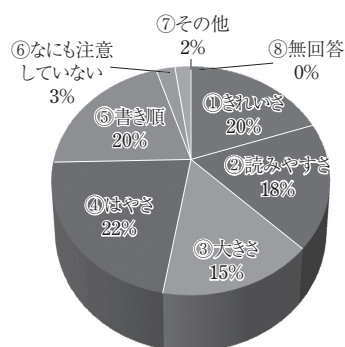
【図①3-3】小学生女子

1.1.4. 漢字を書くときの注意点について

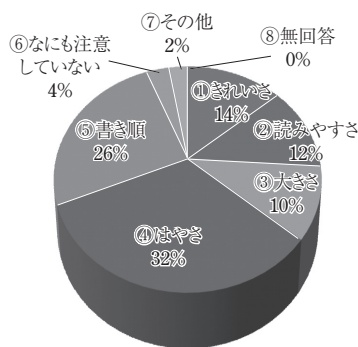
漢字を書くときの注意点について、7つの選択肢（「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順」（筆順）「⑥なにも注意していない」「⑦その他）」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①4-1】【図①4-2】【図①4-3】のようになる。

【図①4-1】より、小学生全体では、「④はやさ」が22%で最も比率が高く、その次に「①きれいさ」「⑤書き順」がともに20%で高い比率を示している。その他、「②読みやすさ」が18%、「③大きさ」が15%となっている。一方、「⑥なにも注意していない」はわずか3%である。これらの結果から、大半の小学生が何かしらに注意して漢字を書いていることがわかる。

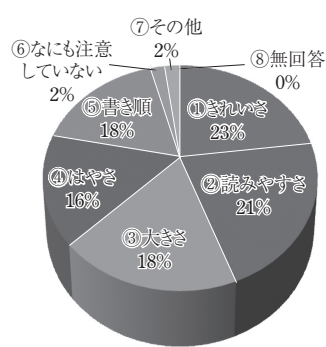
【図①4-2】【図①4-3】より、性別によって、漢字を書くときの注意点に大きな違いが見られる。小学生男子では、「④はやさ」が32%と最も高い比率を示しているが、2番目に高い「⑤書き順」と大きく差が開いている。一方、小学生女子は、小学生男子と比べて、最も比率の高い「①きれいさ」から5番目に高い「④はやさ」まであまり差が開いていない。小学生男子は、主に1つのこと（「④はやさ」）に注意を払う傾向があるのに対し、小学生女子は1つに絞るのではなく様々なことに注意を払う傾向があることがわかる。



【図①4-1】小学生全体



【図①4-2】小学生男子



【図①4-3】小学生女子

1.1.5. 筆順指導の有無について

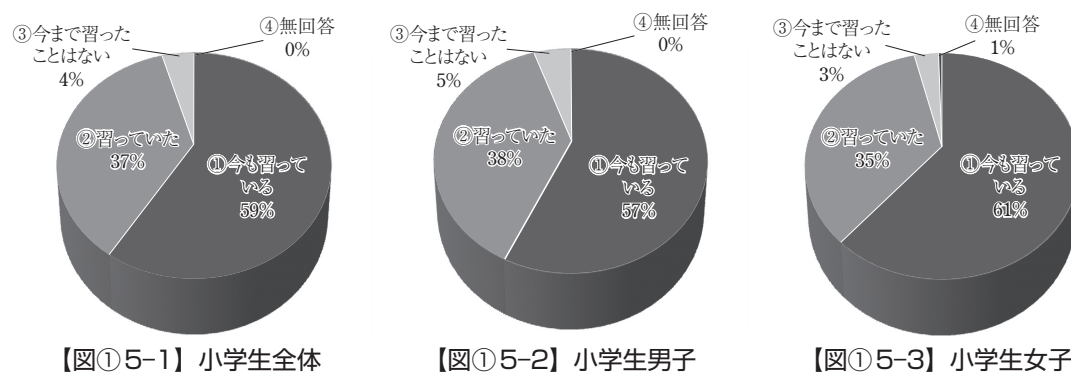
筆順指導を受けているか、その有無について、3つの選択肢（「①今も習っている」「②習っていた（習っていた学年）」、「③今まで習ったことはない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①5-1】【図①5-2】【図①5-3】のようになる。

【図①5-1】より、小学生全体では、「①今も習っている」の比率が59%、「②習っていた」の比率が37%となっており、大半の小学生が筆順指導を受けている（受けていた）ことがわかる。

【図①5-2】【図①5-3】より、小学生男子・小学生女子ともに、小学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。

「②習っていた」について、その内訳を見ると、「小学校4年生まで」という回答が最も多く、小学生全体の31%を占める。小学校1年生から小学校4年生までを含めた比率は66%を占めており、多くの小学生は小学校4年生まで筆順指導を受けてきていることがわかる。しかし、「小学校6年生（前半）まで」という回答も多く、小学生全体の24%を占める。小学生のアンケート調査の約半数が小学校5年生であることから考えると、「小学校6年生（前半）まで」の24%という比率は非常に高い。「ごく最近まで筆順指導を受けていた」ということであろう。

その他、小学校によって、「①今も習っている」の比率に違いが見られる。最も高い比率を示す小学校は97%で、ほとんどの小学生が今も習っている。一方、最も低い比率を示す小学校は34%で、その差が60%以上ある（小学校平均は58.9%）。小学校によって、どの段階まで筆順指導を実施するか、教育方針の違いが明確にあらわれている。

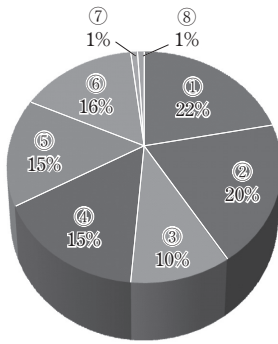


1.1.5.1. 筆順指導を受ける理由について

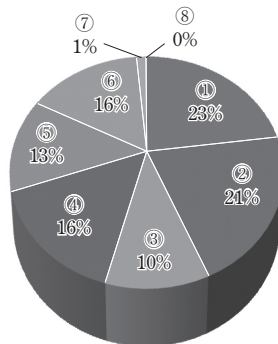
1.1.5.の質問で「①今も習っている」「②習っていた」と回答した小学生に、筆順指導を受けている（受けた）理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③書き順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①5-1-1】【図①5-2-1】【図①5-3-1】のようになる。

【図①5-1-1】より、小学生全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が22%と最も比率が高く、小学生たちは、筆順指導を受ける理由を「字がきれいに書けるようになるから」と考えていることがわかる。しかし、2番目に比率が高い「②字が書きやすくなるから」から6番目に比率が高い「③書き順を習うのはあたりまえだから」までそれほど大きな差はなく、筆順指導を受ける理由が比較的幅広く捉えられている。

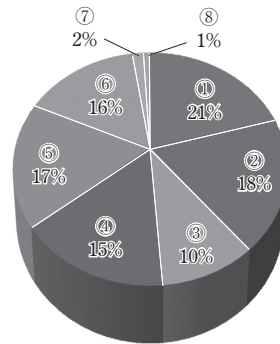
【図①5-2-1】【図①5-3-1】より、小学生男子・小学生女子ともに小学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。



【図①5-1-1】小学生全体



【図①5-2-1】小学生男子

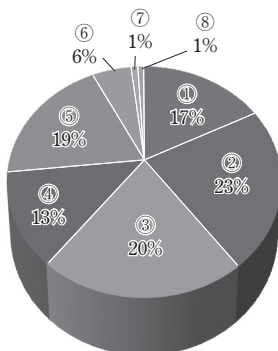


【図①5-3-1】小学生女子

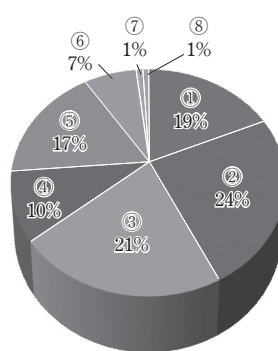
- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③書き順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

1.1.5.2. 筆順指導を受けての変化について

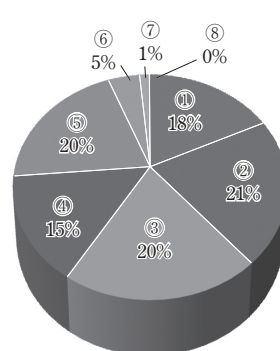
1.1.5.の質問で「①今も習っている」「②習っていた」と回答した小学生に、筆順指導を受けてどのような変化があったかについて、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が覚えやすくなった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①5-1-2】【図①5-2-2】【図①5-3-2】のようになる。



【図①5-1-2】小学生全体



【図①5-2-2】小学生男子



【図①5-3-2】小学生女子

- ①字がきれいに書けるようになった
- ②字が書きやすくなった
- ③テストなどで答えられるようになった
- ④字の成り立ちがわかるようになった
- ⑤字が覚えやすくなった
- ⑥何も変わらなかった
- ⑦その他
- ⑧無回答

【図①5-1-2】より、小学生全体では、「②字が書きやすくなった」が23%と最も比率が高い。「③テストなどで答えられるようになった」などその他の選択肢もある程度の比率を示している（「⑥何も変わらなかった」の比率が6%と非常に少ない）ことから、小学生たちは筆順指導を受けることによって何らかの効果があったと捉えていることがわかる。

【図①5-2-2】【図①5-3-2】より、小学生男子・小学生女子ともに小学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。

1.1.5.3. 筆順指導を受けてこなかった小学生について

1.1.5.の質問で筆順を「③今まで習ったことはない」と回答した小学生に、筆順指導を受けたかどうかについて、3つの選択肢（「①習いたかった」「②習いたくなかった」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。ただし、1.1.5.で「③今まで習ったことはない」と回答した比率は、小学生全体の4%（16人）と非常に少ない。そこで、その結果を、以下の【表4】のように、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて実人数で示す。

【表4】 筆順指導を受けたかったか（小学生）

	全 体	男 子	女 子
①習いたかった	0人	0人	0人
②習いたくなかった	3人	2人	1人
③どちらでもない	12人	7人	5人
④無回答	1人	1人	0人

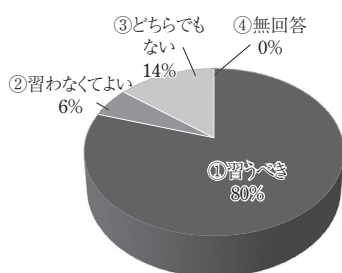
【表4】より、「③どちらでもない」が12人と最も多くなっている。その次が「②習いたくなかった」の3人で、「①習いたかった」という回答は見られない。筆順指導を受けてこなかった小学生にとって筆順指導は主体的に受けたいものではないと捉えられていることがわかる。

1.1.6. 筆順指導の必要性について

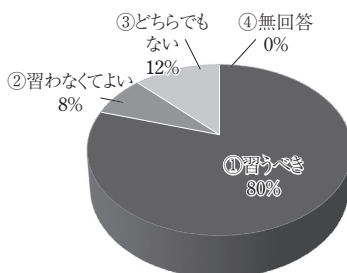
筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①習うべき」「②習わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①6-1】【図①6-2】【図①6-3】のようになる。

【図①6-1】より、小学生全体では、「①習うべき」と回答した比率が80%と高く、小学生たちの多くが、筆順指導を「習うべき」だと捉えていることがわかる。

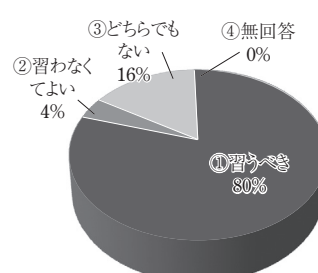
【図①6-2】【図①6-3】より、小学生男子が小学生女子より「②習わなくてよい」の比率が



【図①6-1】小学生全体



【図①6-2】小学生男子



【図①6-3】小学生女子

高くなっているが、大きな差ではない。小学校全体とほぼ同じ比率であることから、性別による差はないと言える。

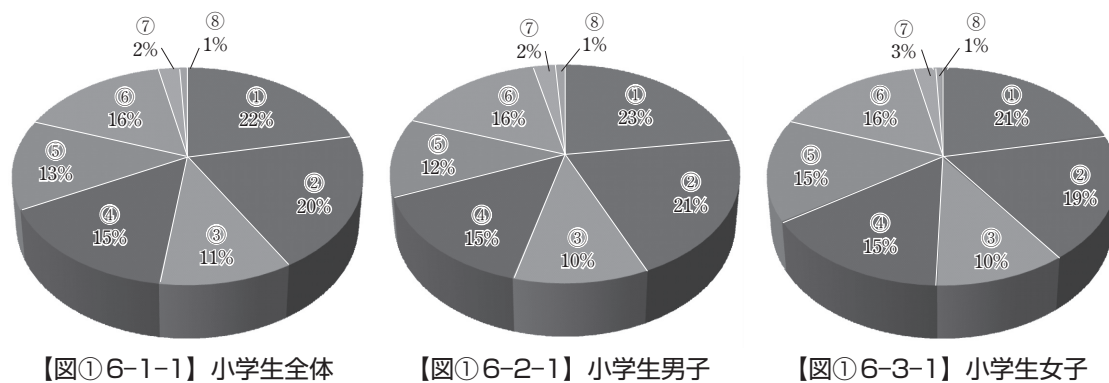
1.1.6.1. 筆順指導が必要である理由について

1.1.6.の質問で筆順指導を「①習うべき」と回答した小学生に、筆順指導が必要な理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③書き順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①6-1-1】【図①6-2-1】【図①6-3-1】のようになる。

【図①6-1-1】より、小学生全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が22%で最も比率が高い。しかし、2番目に比率が高い「②字が書きやすくなるから」から6番目に比率が高い「③書き順を習うのはあたりまえだから」までそれほど大きな差はなく、小学生たちにとって書き順指導が必要な理由が幅広く捉えられている。

【図①6-2-1】【図①6-3-1】より、小学生男子・小学生女子ともに小学生全体とほぼ同じ比率になっており、性別による差はない。

これら小学生全体・小学生男子・小学生女子の結果は、1.1.5.1.の「筆順指導を受ける理由」とほぼ同じ結果となっている。筆順指導を受ける理由と筆順指導を必要と考える理由とが共通しているということである。



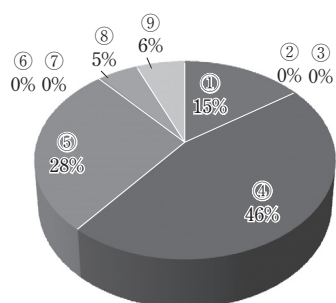
- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③書き順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなどの問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

1.1.6.2. 筆順指導に適切な時期について

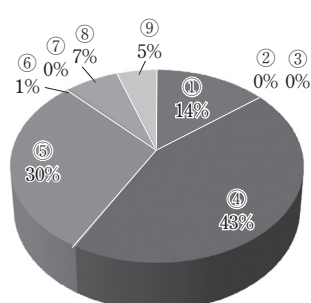
1.1.6.の質問で筆順指導を「①習うべき」と回答した小学生に、筆順指導を受けるのに適切な時期について、8つの選択肢（「①小学校のあいだだけ」「②中学校のあいだだけ」「③高校のあいだだけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」「⑥小学校と高校」「⑦中学校と高校」「⑧その他」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①6-1-2】【図①6-2-2】【図①6-3-2】のようになる。

【図①6-1-2】より、小学生全体では、半数近くの46%が「④小学校と中学校と高校」と回答している。2番目に高い比率の「⑤小学校と中学校」と合わせると、74%が「小学校から中学校まで」筆順指導が必要だと回答していることになる。小学生たちは長期間に渡って筆順指導を受ける必要があると捉えている。

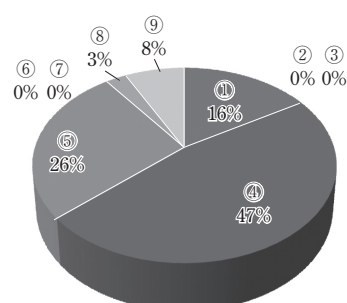
【図①6-2-2】【図①6-3-2】より、小学生男子・小学生女子ともに小学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。



【図①6-1-2】小学生全体



【図①6-2-2】小学生男子



【図①6-3-2】小学生女子

- ①小学校のあいだだけ
- ②中学校のあいだだけ
- ③高校のあいだだけ
- ④小学校と中学校と高校
- ⑤小学校と中学校
- ⑥小学校と高校
- ⑦中学校と高校
- ⑧その他
- ⑨無回答

1.1.6.3. 筆順指導が不必要である理由について

1.1.6.の質問で筆順は「②習わなくてよい」と回答した小学生に、筆順指導が必要でない理由について、7つの選択肢（「①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい順番で書いた方がよいから」「④書き順を覚えるのがたいへんだから」「⑤書き順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、1.1.6.で「②習わなくてよい」と回答した比率は、小学生全体の6%（22人）と非常に少ない。そこで、その結果について、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて実人数を示すと【表5】のようになる。

【表5】筆順指導が必要でない理由（小学生）

	全 体	男 子	女 子
①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから	8人	5人	3人
②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから	9人	8人	1人
③書きやすい順番で書いた方がよいから	12人	8人	4人
④書き順を覚えるのがたいへんだから	7人	5人	2人
⑤書き順は自然に身につくものだから	6人	5人	1人
⑥テストなどに出ることはないから	1人	1人	0人
⑦その他	7人	4人	3人
⑧無回答	1人	1人	0人

【表5】より、「①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい順番で書いた方がよいから」などの回答が多く見られる。これらの結果から、小学生たちは「書きやすさ」を重視していることがわかる。

また、「④書き順を覚えるのがたいへんだから」も7人回答しており、「労力の軽減」を求めている。後述する1.1.8.の「漢字学習上での苦労」でも、多くの小学生は、漢字学習が「非常に労力がかかる」ものであると述べている。小学生たちにとっていかに「労力を軽減」するかが、大きな問題となっていることがわかる。

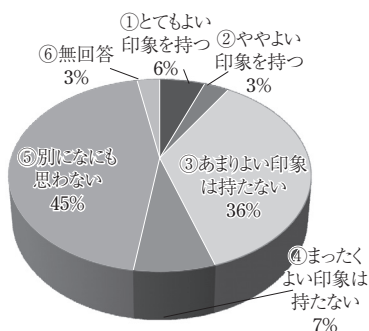
「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい順番で書いた方がよいから」「④書き順を覚えるのがたいへんだから」「⑤書き順は自然に身につくものだから」などの回答については、性別による差が見られる。しかし、回答者数が少ないことから断言することができない。詳細については、今後の課題である。

1.1.7. 他人の筆順について

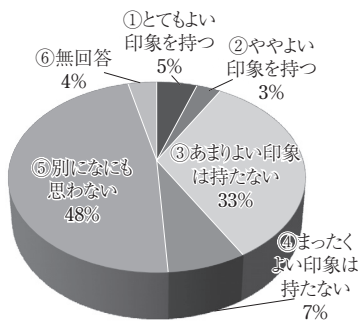
学校で学ぶ筆順と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別になにも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①7-1】【図①7-2】【図①7-3】のようになる。

【図①7-1】より、小学生全体では、「⑤別になにも思わない」が45%と最も高い比率を示し、半数近くの小学生が他人の筆順に対して「何も感じていない」ことがわかる。「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた「よい印象は持たない」の比率は43%と半数近くになっている。小学生全体としては、「別になにも思わない」と「よい印象は持たない」とがほぼ同じ比率で、二分している。

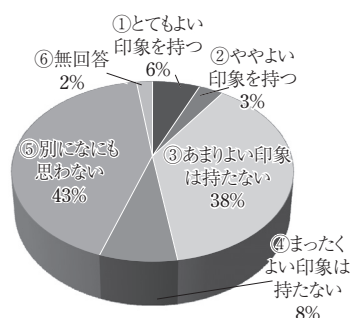
【図①7-2】【図①7-3】より、小学生男子・小学生女子ともに小学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。



【図①7-1】小学生全体



【図①7-2】小学生男子



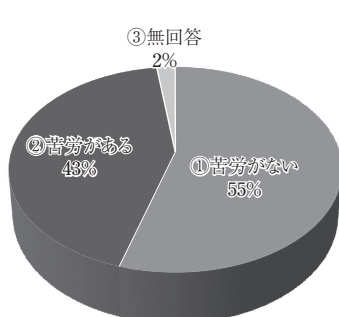
【図①7-3】小学生女子

1.1.8. 漢字学習上での苦勞について

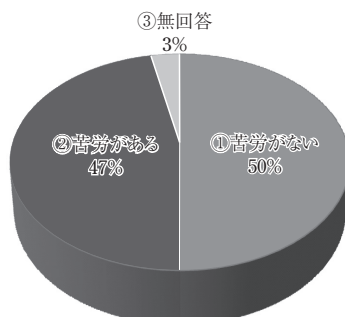
漢字学習上での苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を、小学生全体・小学生男子・小学生女子に分けて示すと、【図①8-1】【図①8-2】【図①8-3】のようになる。

【図①8-1】より、小学生全体では、「②苦勞がある」の比率が43%で、半数近くの小学生が漢字学習上で何らかの問題を抱えていることがわかる。「②苦勞がある」と回答したその具体的な内容についての記述を見ると、「たくさんの漢字を覚えなといけない」「なかなか漢字が覚えられない」「何回も書かないといけない（覚えられない）」「似た字が多くてなかなか覚えられない」「同じ字でも音読みと訓読みなどいくつかの読み方があるのがたいへん」といった回答が多く見られる。多くの小学生たちは、漢字を学習するにあたってスムーズに覚えることができないこと、また覚えるにあたって何回も書かなければならないことに苦勞を感じている。1.1.6.3.でも述べたように、小学生たちは、漢字学習を「労力を要する」ものと捉えており、いかに「労力を軽減する」かに苦心しているかがわかる。

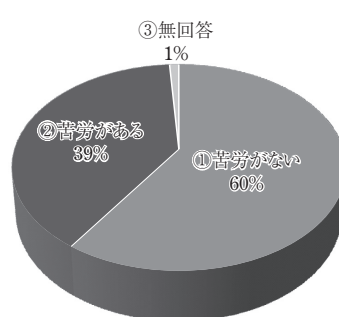
【図①8-2】【図①8-3】より、小学生男子は「②苦勞がある」の比率が47%で、小学生女子よりも高く（相対的に、「①苦勞がない」の比率は小学生女子が高く）、小学生男子の方が、漢字学習に困難を感じている。それは、「②苦勞がある」についての具体的な記述からも言うことができる。小学生男子の記述を見ると、「漢字を覚えるのがめんどろ」「漢字を覚えるのがしんどい」など漢字学習を嫌った回答が多い。小学生男子の方が小学生女子よりも漢字学習を嫌っているという傾向は、1.1.3.の「漢字学習の好き嫌い」でも見られ、小学生男子は「労力の要する」漢字学習に苦心している。



【図①8-1】小学生全体



【図①8-2】小学生男子



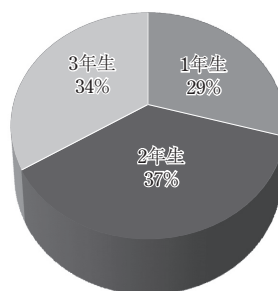
【図①8-3】小学生女子

1.2. 中学生における調査結果の分析

1.2.1. 学年について

学年について、その結果を示すと、【図②1】のようになる。

【図②1】より、若干差があるものの、1年生の比率が29%、2年生の比率が37%、3年生の比率が34%と、ほぼ同じになっている。これは、各中学校にアンケート調査を依頼する際、学年がある程度均等になるようお願いしたことによる。ただし、小学生と同じ基準で分析するため、学年別による分析は行わない。

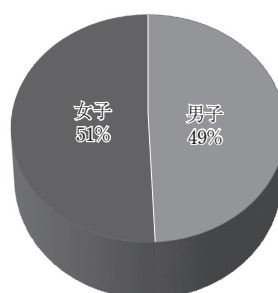


【図②1】中学生全体

1.2.2. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図②2】のようになる。

男子の比率が49%、女子の比率が51%とほぼ同じになっている。これは、各中学校にアンケート調査を依頼する際、男子・女子がある程度均等になるようお願いしたことによる。



【図②2】中学生全体

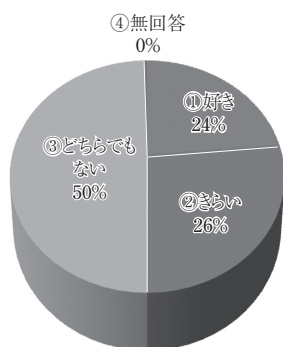
これより以降の結果については、性別（中学生全体・中学生男子・中学生女子）に分けて見ていくこととする。

1.2.3. 漢字学習に対する好き嫌いについて

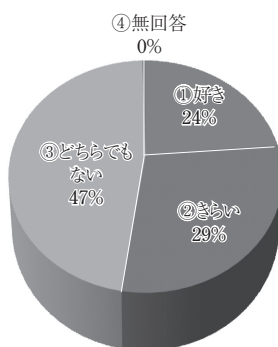
漢字学習が好きか嫌いかについて、3つの選択肢（「①好き」「②きらい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②3-1】【図②3-2】【図②3-3】のようになる。

【図②3-1】より、中学生全体では、最も高い比率を示しているのが「③どちらでもない」で50%である。中学生たちの半数は、「好き」でも「嫌い」でもないということがわかる。

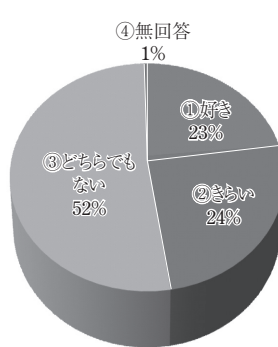
「好き」か「嫌い」かについて見ると、「①好き」の比率が24%、「②きらい」の比率が26%で、ほぼ同じになっている。中学生全体の結果を小学生全体の結果と比較すると、「①好き」の比率が小学生全体よりも16%低く、「②きらい」の比率が小学生全体よりも12%高い。中学生全体は、小学生全体よりも漢字学習を嫌う傾向にあることがわかる。



【図②3-1】中学生全体



【図②3-2】中学生男子



【図②3-3】中学生女子

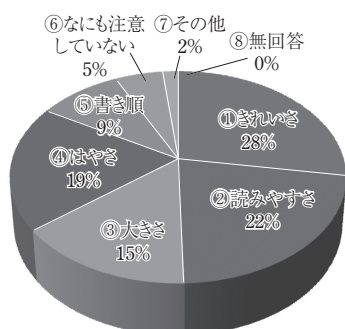
【図②3-2】【図②3-3】より、中学生男子の方が、わずかに「②きれい」の比率が中学生女子よりも高くなっているが、それほど大きな差ではない。中学生男子・中学生女子ともに、中学生全体とほぼ同じ比率となっている。

1.2.4. 漢字を書くときの注意点について

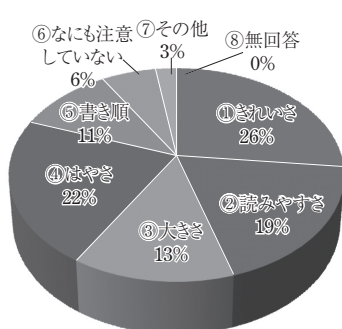
漢字を書くときの注意点について、7つの選択肢（「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順」（筆順）「⑥何も注意していない」「⑦その他）」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②4-1】【図②4-2】【図②4-3】のようになる。

【図②4-1】より、中学生全体では、「①きれいさ」が28%で最も比率が高く、その次に「②読みやすさ」が22%、「④はやさ」が19%となっている。中学生全体では、小学生全体で2番目に高い比率を示していた「⑤書き順」が5番目で比率も9%と低い。中学生全体は、小学生全体よりも「筆順」を重視していないことがわかる。

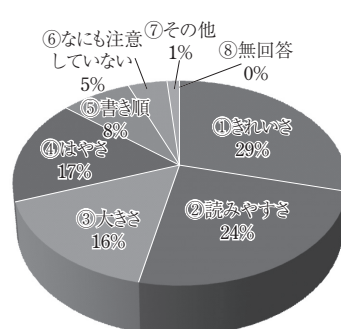
【図②4-2】【図②4-3】より、中学生男子・中学生女子ともに、中学生全体とほぼ同じ比率となっている。しかし、細かく見ると、わずかではあるが、中学生女子は中学生男子よりも、「①きれいさ」「②読みやすさ」の比率が高い。一方、中学生男子は、中学生女子よりも「④はやさ」の比率が高い。中学生男子は「はやさ」を、中学生女子は「きれいさ」「読みやすさ」を重視していることがわかる。



【図②4-1】中学生全体



【図②4-2】中学生男子



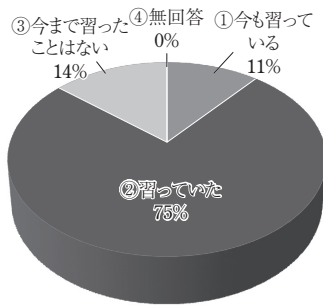
【図②4-3】中学生女子

1.2.5. 筆順指導の有無について

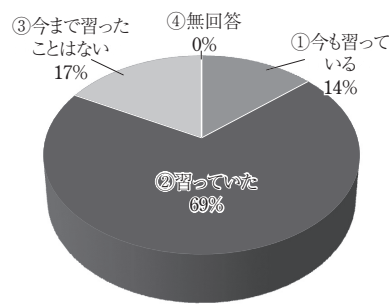
筆順指導を受けているか、その有無について、3つの選択肢（「①今も習っている」「②習っていた（習っていた学年）」、「③今まで習ったことはない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②5-1】【図②5-2】【図②5-3】のようになる。

【図②5-1】より、中学生全体では、「②習っていた」が75%と最も高い比率となっている。「②習っていた」の内訳を見ると、「小学校6年生まで」という回答が最も多く、全体の49%を占める。小学校1年生から小学校6年生までを含めると88%となり、筆順指導が小学生の間に受けるものとなっていることがわかる。

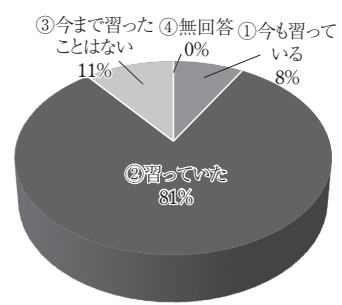
【図②5-2】【図②5-3】より、中学生男子の「②習っていた」の比率が、中学生女子よりも11%低い。相対的に、「①今も習っている」の比率が、中学生男子の方が高い。中学生男子は、中学生女子よりも筆順指導を受ける期間が長い傾向にあることがわかる。



【図②5-1】中学生全体



【図②5-2】中学生男子

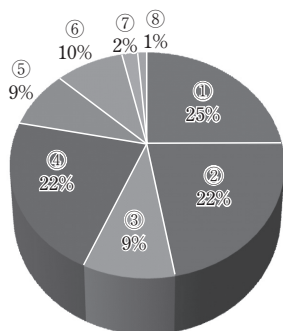


【図②5-3】中学生女子

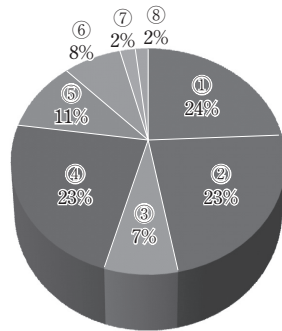
1.2.5.1. 筆順指導を受ける理由について

1.2.5.の質問で「①今も習っている」「②習っていた」と回答した中学生に、筆順指導を受けている（受けた）理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③書き順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②5-1-1】【図②5-2-1】【図②5-3-1】のようになる。

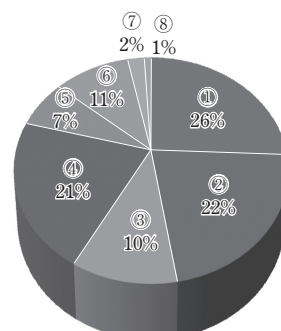
【図②5-1-1】より、中学生全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が25%と最も比率が高い。これは、小学生全体の結果と同じであり、小学生・中学生ともに、筆順指導を受ける理由が「字がきれいに書けるようになるから」と捉えていることがわかる。しかし、小学生全体では、2番目に比率が高い「②字が書きやすくなるから」から6番目に比率が高い「③書き順を習うのはあたりまえだから」までそれほど大きな差はなく、筆順指導を受ける理由が比較的幅広い。それに対して、中学生全体では、2番目に比率が高い「②字が書きやすくなるから」「④テストなど問題に出るから」とその次（4番目）に比率が高い「③書き順を習うのはあたりまえだから」「⑤字の成り立ちがわかるから」との間が大きく離れており、特定の理



【図②5-1-1】中学生全体



【図②5-2-1】中学生男子



【図②5-3-1】中学生女子

- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③書き順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

由に限られている。筆順指導の意義に対する認識が小学生・中学生で異なることがわかる。

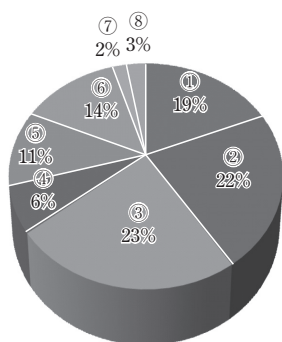
【図②5-2-1】【図②5-3-1】より、中学生男子・中学生女子ともに中学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。

1.2.5.2. 筆順指導を受けての変化について

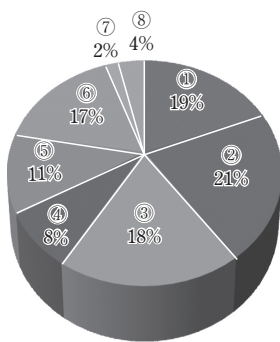
1.2.5.の質問で「①今も習っている」「②習っていた」と回答した中学生に、筆順指導を受けてどのような変化があったかについて、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が覚えやすくなった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②5-1-2】【図②5-2-2】【図②5-3-2】のようになる。

【図②5-1-2】より、中学生全体では、「③テストなどで答えられるようになった」が23%で最も比率が高く、その次に「②字が書きやすくなった」の22%が続く。この2つの選択肢は、小学生全体においても高い比率を示し、またそれぞれの選択肢の比率も小学生全体と中学生全体とでほぼ同じになっている。しかし、中学生全体では、小学生全体と比べて「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が覚えやすくなった」の比率が低く、「⑥何も変わらなかった」の比率が高い。中学生たちは小学生たちよりも筆順指導を受けたことによる効果をあまり実感していない傾向にあることがわかる。

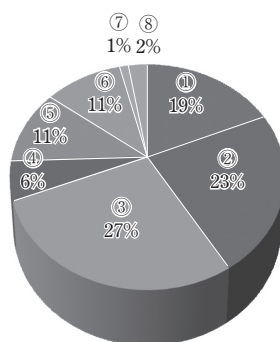
【図②5-2-2】【図②5-3-2】より、中学生男子は、中学生女子よりも「③テストなどで答えられるようになった」の比率が低く、「⑥何も変わらなかった」の比率が高い。中学生男子は、中学生女子よりも筆順指導を受けたことによる効果をあまり実感していない傾向にあることがわかる。



【図②5-1-2】中学生全体



【図②5-2-2】中学生男子



【図②5-3-2】中学生女子

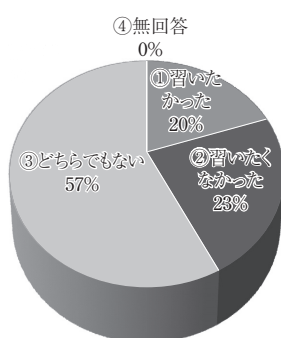
- ①字がきれいに書けるようになった
- ②字が書きやすくなった
- ③テストなどで答えられるようになった
- ④字の成り立ちがわかるようになった
- ⑤字が覚えやすくなった
- ⑥何も変わらなかった
- ⑦その他
- ⑧無回答

1.2.5.3. 筆順指導を受けてこなかった中学生について

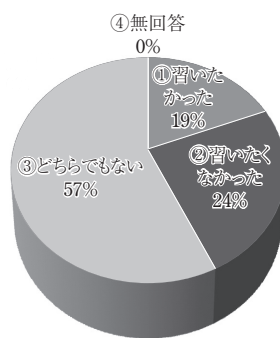
1.2.5.の質問で筆順を「③今まで習ったことはない」と回答した中学生に、筆順指導を受けなかったかどうかについて、3つの選択肢（「①習いたかった」「②習いたくなかった」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。小学生では、「③今まで習ったことはない」と回答した人数が少ないことから、実人数で結果を示したが、中学生では14%（61人）と比較的人数がいることから、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②5-1-3】【図②5-2-3】【図②5-3-3】のようになる。

【図②5-1-3】より、中学生全体では、「③どちらでもない」が57%で最も比率が高い。「③どちらでもない」が最も比率が高いということについては、小学生全体と同じである。しかし、中学生全体では、小学生全体で0%であった「①習いたかった」が20%見られる点で異なる。

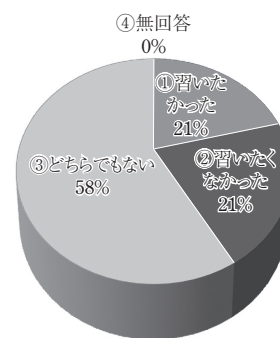
【図②5-2-3】【図②5-3-3】より、中学生男子・中学生女子ともに、中学生全体とほぼ同じ比率を示しており、性別による差はない。



【図②5-1-3】中学生全体



【図②5-2-3】中学生男子

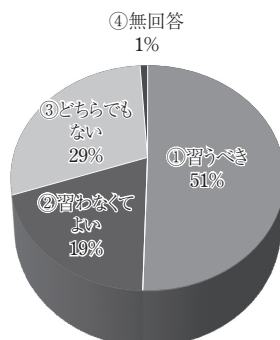


【図②5-3-3】中学生女子

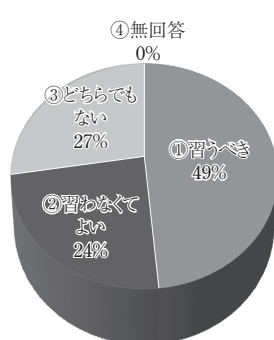
1.2.6. 筆順指導の必要性について

筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①習うべき」「②習わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②6-1】【図②6-2】【図②6-3】のようになる。

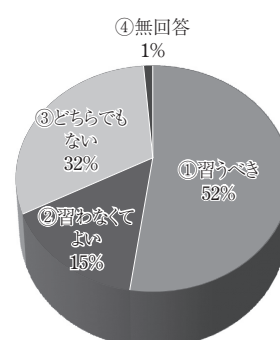
【図②6-1】より、中学生全体では、「①習うべき」の比率が51%と最も高く、中学生の半数が筆順指導を「習うべき」だと捉えている。しかし、中学生の「①習うべき」の比率は、小学生全体よりも29%低く、小学生よりも必要性を感じていない。



【図②6-1】中学生全体



【図②6-2】中学生男子



【図②6-3】中学生女子

【図②6-2】【図②6-3】より、中学生男子は、中学生女子より「②習わなくてよい」の比率がやや高い。中学生男子は、中学生女子よりも筆順指導の必要性を感じていないことがわかる。

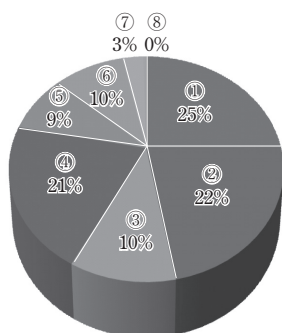
1.2.6.1. 筆順指導が必要である理由について

1.2.6. の質問で筆順を「①習うべき」と回答した中学生に、筆順指導が必要な理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③書き順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②6-1-1】【図②6-2-1】【図②6-3-1】のようになる。

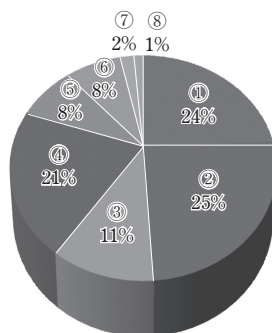
【図②6-1-1】より、中学生全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が25%で最も比率が高い。小学生全体では、2番目に比率が高い「②字が書きやすくなるから」から6番目に高い「③書き順を習うのはあたりまえだから」までそれほど大きな差はないが、中学生全体では、2・3番目の「②字が書きやすくなるから」「④テストなど問題に出るから」から4番目の「③書き順を習うのはあたりまえだから」との間にやや差がある。小学生たちは筆順指導が必要な理由を幅広く捉えているが、中学生たちはやや狭く捉えていることがわかる。

【図②6-2-1】【図②6-3-1】より、中学生男子・中学生女子ともに、中学生全体とほぼ同じ比率になっており、性別による差はない。

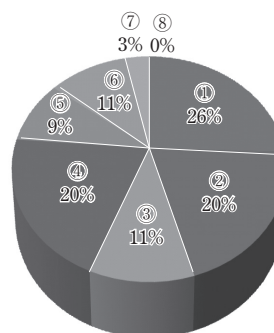
これら中学生全体・中学生男子・中学生女子の結果は、1.2.5.1.の「筆順指導を受ける理由」とほぼ同じ結果となっている。この点は、小学生の結果と同じであり、小学生・中学生ともに筆順指導を受ける理由と筆順指導を必要と考える理由とが共通している。



【図②6-1-1】中学生全体



【図②6-2-1】中学生男子



【図②6-3-1】中学生女子

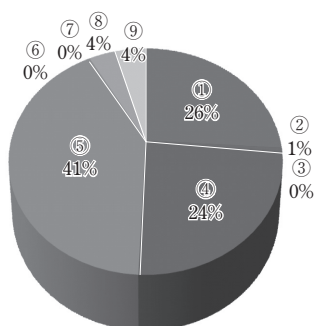
- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

1.2.6.2. 筆順指導に適切な時期について

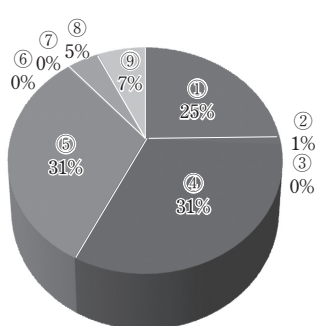
1.2.6.の質問で筆順を「①習うべき」と回答した中学生に、筆順指導として適切な時期について、8つの選択肢（「①小学校のあいだだけ」「②中学校のあいだだけ」「③高校のあいだだけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」「⑥小学校と高校」「⑦中学校と高校」「⑧その他」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②6-1-2】【図②6-2-2】【図②6-3-2】のようになる。

【図②6-1-2】より、中学生全体では、「⑤小学校と中学校」が41%で最も比率が高い。小学生全体では、「④小学校と中学校と高校」が46%で最も比率が高く、その次に「⑤小学校と中学校」の28%が続くが、中学生全体では、小学生全体と逆に「⑤小学校と中学校」の比率が41%、「④小学校と中学校と高校」の比率が24%となっており、小学生全体の方が長期間に渡って学習する必要があると感じていることがわかる。中学生全体の方が学習に必要と感じる期間が短くなっているのは、小学生たちと比べて学習内容・範囲が広がっていること、学ばなければならない漢字の数が増え、難しくなっていることが影響しており、筆順まで手が回っていないからと考えられる。詳しくは1.2.8.で述べるが、「漢字学習上の苦勞」を感じている比率が、小学生全体よりも中学生全体の方が高いことから、中学生たちは筆順まで学習する余裕がないことがわかる。

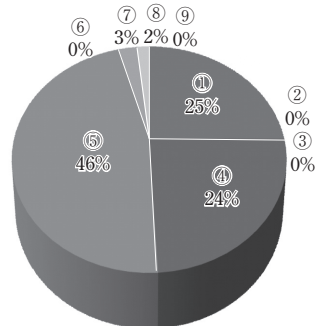
【図②6-2-2】【図②6-3-2】より、中学生男子の方が、中学生女子よりも「④小学校と中学校と高校」の比率が高く、「⑤小学校と中学校」の比率が低い。中学生男子の方が、中学生女子よりも長期間に渡って筆順指導を必要と感じていることがわかる。



【図②6-1-2】中学生全体



【図②6-2-2】中学生男子



【図②6-3-2】中学生女子

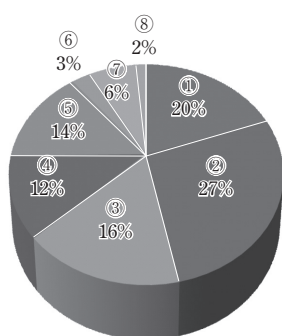
- ①小学校のあいだだけ
- ②中学校のあいだだけ
- ③高校のあいだだけ
- ④小学校と中学校と高校
- ⑤小学校と中学校
- ⑥小学校と高校
- ⑦中学校と高校
- ⑧その他
- ⑨無回答

1.2.6.3. 筆順指導が不必要である理由について

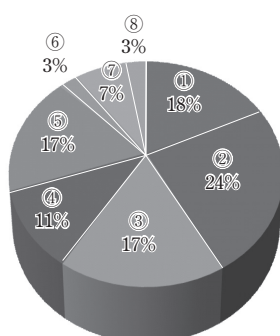
1.2.6.の質問で筆順指導を「②習わなくてよい」と回答した中学生に、筆順指導が必要でない理由について、7つの選択肢（「①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい順番で書いた方がよいから」「④書き順を覚えるのがたいへんだから」「⑤書き順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。小学生では、「②習わなくてよい」と回答した人数が少ないことから、実人数で結果を示したが、中学生では19%（84人）と比較的人数がいることから、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②6-1-3】【図②6-2-3】【図②6-3-3】のようになる。

【図②6-1-3】より、中学生全体では、「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」が27%で最も比率が高く、「字が書ける」ことが最も重視されている。また、2番目に比率が高いのが「①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから」、3番目に比率が高いのが「③書きやすい順番で書いた方がよいから」であり、中学生全体では、「きれいさ」「書きやすさ」に筆順は関係しないと捉えていることがわかる。

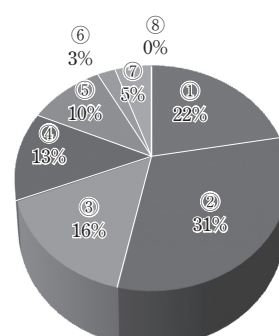
【図②6-2-3】【図②6-3-3】より、中学生女子は「②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから」の比率が中学生男子よりも高く、「字が書ける」ことが重視されていることがわかる。



【図②6-1-3】中学生全体



【図②6-2-3】中学生男子



【図②6-3-3】中学生女子

- ①書き順を知らなくても字がきれいに書けるから
- ②書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから
- ③書きやすい順番で書いた方がよいから
- ④書き順を覚えるのはたいへんだから
- ⑤書き順は自然に身につくものだから
- ⑥テストなどに出ることはないから
- ⑦その他
- ⑧無回答

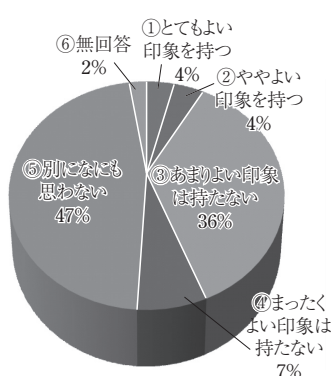
1.2.7. 他人の筆順について

学校で学ぶ筆順と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別にになにも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②

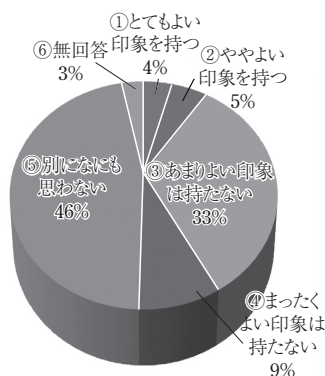
7-1】【図②7-2】【図②7-3】のようになる。

【図②7-1】より、中学生全体では、「⑤別ににも思わない」が47%で最も比率が高い。同様の傾向は、小学生全体においても見られ、「⑤別ににも思わない」が最も比率が高く、比率もほぼ同じである。その他の選択肢についても、小学生全体とほぼ同じ比率であり、中学生全体も小学生全体と同様に「別ににも思わない」と「よい印象を持たない」とが二分している。

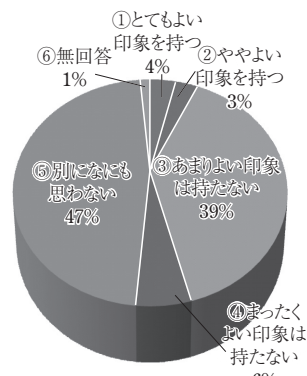
【図②7-2】【図②7-3】より、中学生男子・中学生女子ともに中学生全体とほぼ同じ比率となっており、性別による差はない。この点も、小学生男子・小学生女子と同様である。



【図②7-1】中学生全体



【図②7-2】中学生男子



【図②7-3】中学生女子

1.2.8. 漢字学習上での苦勞について

漢字学習上での苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を、中学生全体・中学生男子・中学生女子に分けて示すと、【図②8-1】【図②8-2】【図②8-3】のようになる。

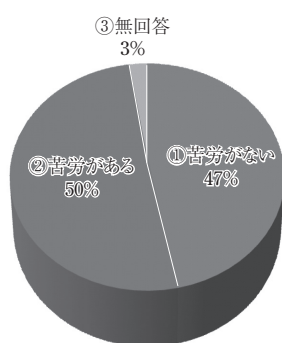
【図②8-1】より、中学生全体では、「②苦勞がある」の比率が50%で、「①苦勞がない」の比率（47%）をわずかではあるが上回っている。小学生全体では、「①苦勞がない」の比率が55%、「②苦勞がある」の比率が43%で、中学生全体の結果と逆になっている。1.2.6.2.で述べたように、中学生たちは小学生たちよりも漢字学習に苦勞している。

「②苦勞がある」の具体的な内容に関する記述を見ると、小学生全体と同様に、「たくさんの漢字を覚えなさいといけない」「なかなか漢字が覚えられない」「何回も書かないといけない（覚えられない）」「似た字が多くてなかなか覚えられない」「同じ字でもいくつかの読み方があるのがたいへん」などの回答が多く見られる。中学生たちも小学生たちと同様に、漢字を学習するにあたってなかなか覚えることができず、何回も何回も書いて覚えなければならないことに苦勞を感じている。「非常に労力を要する」漢字学習をいかに「労力の軽減」ができるかに苦心していることがわかる。

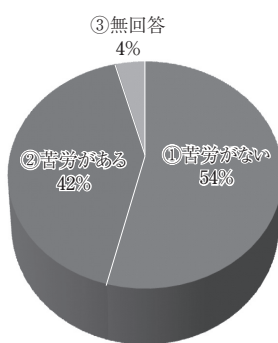
中学生全体では、「同音異義語（がたくさんあるので）を覚えるのがたいへん」「音読み・訓読みがあって覚えるのがたいへん」という回答も多く見られる。小学生よりも難度が上がる中学校での漢字学習にいかに対応するかという点においても、中学生は苦心している。さらに、中学生になると、学習する教科数も増え、国語（漢字学習）にあてられる時間も小学生の時と比べて減少する。学習内容が増え（学習範囲が広がり）、学習難度も上がる中で、中学生たち

は「非常に労力を要する」漢字学習に苦心しているのである。

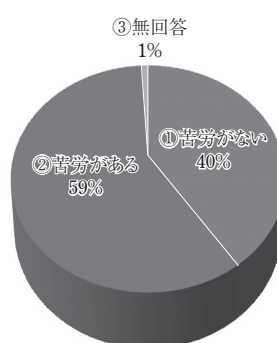
【図②8-2】【図②8-3】より、中学生女子は、「②苦労がある」の比率が59%で、中学生男子よりも17%高い（相対的に、「①苦労がない」の比率は、中学生男子の方が高い）。小学生においては、小学生女子よりも小学生男子の方が、「②苦労がある」の比率が高く、小学生男子は漢字学習に困難を感じていた。しかし、中学生では、中学生女子の方が中学生男子よりも「②苦労がある」の比率が高く、中学生女子の方が漢字学習に苦心している。「②苦労がある」の具体的な内容に関する記述を見ても、中学生女子の方が「苦労がある」と感じている。なぜ中学生で小学生と逆の結果となっているのか、現時点では不明である。今後の課題としたい。



【図②8-1】中学生全体



【図②8-2】中学生男子



【図②8-3】中学生女子

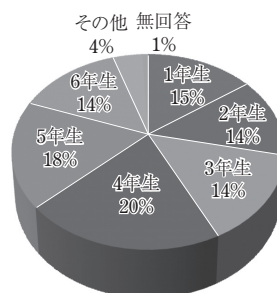
第2章 国語教育における漢字指導者の調査結果の分析

2.1. 小学校教員における調査結果の分析

2.1.1. 担当学年について

主に担当している学年について、その結果を示すと、【図③1】のようになる。なお、複数の学年を担当している場合は、「その他」とした。

【図③1】より、4年生・5年生担当の小学校教員の比率が他の学年よりやや高くなっているものの、1年生から6年生担当の小学校教員の比率はほぼ同じとなっている。



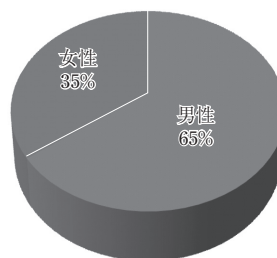
【図③1】小学校教員全体

2.1.2. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図③2】のようになる。

【図③2】より、男性の比率が65%、女性の比率が35%と、男性が女性よりも2倍近く高い。

ただし、小学校教員の結果については、専門教科別で見えていくため、性別に分けて見ていくことはしない（詳細は、2.1.4.で述べる）。

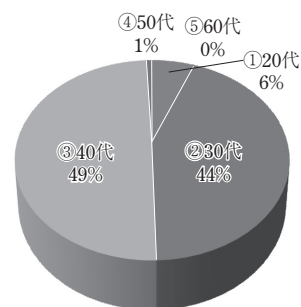


【図③2】小学校教員全体

2.1.3. 年代について

年代について、その結果を示すと、【図③3】のようになる。

【図③3】より、40代の比率が最も高く、次に30代が続いており、この2つの年代が90%以上を占めている。30・40代はクラス担任や学年主任など小学校において中心となる年代である。2.1.1.の「担当学年」でも各学年の比率がほぼ同じとなるのもこういう事情による。

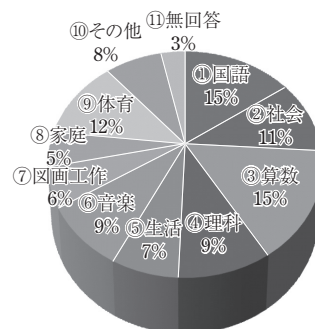


【図③3】 小学校教員全体

2.1.4. 専門教科について

主に担当している専門教科について、10の選択肢（「①国語」「②社会」「③算数」「④理科」「⑤生活」「⑥音楽」「⑦図画工作」「⑧家庭」「⑨体育」「⑩その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図③4】のようになる。

【図③4】より、「①国語」「③算数」が15%で最も比率が高い。「⑧家庭」が5%、「⑦図画工作」が6%とやや比率が低くなっているが、各教科幅広く担当している。



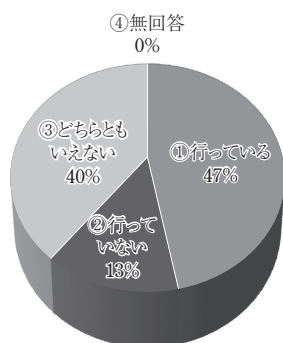
【図③4】 小学校教員全体

これより以降の結果については、専門教科別（「国語」（なお、「国語」を含め複数の教科を回答している場合も専門教科を「国語」とした）と「国語以外」）に分けて見ていくこととする。

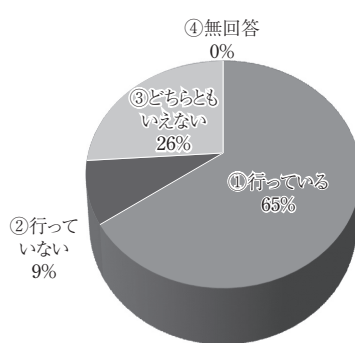
2.1.5. 漢字指導の有無について

漢字指導を積極的に行っているか、その有無について、3つの選択肢（「①行っている」「②行っていない」「③どちらともいえない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③5-1】【図③5-2】【図③5-3】のようになる。

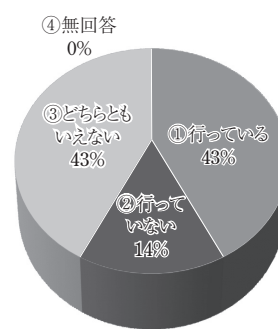
【図③5-1】より、小学校教員全体では、「①行っている」が47%と最も比率が高い。一方、「②行っていない」の比率は13%と低い。「③どちらともいえない」の比率が40%と比較的多いものの、半数近くが「①行っている」と回答していることから、小学校教員は漢字指導を積極的に行う傾向にあることがわかる。



【図③5-1】 小学校教員全体



【図③5-2】 小学校教員国語



【図③5-3】 小学校教員国語以外

【図③5-2】【図③5-3】より、小学校教員国語の方が、小学校教員国語以外よりも、「①行っている」の比率が22%高く、漢字指導を積極的に行っている。小学校において漢字の学習が「国語」で行われるという教科の特性をよく反映した結果となっている。

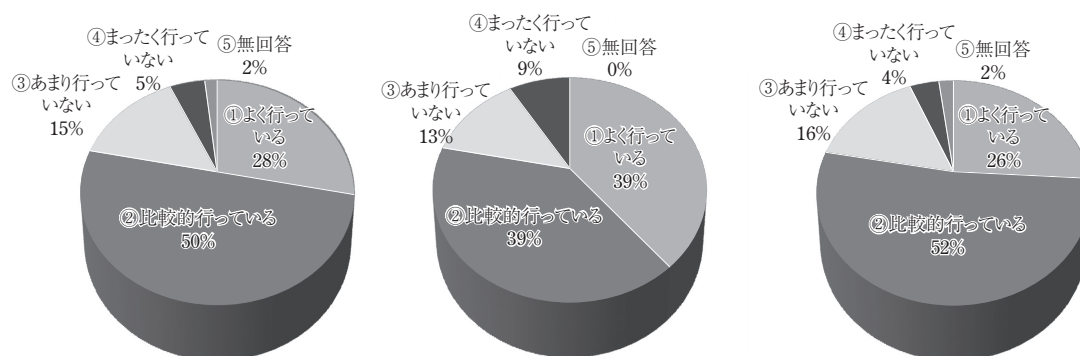
その他、小学校教員国語以外では、「②行っていない」の比率が14%で、小学校教員国語の9%とあまり差がない。しかし、「③どちらともいえない」の比率が「①行っている」の比率と同じであり、小学校教員国語と比較すると、漢字指導を行うのに消極的である。

2.1.6. 筆順指導の有無について

筆順指導を行っているか、その有無について、4つの選択肢（「①よく行っている」「②比較的行っている」「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③6-1】【図③6-2】【図③6-3】のようになる。

【図③6-1】より、小学校教員全体では、「①よく行っている」「②比較的行っている」を合わせた比率は78%で、大半の小学校教員が、筆順指導を行っている。筆順指導が小学校（特に低学年）でよく行われることが、津村幸恵・外田久美・宮澤正明・杉浦妙子・河合仁・塚本宏（1999）で指摘されているが、その指摘と同じ結果となっている。

【図③6-2】【図③6-3】より、「①よく行っている」「②比較的行っている」を合わせた比率は、小学校教員国語・小学校教員国語以外ともに78%で同じである。しかし、詳しく見ると、「①よく行っている」の比率は、小学校教員国語の方が小学校教員国語以外よりも13%高い。2.1.5.の「漢字指導の有無」で述べたように、漢字指導が「国語」という教科で行われることから、筆順指導においても小学校教員国語の方が積極的に行う傾向にあることがわかる。



【図③6-1】 小学校教員全体 【図③6-2】 小学校教員国語 【図③6-3】 小学校教員国語以外

2.1.6.1. 筆順指導を行う理由について

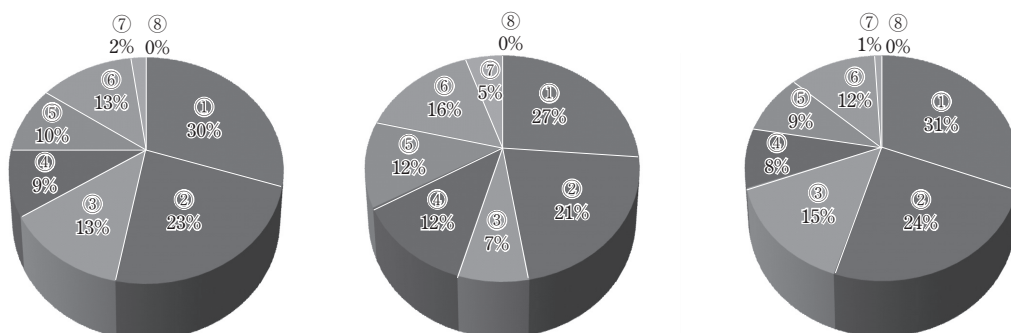
2.1.6.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した小学校教員に、筆順指導を行う理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③6-1-1】【図③6-2-1】【図③6-3-1】のようになる。

【図③6-1-1】より、小学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が30%

で最も比率が高い。2番目に高い比率を示しているのが、「②字が書きやすくなるから」で23%である。この結果は、小学生全体・中学生全体の結果と同じである。漢字を学習する側の小学生・中学生と漢字を指導する側の小学校教員とで同じ結果を示していることから、指導者のねらい（「筆順指導によって字がきれいに、また書きやすくなる」）が学習者によく伝わっていることがわかる。

【図③6-2-1】【図③6-3-1】より、小学校教員国語以外の方が、小学校教員国語よりも「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が高い。小学校教員国語は、比較的それぞれの選択肢の比率が近く、筆順指導を行う理由を幅広く捉えている。一方、小学校教員国語以外は、「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」の3つの選択肢の比率が高く、筆順指導を行う理由が比較的偏っている。

「③筆順を習うのはあたりまえだから」については、特徴的な結果となっている。小学校教員国語は、「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が小学校教員国語以外よりも8%低い。しかし、2.1.6.の「筆順指導の有無」で述べたように、筆順指導自体は小学校教員国語の方が積極的に行っている。小学校教員国語が、筆順指導を行う理由を幅広く捉えていることも合わせて考えると、小学校教員国語が、筆順指導を行うのは、単に「あたりまえ」ではなく、種々のねらい・効果があつてのことであることがわかる。それは、2.1.6.2.の「筆順指導を行つての変化」で、小学校教員国語に「何も変わらなかった」の比率が0%であることから言える。



【図③6-1-1】 小学校教員全体 【図③6-2-1】 小学校教員国語 【図③6-3-1】 小学校教員国語以外

- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

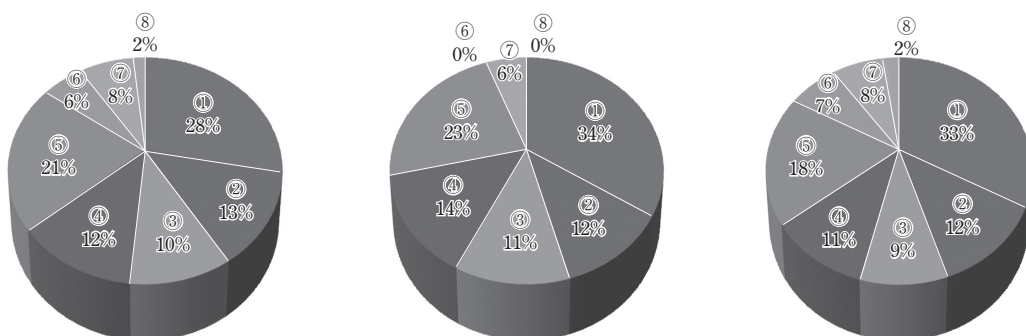
2.1.6.2. 筆順指導を行つての変化について

2.1.6.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した小学校教員に、筆順指導を行つて小学生にどのような変化があつたかについて、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字がはやく書けるようになった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字を覚えるようになった」「⑥

何も変わらなかった」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③6-1-2】【図③6-2-2】【図③6-3-2】のようになる。

【図③6-1-2】より、小学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになった」が28%で最も比率が高い。2.1.6.1.の「筆順指導を行う理由」で述べたように、筆順指導を行う理由としても「①字がきれいに書けるようになった」が最も高い比率を示しており、小学校教員のねらい通りの指導成果が得られたと捉えていることがわかる。

【図③6-2-2】【図③6-3-2】より、2.1.6.1.で述べたように、小学校教員国語以外で7%を示している「⑥何も変わらなかった」の比率が、小学校教員国語では0%となっている。小学校教員国語は、種々のねらいをもって筆順指導を行い、そのねらい通りの成果が出たと捉えている。その他の選択肢については、小学校教員国語・小学校教員国語以外ともに小学校教員全体とほぼ同じ比率となっており、専門教科による差はない。



【図③6-1-2】 小学校教員全体 【図③6-2-2】 小学校教員国語 【図③6-3-2】 小学校教員国語以外

- ①字がきれいに書けるようになった
- ②字がはやく書けるようになった
- ③テストなどで答えられるようになった
- ④字の成り立ちがわかるようになった
- ⑤字を覚えるようになった
- ⑥何も変わらなかった
- ⑦その他
- ⑧無回答

2.1.6.3. 筆順指導を行わない理由について

2.1.6.の質問で筆順指導を「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と回答した小学校教員に、筆順指導を行っていない理由について、7つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい筆順で書いた方がよいから」「④筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑤筆順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、2.1.6.で「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」の人数は8人（比率は20%）と非常に少ない。そこで、この質問の結果を、以下の【表6】のように、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて実人数で示す。

【表6】より、小学校教員全体では、「⑦その他」が13人と最も多くなっている。「⑦その他」の具体的な記述を見ると、「授業の中で筆順指導まで行う時間（余裕）がない」という回答が

大半であった。その他、「漢字ノートやドリルなど宿題等で児童が自主的に筆順を学習するようにしている」という回答（3人）もあるが、この回答からも「授業の中で筆順指導を行う時間（余裕）がない（そこで、授業外で児童が自主的に学習する）」ということがわかる。2.1.7.の「筆順指導の必要性」で「筆順指導を行うべき」の比率が90%近くあることから考えると、小学校教員が筆順指導を行いたいと考えていても、筆順以外に教えるべき内容が多くあるために実際の授業の中では筆順指導まで手が回っていないということがわかる。

【表6】筆順指導を行わなかった理由

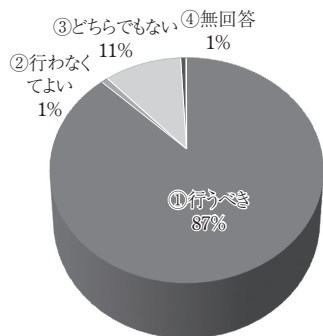
	全 体	国 語	国語以外
①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから	0人	0人	0人
②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから	0人	0人	0人
③書きやすい筆順で書いた方がよいから	0人	0人	0人
④筆順を覚えるのはたいへんだから	0人	0人	0人
⑤筆順は自然に身につくものだから	1人	1人	0人
⑥テストなどに出ることはないから	0人	0人	0人
⑦その他	13人	4人	9人
⑧無回答	0人	0人	0人

2.1.7. 筆順指導の必要性について

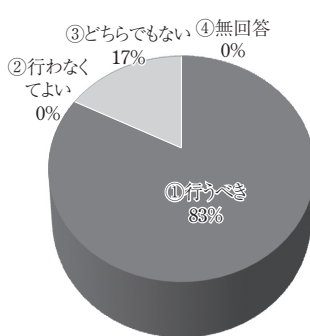
筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①行うべき」「②行わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③7-1】【図③7-2】【図③7-3】のようになる。

【図③7-1】より、小学校教員全体では、「①行うべき」の比率が87%で、大半小学校教員が「筆順指導が必要だ」と捉えている。

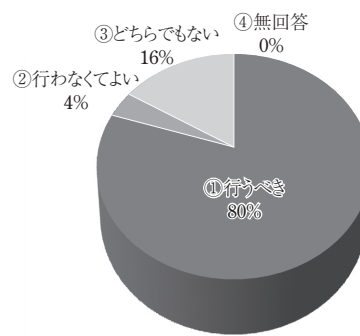
【図③7-2】【図③7-3】より、小学校教員国語の方が、小学校教員国語以外よりもやや「①行うべき」の比率が高くなっているが、ほぼ同じである。ただし、比率としては4%と非常にわずかであるが、小学校教員国語以外で「②行わなくてよい」という回答があるのに対して、小学校教員国語では「②行わなくてよい」という回答がなく、違いが見られる。



【図③7-1】小学校教員全体



【図③7-2】小学校教員国語



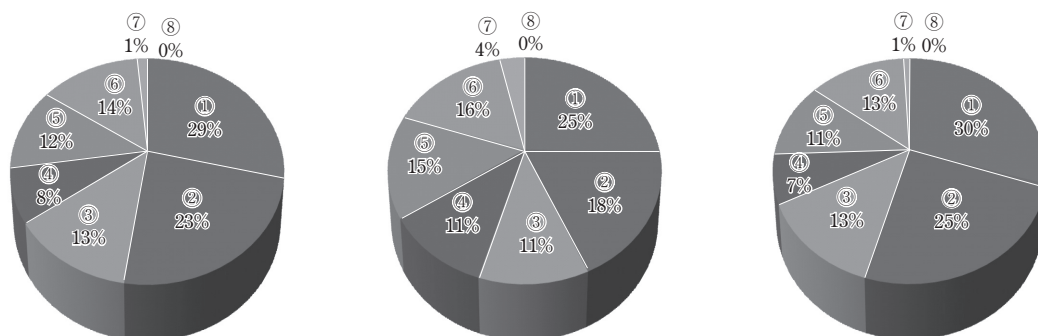
【図③7-3】小学校教員国語以外

2.1.7.1. 筆順指導が必要である理由について

2.1.7.の質問で筆順指導が「①行うべき」と回答した小学校教員に、筆順指導が必要な理由について、7つの選択肢(「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」)を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③7-1-1】【図③7-2-1】【図③7-3-1】のようになる。

【図③7-1-1】より、小学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が29%で最も比率が高く、「②字が書きやすくなるから」の23%が続く。この結果は、小学生全体・中学生全体及び2.1.6.1.の「筆順指導を行う理由」とも同じである。

【図③7-2-1】【図③7-3-1】より、小学校教員国語以外の方が、小学校教員国語よりも「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が高い。小学校教員国語は、比較的それぞれの選択肢の比率が近く、筆順指導が必要な理由を幅広く捉えているが、小学校教員国語以外は、「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」の3つの選択肢の比率が高く、筆順指導が必要な理由が比較的偏っている。この結果は、2.1.6.1.の「筆順指導を行う理由」と同じである。



【図③7-1-1】小学校教員全体 【図③7-2-1】小学校教員国語 【図③7-3-1】小学校教員国語以外

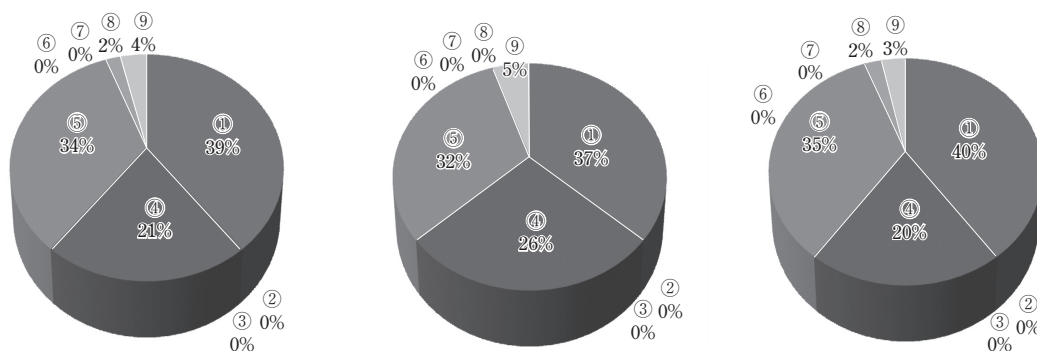
- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

2.1.7.2. 筆順指導に適切な時期について

2.1.7.の質問で筆順指導を「①行うべき」と回答した小学校教員に、筆順指導を行うのに適切な時期について、8つの選択肢(「①小学校の間だけ」「②中学校の間だけ」「③高校の間だけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」「⑥小学校と高校」「⑦中学校と高校」「⑧その他」)を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③7-1-2】【図③7-2-2】【図③7-3-2】のようになる。

【図③7-1-2】より、小学校教員全体では、「①小学校の間だけ」が39%で最も比率が高く、2番目が「⑤小学校と中学校」で34%、3番目が「④小学校と中学校と高校」で21%となっている。小学生では、半数近くの46%が「④小学校と中学校と高校」（「①小学校の間だけ」は15%）を回答していることから、長期間に渡って筆順指導を受ける必要性を感じているが、小学校教員全体では、「①小学校の間だけ」の比率が最も高く、それほど長期間でなくてもよいと捉えている。

【図③7-2-2】【図③7-3-2】より、小学校教員国語・小学校教員国語以外ともに小学校教員全体とほぼ同じ比率となっており、専門教科による差はない。



【図③7-1-2】小学校教員全体 【図③7-2-2】小学校教員国語 【図③7-3-2】小学校教員国語以外

- ①小学校の間だけ
- ②中学校の間だけ
- ③高校の間だけ
- ④小学校と中学校と高校
- ⑤小学校と中学校
- ⑥小学校と高校
- ⑦中学校と高校
- ⑧その他
- ⑨無回答

2.1.7.3. 筆順指導が不必要である理由について

2.1.7.の質問で筆順指導を「②行わなくてよい」と回答した小学校教員に、筆順指導が必要でない理由について、7つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい筆順で書いた方がよいから」「④筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑤筆順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、2.1.7.で「②行わなくてよい」と回答した小学校教員は1人（比率は1%）であり、その回答は「⑤筆順は自然に身につくものだから」だけであった。わずか1人の回答のため、これ以上のことは言えないが、筆順は指導するものではなく、自然に習得できるものと捉えている。

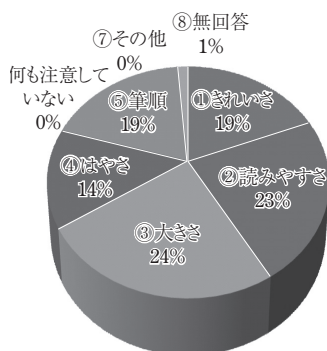
2.1.8. 漢字を書くときの注意点について

板書の際、漢字を書く上で注意している点について、7つの選択肢（「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順」「⑥何も注意していない」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小

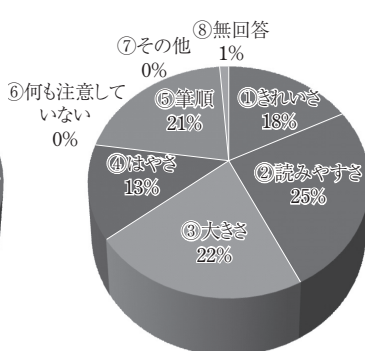
学校教員国語以外に分けて示すと、【図③8-1】【図③8-2】【図③8-3】のようになる。

【図③8-1】より、小学校教員全体では、「③大きさ」が24%で最も比率が高く、1%差で「②読みやすさ」の23%が続く。この結果は、漢字（筆順）を学ぶ側の小学生の結果と大きく違っている（小学生全体では、「④はやさ」「①きれいさ」「⑤筆順」の比率が高い）。小学校教員全体は、指導する側であることから、「③大きさ」や「②読みやすさ」を重視し、児童によって間違いなく正確に読める漢字を書こうとしていることがわかる。

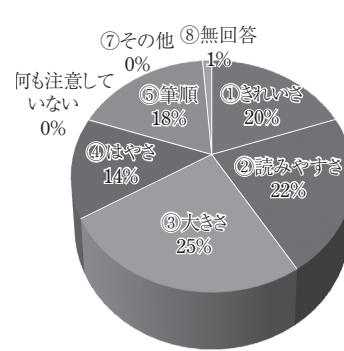
【図③8-2】【図③8-3】より、小学校教員国語・小学校教員国語以外ともに小学校教員全体とほぼ同じ比率となっており、専門教科による差はない。



【図③8-1】 小学校教員全体



【図③8-2】 小学校教員国語



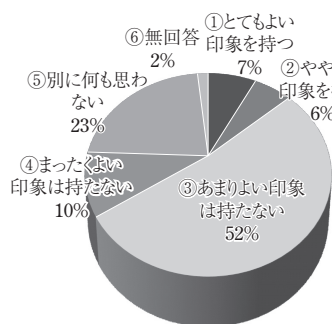
【図③8-3】 小学校教員国語以外

2.1.9. 他人の筆順について

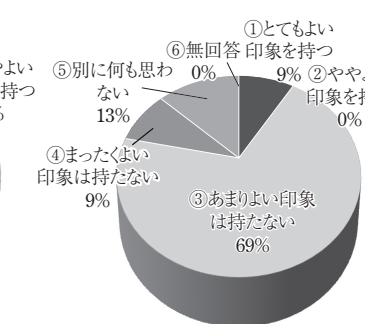
学校で学ぶ筆順と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③9-1】【図③9-2】【図③9-3】のようになる。

【図③9-1】より、小学校教員全体では、「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた比率が62%となっている。小学生全体では、「⑤別に何も思わない」が45%で半数近くを示していたが、小学校教員全体では23%で20%以上低い。小学生全体よりも小学校教員全体の方が他人の筆順に対して厳しいことがわかる。

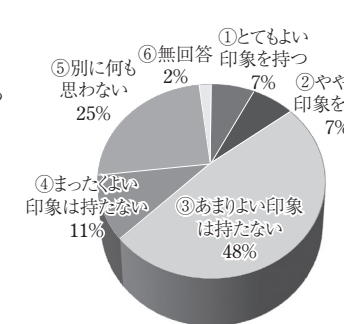
【図③9-2】【図③9-3】より、「④まったくよい印象は持たない」の比率はほぼ同じであるが、「③あまりよい印象は持たない」の比率が、小学校教員国語の方が小学校教員国語以外よりも



【図③9-1】 小学校教員全体



【図③9-2】 小学校教員国語



【図③9-3】 小学校教員国語以外

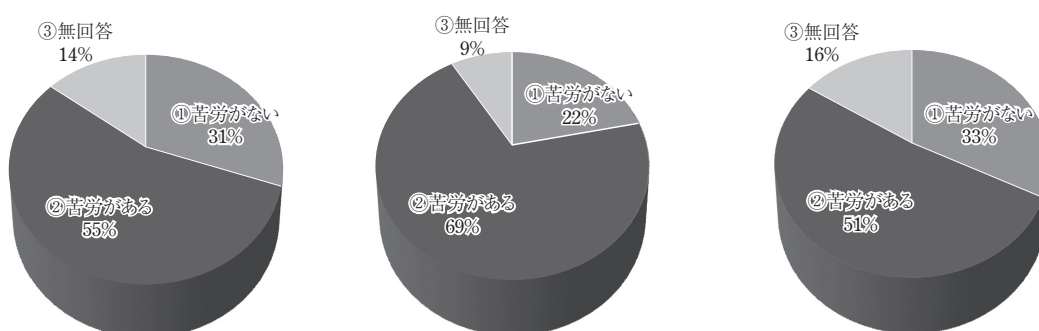
20%以上高くなっている。小学校教員国語の方が他人の筆順に対して厳しいことがわかる。

2.1.10. 漢字指導上の苦勞について

漢字指導上の苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③10-1】【図③10-2】【図③10-3】のようになる。

【図③10-1】より、小学校教員全体では、「②苦勞がある」の比率が55%となっており、半数以上の小学校教員が漢字指導上で何らかの問題を抱えていることがわかる。「②苦勞がある」と回答したその具体的な記述を見ると、「なかなか定着しない」「定着度・習熟度の個人差が大きい」「漢字指導にあてられる時間がない（少ない）」などの回答が多く見られる。学年があがればあがるほど、学習内容・範囲が広がり、指導する側の小学校教員にとって漢字指導にあてられる時間が少なくなり、徹底した指導を行うことが難しくなる。その他、筆順に関する回答として、「自分自身筆順を知らない（自分が学んだ時と筆順が違う）」ので、筆順指導ができない」という回答も見られた。

【図③10-2】【図③10-3】より、小学校教員国語の方が、小学校教員国語以外よりも「②苦勞がある」の比率が高い。2.1.6.1.の「筆順指導を行う理由」で述べたように、小学校教員国語は、漢字（筆順）指導において、明確なねらいを持ち、高い効果を求めていることもあり、それらを達成・向上させようと苦心していることがわかる。



【図③10-1】 小学校教員全体 【図③10-2】 小学校教員国語 【図③10-3】 小学校教員国語以外

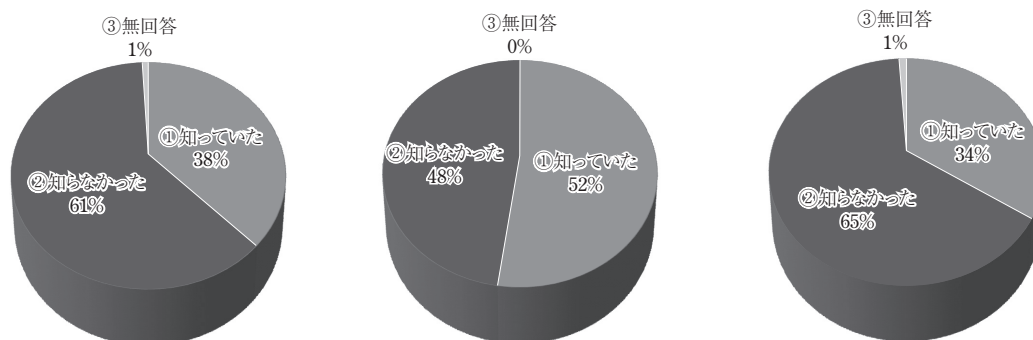
2.1.11. 『筆順指導の手びき』の認知について

現在、筆順指導の基準となっている『筆順指導の手びき』（昭和33（1958）年、文部省）を知っているかどうか（そこで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対的なものではないということ）について、2つの選択肢（「①知っていた」「②知らなかった」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③11-1】【図③11-2】【図③11-3】のようになる。

【図③11-1】より、小学校教員全体では、「①知っていた」の比率が38%、「②知らなかった」の比率が61%で、半数以上の小学校教員が知らない。現在、学校教育、特に小学校教育において、筆順指導があたかも絶対的なものとなっているのは、現在の筆順指導の基準となっている『筆順指導の手びき』のこと（そこで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対的なものではないということ）を知らないこと、つまり小学校教員の認識不足が原因となっていると

考えられる。詳しくは、2.1.11.1.の『筆順指導の手びき』認知後の変化』で述べるが、認知後に心境の変化があった小学校教員の大半が、「(現在教えている)筆順は、一つの指針に過ぎないのだから、強制的に教える必要はないと思うようになった」と回答しており、『筆順指導の手びき』の認知が、筆順指導の在り方に大きく関与している。

【図③11-1】【図③11-2】より、小学校教員国語の「①知っていた」の比率は52%で半数を超えており、小学校教育国語以外と比較して20%近く高い。小学校教員国語は、専門教科为国語としていることもあり、小学校教員国語以外よりも漢字に関する知識があることがわかる。



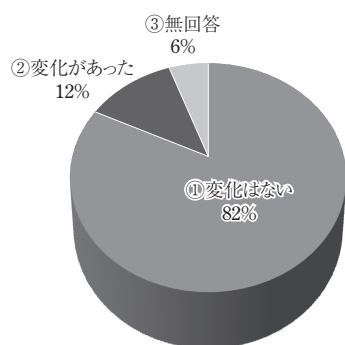
【図③11-1】 小学校教員全体 【図③11-2】 小学校教員国語 【図③11-3】 小学校教員国語以外

2.1.11.1. 『筆順指導の手びき』認知後の変化について

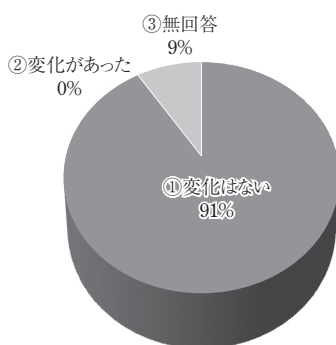
2.1.11.で『筆順指導の手びき』を「②知らなかった」と回答した小学校教員に、『筆順指導の手びき』が「現在の筆順の基準になっているということ」「そこで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対なものではないということ」を知って、心境の変化があったかどうかについて、2つの選択肢（「①変化はない」「②変化があった」）を設け、尋ねた。その結果を、小学校教員全体・小学校教員国語・小学校教員国語以外に分けて示すと、【図③11-1-1】【図③11-2-1】【図③11-3-1】のようになる。

【図③11-1-1】より、小学校教員全体では、「①変化はない」の比率が82%で、大半の小学校教員に変化がなかったことがわかる。

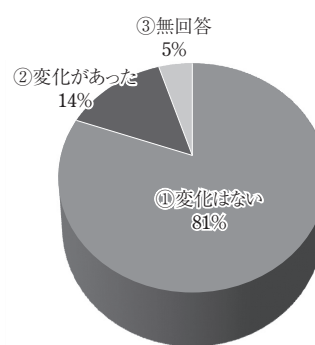
【図③11-2-1】【図③11-3-1】より、小学校教員国語の方が、小学校教員国語以外よりも「①変化はない」の比率が高く、また「②変化があった」の比率が0%であることから、認知後の心境に変化がなかったことがわかる。しかし、小学校教員国語以外では、比率としてはそれほど高くないものの、小学校教員国語で0%であった「②変化があった」が14%を示している。心境の変化についての具体的な記述を見ると、大半が「(現在教えている)筆順は、一つの指針に過ぎないのだから、強制的に教える必要はないと思うようになった」という回答であった。確かに、小学校教員国語のように、『筆順指導の手びき』を認知しても何も変わらない可能性もある。しかし、2.1.11.の「『筆順指導の手びき』の認知について」でも述べたように、『筆順指導の手びき』について認知していれば、筆順指導を行うか、また行うとすればどのように行うかなど筆順指導の在り方に対する認識が変わってくる可能性を秘めている。あたかも絶対的な規範として認識されている現在の筆順指導の在り方について考え直すためには、まずは『筆順指導の手びき』のことを認知する必要があると考えられる。



【図③11-1-1】小学校教員全体



【図③11-2-1】小学校教員国語



【図③11-3-1】小学校教員国語以外

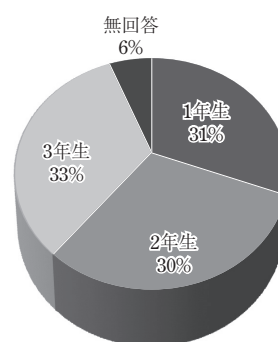
2.2. 中学校教員における調査結果の分析

2.2.1. 担当学年について

主に担当している学年について、その結果を示すと、【図④1】のようになる。

【図④1】より、1年生から3年生がほぼ同じ比率となっている。

ただし、中学校教員の結果については、専門教科別で見えていくため、担当学年別に分けて見ていくことはしない（詳細は、2.2.4.で述べる）。



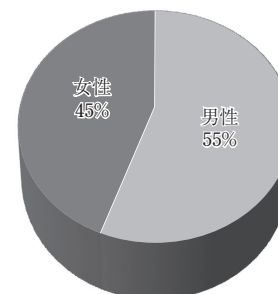
【図④1】中学校教員全体

2.2.2. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図④2】のようになる。

【図④2】より、男性の比率が55%、女性の比率が45%と、男性が女性より10%高くなっている。

ただし、中学校教員の結果については、専門教科別で見えていくため、性別に分けて見ていくことはしない（詳細は、2.2.4.で述べる）。

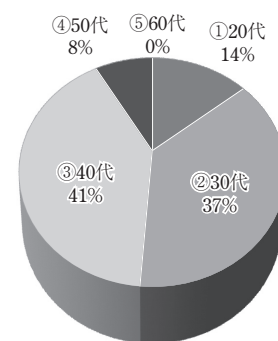


【図④2】中学校教員全体

2.2.3. 年代について

年代について、その結果を示すと、【図④3】のようになる。

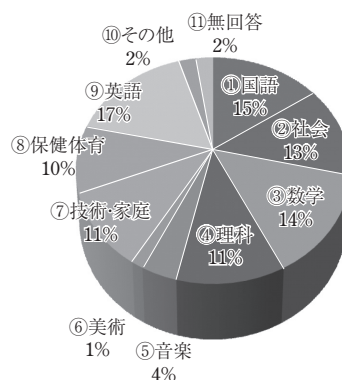
【図④3】より、40代の比率が最も高く、次に30代が続き、この2つの年代で80%近くを占めている。30・40代が大半を占めるという点は小学校教員と同じで、この年代が学校の中心となっているからである。小学校教員と同様に、中学校教員でも「担当学年」で各学年の比率がほぼ同じとなっていることからわかる。



【図④3】中学校教員全体

2.2.4. 専門教科について

主に担当している専門教科について、10の選択肢（「①国語」「②社会」「③数学」「④理科」「⑤音楽」「⑥美術」「⑦技術・家庭」「⑧保健体育」「⑨英語」「⑩その他」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図④4】のようになる。なお、中学校教員では、専門教科を複数回答したものはなかった。



【図④4】 中学校教員全体

【図④4】より、「⑨英語」が17%で最も比率が高い。その次に「①国語」が15%で続く。「⑤音楽」が4%、「⑥美術」が1%と比率が低いが、それ以外の教科については、それぞれ10%以上の比率を示し、専門教科が幅広くなっていることがわかる。

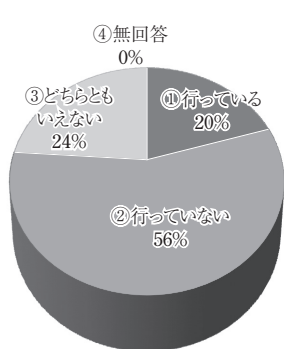
「国語」を専門教科とする中学校教員の人数は決して多くないため、偏った傾向を示す可能性もあるが、これより以降の結果については、専門教科別（「国語」と「国語以外」）に分けて見ていくこととする。

2.2.5. 漢字指導の有無について

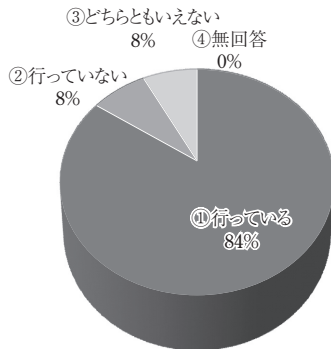
漢字指導を積極的に行っているか、その有無について、3つの選択肢（「①行っている」「②行っていない」「③どちらともいえない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④5-1】【図④5-2】【図④5-3】のようになる。

【図④5-1】より、中学校教員全体では、「①行っている」の比率が20%、「②行っていない」の比率が56%と、半数以上が漢字指導を積極的に行っていない。小学校教員全体では、半数近くが「①行っている」と回答しており、中学校教員全体とは逆の結果を示している。小学校教員は、基本的にすべての教科を教えることから、どの教員も「国語」を担当する。そのため、多くの小学校教員は、「国語」の中で漢字指導を行っている。また、小学校では、「国語」以外でも、クラス担任を受け持った際に文字指導として漢字指導を行うことも多い。一方、中学校教員は、基本的に専門教科による指導を行うため、「国語」以外の専門教科の教員は漢字指導を行うことが非常に少ない。それは、後述する専門教科別の結果からもわかる。

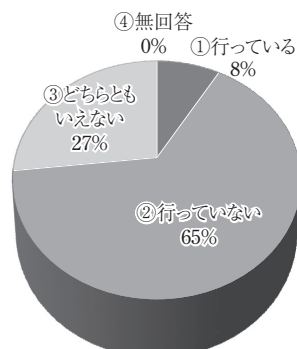
【図④5-2】【図④5-3】より、中学校教員国語では、「①行っている」の比率が84%と非常に



【図④5-1】 中学校教員全体



【図④5-2】 中学校教員国語



【図④5-3】 中学校教員国語以外

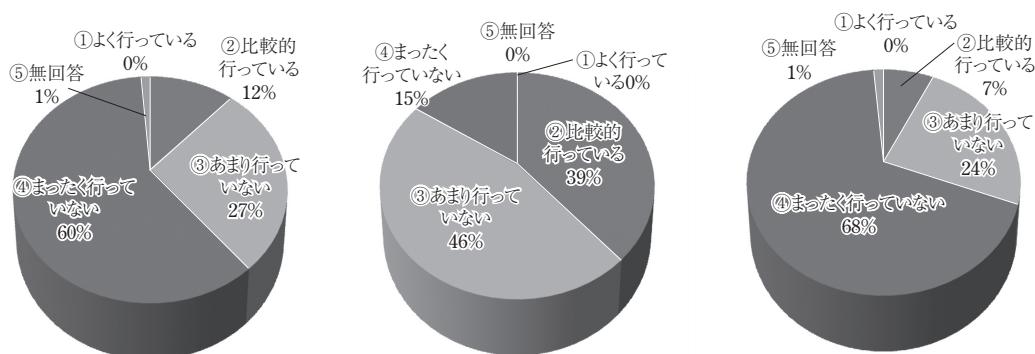
高いのに対して、中学校教員国語以外では、「②行っていない」の比率が65%と高く、逆の結果を示している。上述したように、中学校では基本的に専門教科による指導を行うため、「国語」以外の教科を専門教科とする教員は、漢字指導を積極的に行っていないということである。

2.2.6. 筆順指導の有無について

筆順指導を行っているか、その有無について、4つの選択肢（「①よく行っている」「②比較的に行っている」「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④6-1】【図④6-2】【図④6-3】のようになる。

【図④6-1】より、中学校教員全体では、「③あまり行っていない」と「④まったく行っていない」を合わせた比率が87%で、大半の中学校教員が筆順指導を行っていない。一方、中学校教員全体で「①行っている」の比率は12%となっている。この12%という比率は、2.2.5.の「漢字指導の有無」で積極的に行っていると回答した比率（20%）よりも低い。単純に比較することはできないが、中学校では漢字指導において筆順指導があまり重視されていないことがわかる。

【図④6-2】【図④6-3】より、中学校教員国語と中学校教員国語以外とで大きく結果が異なっていることがわかる。中学校教員国語では、「②比較的に行っている」の比率が39%で、40%近くが筆順指導を行っているが、中学校教員国語以外では、「②比較的に行っている」の比率が7%で中学校教員国語より30%以上も低い。また、中学校教員国語以外では、「③あまり行っていない」と「④まったく行っていない」を合わせた比率が92%で大半を占めている。専門教科の違いによる差が非常に大きいことがわかる。



【図④6-1】 中学校教員全体 【図④6-2】 中学校教員国語 【図④6-3】 中学校教員国語以外

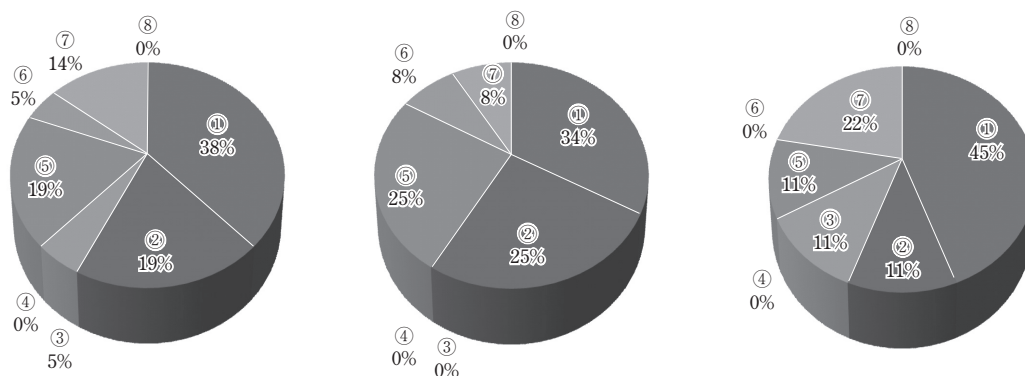
2.2.6.1. 筆順指導を行う理由について

2.2.6.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的に行っている」と回答した中学校教員に、筆順指導を行う理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④6-1-1】【図④6-2-1】【図④6-3-1】のようになる。

【図④6-1-1】より、中学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が38%

で最も比率が高い。2番目に高い比率を示しているのが、「②字が書きやすくなるから」「⑤字の成り立ちがわかるから」で19%である。「①字がきれいに書けるようになるから」の比率が最も高く、その次に「②字が書きやすくなるから」が続くという結果は、小学生全体・中学生全体・小学校教員全体の結果と同じである。漢字を学習する側の小学生・中学生と漢字を指導する側の小学校教員・中学校教員とが同じ結果を示しており、小学校・中学校ともに、指導者のねらいが学習者によく伝わっていることがわかる。

【図④6-2-1】【図④6-3-1】より、中学校教員国語以外の方が、中学校教員国語よりも「①字がきれいに書けるようになるから」の比率が高い。また、中学校教員国語では、比率が0%の「③筆順を習うのはあたりまえだから」が、中学校教員国語以外では、11%となっている。専門教科を国語とする教員の方が、「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が低いということについては、小学校教員の結果と同じである。小学校教員と同様に、専門教科が国語以外の教員は、筆順指導を「あたりまえ」と捉える傾向があるのに対して、専門教科が国語の教員は、筆順指導は「あたりまえ」ではなく、筆順指導を行うにあたって種々のねらい・効果があると捉える傾向にあることがわかる。



【図④6-1-1】中学校教員全体 【図④6-2-1】中学校教員国語 【図④6-3-1】中学校教員国語以外

- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

2.2.6.2. 筆順指導を行っての変化について

2.2.6.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した中学校教員に、筆順指導を行って中学生にどのような変化があったかについて、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字がはやく書けるようになった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字を覚えるようになった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、2.2.6.で「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した人数は10人（比率は12%）と非常に少ない。そこで、この質問の結果を、以下の【表7】のように、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校

教員国語以外に分けて実人数で示す。

【表7】より、中学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」が3人で最も多い。「⑦その他」を回答した3人の記述を見ると、「筆順の合理性を理解するようになった」「文字一つ一つに、奥深さがあるのだということを少しは意識し感じてくれた生徒が増えたのでは」「文字を大切にできるようになったかもしれない」とある。何らかの効果が上がったという回答が大半であるが、その一方で「⑥何も変わらなかった」という回答も見られる。

「⑥何も変わらなかった」という回答は、すべて中学校教員国語以外の回答であり、中学校教員国語では見られない。「⑥何も変わらなかった」が専門教科を国語とする教員に見られないということについては、小学校教員の結果と同じである。小学校教員と同様に、専門教科が国語の教員は、筆順指導には種々のねらいを持っており、指導することでそのねらい通りの効果が得られたと捉える傾向があるのに対して、専門教科が国語以外の教員は、筆順指導を行ったが効果が得られなかったと捉える傾向にあることがわかる。

【表7】筆順指導を行っての変化

	全 体	国 語	国語以外
①字がきれいに書けるようになった	3人	2人	1人
②字がはやく書けるようになった	1人	1人	0人
③テストなどで答えられるようになった	2人	2人	0人
④字の成り立ちがわかるようになった	0人	0人	0人
⑤字を覚えるようになった	0人	0人	0人
⑥何も変わらなかった	3人	0人	3人
⑦その他	3人	2人	1人
⑧無回答	0人	0人	0人

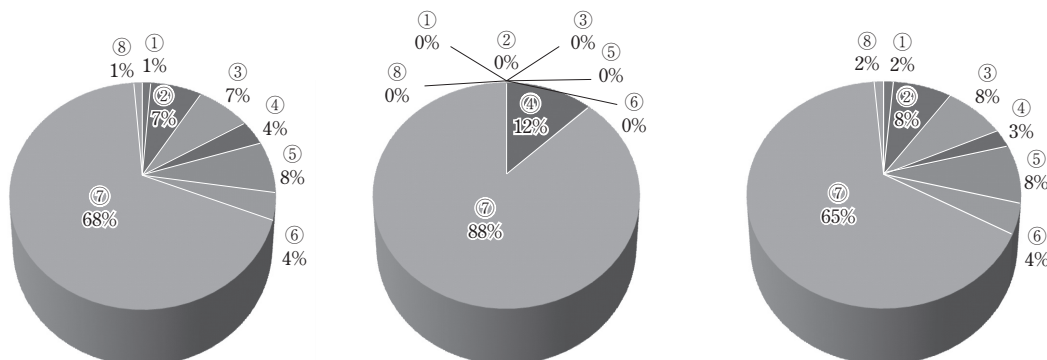
2.2.6.3. 筆順指導を行わない理由について

2.2.6.の質問で筆順指導を「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と回答した中学校教員に、筆順指導を行っていない理由について、7つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい筆順で書いた方がよいから」「④筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑤筆順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④6-1-3】【図④6-2-3】【図④6-3-3】のようになる。

【図④6-1-3】より、中学校教員全体では、「⑦その他」の比率が最も高く68%である。それらの具体的な記述を見ると、「筆順指導まで行う時間がない」という回答が最も多い。中学校では小学校と比べて学習内容・範囲が広がっているために、筆順指導まで行う時間的余裕がないということがわかる。また、「自分の筆順に自信がない」という回答もいくつか見られ、指導する側自体に基準となる指針がないために筆順指導を行っていない（行えない）ことがわかる。

【図④6-2-3】【図④6-3-3】より、中学校教員国語の方が、中学校教員国語以外よりも、「⑦その他」の比率が高い。それらの具体的な記述を見ると、中学校教員国語以外では、「国語科

ではないので、教科教育の中で教えること（必要）がない」という回答が多く見られる。また、中学校教員国語以外では、「筆順は、国語科や小学校で学んでいるはずだから」という回答も見られる。専門教科が国語以外の教員にとって、「筆順指導（漢字指導）は、『国語』（小学校のうちに）が行うもので、それ以外の教科では行う必要ない」と捉えていることがわかる。



【図④6-1-3】中学校教員全体 【図④6-2-3】中学校教員国語 【図④6-3-3】中学校教員国語以外

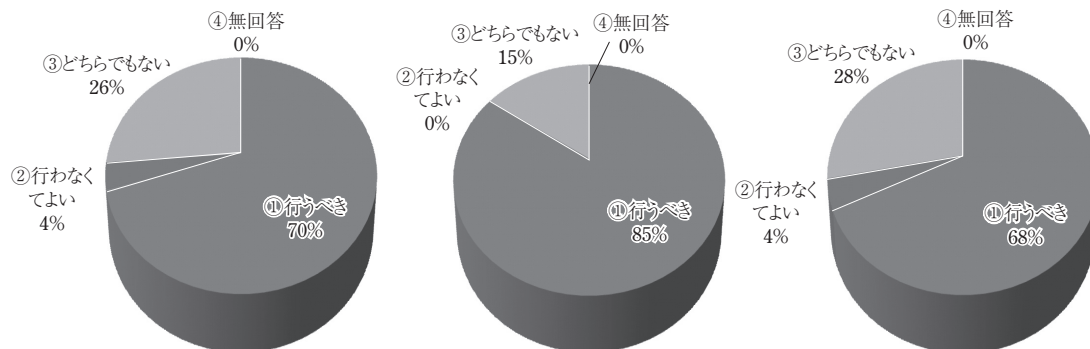
- ①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから
- ②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから
- ③書きやすい筆順で書いた方がよいから
- ④筆順を覚えるのはたいへんだから
- ⑤筆順は自然に身につくものだから
- ⑥テストなどに出ることはないから
- ⑦その他
- ⑧無回答

2.2.7. 筆順指導の必要性について

筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①行うべき」「②行わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④7-1】【図④7-2】【図④7-3】のようになる。

【図④7-1】より、中学校教員全体では、「①行うべき」の比率が70%を示している。小学校教員全体と比べると、「①行うべき」の比率が20%近く低いですが、半数以上の中学校教員が「筆順指導が必要だ」と捉えている。

【図④7-2】【図④7-3】より、中学校教員国語の方が、中学校教員国語以外よりも「①行う



【図④7-1】中学校教員全体 【図④7-2】中学校教員国語 【図④7-3】中学校教員国語以外

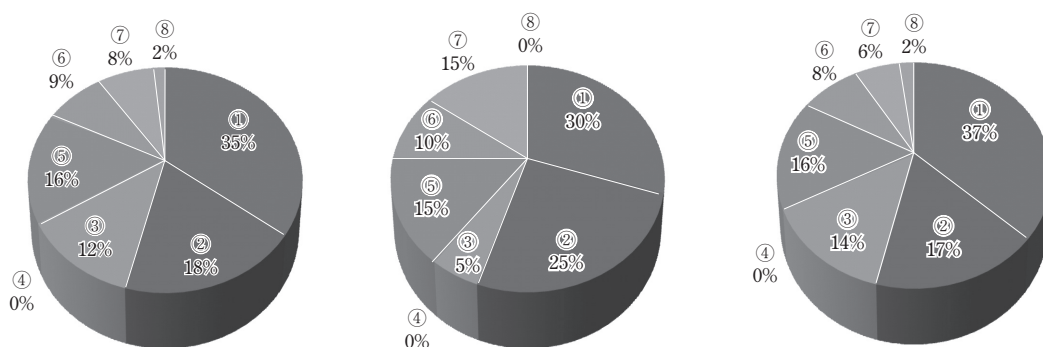
べき」の比率が高い。小学校教員では、小学校教員国語・小学校教員国語以外がほぼ同じ比率となっているが、中学校教員の結果と異なる。ただし、専門教科が国語の教員で「②行わなくてよい」という回答が見られないということについては、小学校教員と同じである。小学校教員・中学校教員ともに専門教科が国語の教員は、筆順指導を重要なものと捉えているということである。

2.2.7.1. 筆順指導が必要である理由について

2.2.7.の質問で筆順指導は「①行うべき」と回答した中学校教員に、筆順指導が必要な理由について、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字の成り立ちがわかるから」「⑥字が覚えやすくなるから」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④7-1-1】【図④7-2-1】【図④7-3-1】のようになる。

【図④7-1-1】より、中学校教員全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が35%で最も比率が高く、その次に「②字が書きやすくなるから」の18%が続く。この結果は、小学生・中学生・小学校教員及び2.2.6.1.の「筆順指導を行う理由」と同じである。国語教育において、校種や立場にかかわらず、共通した傾向が見られる。

【図④7-2-1】【図④7-3-1】より、中学校教員国語以外の方が、中学校教員国語よりも「①字がきれいに書けるようになるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が高い。一部異なるところもあるが、この結果は、小学校教員の結果とほぼ同じである。「③筆順を習うのはあたりまえだから」の比率が中学校教員国語以外の方が高いということについては、2.2.6.1.の「筆順指導を行う理由」及び小学校教員の結果と同じである。小学校教員と同様に、専門教科が国語以外の教員は、筆順指導を「あたりまえ」と捉える傾向があるのに対して、専



【図④7-1-1】中学校教員全体 【図④7-2-1】中学校教員国語 【図④7-3-1】中学校教員国語以外

- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字の成り立ちがわかるから
- ⑥字が覚えやすくなるから
- ⑦その他
- ⑧無回答

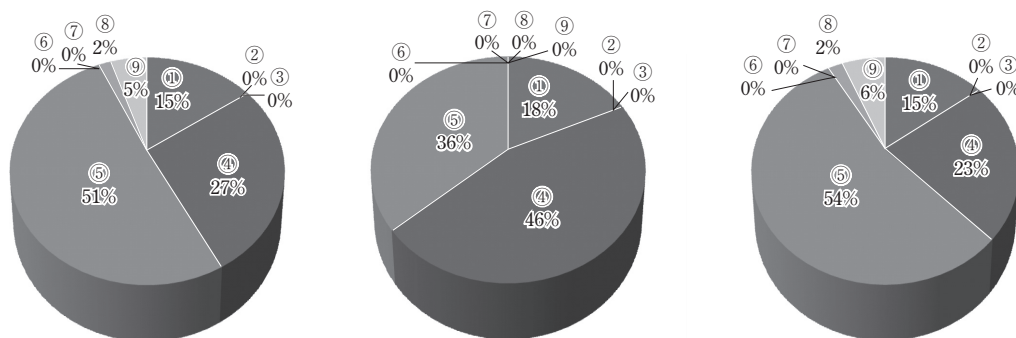
門教科が国語の教員は、筆順指導は「あたりまえ」ではなく、筆順指導には種々のねらい・効果があると捉える傾向にあることがわかる。

2.2.7.2. 筆順指導に適切な時期について

2.2.7.の質問で筆順指導が「①行うべき」と回答した中学校教員に、筆順指導を行うのに適切な時期について、8つの選択肢（「①小学校の間だけ」「②中学校の間だけ」「③高校の間だけ」「④小学校と中学校と高校」「⑤小学校と中学校」「⑥小学校と高校」「⑦中学校と高校」「⑧その他」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④7-1-2】【図④7-2-2】【図④7-3-2】のようになる。

【図④7-1-2】より、中学校教員全体では、「⑤小学校と中学校」が51%で最も比率が高い。小学校教員全体では、「①小学校の間だけ」が39%で最も比率が高く、その次に34%の「⑤小学校と中学校」が続いていたが、中学校教員全体では、「①小学校の間だけ」が15%で、「⑤小学校と中学校」が半数以上を占めている。中学校教員全体の方が小学校教員全体よりも、長期間に渡って筆順指導が必要だと捉えており、中学生たちの筆順を問題視している教員が多いということがわかる。

【図④7-2-2】【図④7-3-2】より、中学生教員国語の「④小学校と中学校と高校」の比率が、中学校教員国語以外の2倍となっている。中学校教員国語は、中学生たちの筆順を問題視しており、長期間に渡って筆順指導を行うことが必要だと捉えている。



【図④7-1-2】中学校教員全体 【図④7-2-2】中学校教員国語 【図④7-3-2】中学校教員国語以外

- ①小学校の間だけ
- ②中学校の間だけ
- ③高校の間だけ
- ④小学校と中学校と高校
- ⑤小学校と中学校
- ⑥小学校と高校
- ⑦中学校と高校
- ⑧その他
- ⑨無回答

2.2.7.3. 筆順指導が不必要である理由について

2.2.7.の質問で筆順指導を「②行わなくてよい」と回答した中学校教員に、筆順指導が必要でない理由について、7つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③書きやすい筆順で書いた方がよいから」「④

筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑤筆順は自然に身につくものだから」「⑥テストなどに出ることはないから」「⑦その他」を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、2.2.7.で「②行わなくてよい」と回答した中学校教員は3人(比率は4%)で、すべて中学校教員国語以外であった。それらを見ると、次の4つの選択肢で、回答数はそれぞれ1人であった。

- ①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから
- ②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから
- ③書きやすい筆順で書いた方がよいから
- ⑦その他 (必要ならば国語の授業でやるべき。他教科は漢字の筆順よりも重点をおくべきことがたくさんあるので。)

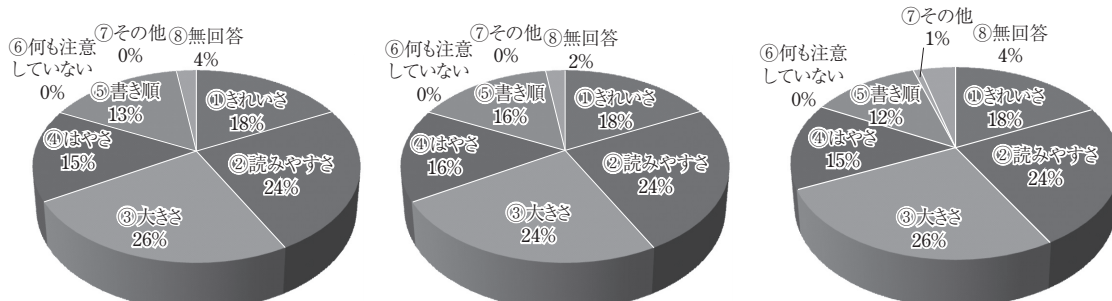
筆順指導を「②行わなくてよい」という回答自体が少ないため、詳しいことは言えないが、「⑦その他 (必要ならば国語の授業でやるべき。他教科は漢字の筆順よりも重点をおくべきことがたくさんあるので。)」という回答から、2.2.5.の「漢字指導の有無」、2.2.6.の「筆順指導の有無」などで述べてきたように、筆順は「国語」で指導するものであり、「国語」以外の教科では指導する必要がないと捉えていることがわかる。

2.2.8. 漢字を書くときの注意点について

板書の際、漢字を書く上で注意している点について、7つの選択肢(「①きれいさ(美しさ)」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ(スピード)」「⑤書き順」「⑥何も注意していない」「⑦その他」)を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④8-1】【図④8-2】【図④8-3】のようになる。

【図④8-1】より、中学校教員全体では、「③大きさ」が26%で最も比率が高く、2%差で「②読みやすさ」の24%が続く。この結果は、小学校教員全体と同じである。中学校教員全体も小学校教員全体と同じように、生徒にとって間違いなく正確に読める漢字を書こうとしていることがわかる。また、中学校教員全体では、「⑥何も注意していない」の比率は0%である。この点も、小学校教員全体の結果と同じである。中学校教員は、小学校教員と同様に、板書する際、何かしらのことに注意しながら文字を書いていることがわかる。

【図④8-2】【図④8-3】より、中学校教員国語・中学校教員国語以外ともに中学校教員全体とほぼ同じ比率となっており、専門教科による差はない。



【図④8-1】 中学校教員全体

【図④8-2】 中学校教員国語

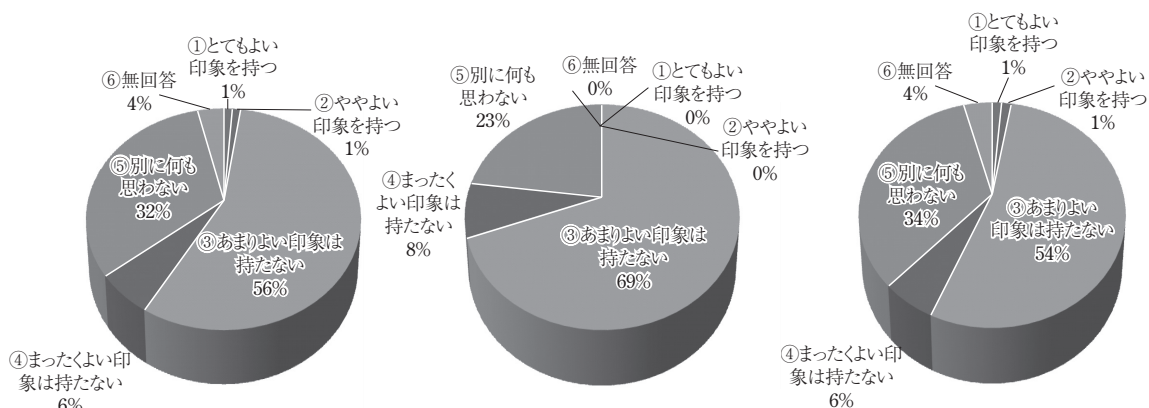
【図④8-3】 中学校教員国語以外

2.2.9. 他人の筆順について

学校で学ぶ筆順と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④9-1】【図④9-2】【図④9-3】のようになる。

【図④9-1】より、中学校教員全体では、「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた比率が62%となっている。62%という比率は、小学校教員全体と同じであり、中学校教員全体も小学校教員全体と同様に、他人の筆順に対して厳しいことがわかる。

【図④9-2】【図④9-3】より、中学校教員国語と中学校教員国語以外の「④まったくよい印象は持たない」の比率はほぼ同じである。しかし、「③あまりよい印象は持たない」の比率は、中学校教員国語の方が15%以上高い。この結果も、小学校教員の結果と同じである。中学校教員国語は、小学校教員国語と同様に、より他人の筆順に対して厳しいことがわかる。



【図④9-1】 中学校教員全体

【図④9-2】 中学校教員国語

【図④9-3】 中学校教員国語以外

2.2.10. 漢字指導上の苦勞について

漢字指導上の苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④10-1】【図④10-2】【図④10-3】のようになる。

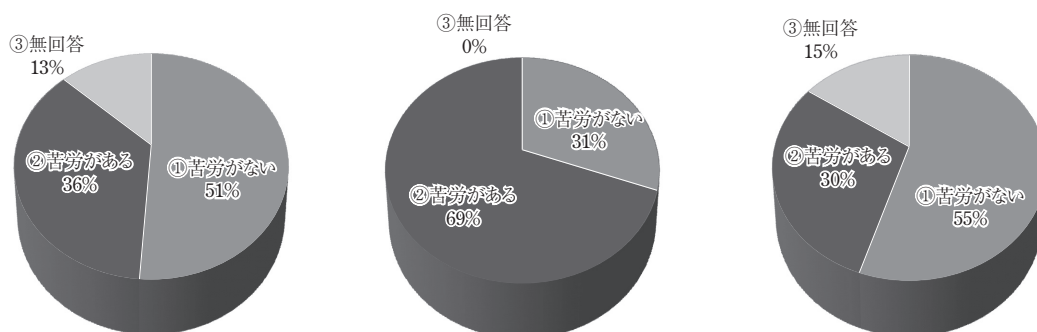
【図④10-1】より、中学校教員全体では、「①苦勞がない」の比率が51%、「②苦勞がある」の比率が36%と、「①苦勞がない」の方が上回っており、半数以上の中学校教員は漢字指導上で問題を抱えていない。この結果は、小学校教員全体の結果と大きく異なる。小学校教員全体では、「①苦勞がない」の比率が31%、「②苦勞がある」の比率が55%で、中学校教員全体と逆の結果となっている。小学校教員全体と中学校教員全体とでこのような違いが見られる要因としては、次の3点が考えられる。

- (1) 小学校教員はすべての教科を指導するのに対して、中学校教員は専門教科だけを指導するので、専門教科が国語以外の中学校教員は、漢字指導を行っていない
- (2) 中学校では、学習内容・範囲が小学校よりも広がるため、漢字指導まで行う時間的余裕がない

(3) 漢字指導は、主に小学校で行われるものと捉えられている

中学校教員において、専門教科が「国語」かどうかによって、漢字指導の苦勞の有無が生じるということである。

【図④10-2】【図④10-3】より、中学校教員国語の方が、中学校教員国語以外よりも「②苦勞がある」の比率が40%ほど高くなっている。上述したように、中学校教員には、漢字指導は「国語」で行うという意識が強く、専門教科が国語以外の教員は、漢字指導を行わないため、漢字指導で苦勞を感じていない（感じる機会がない）ということである。

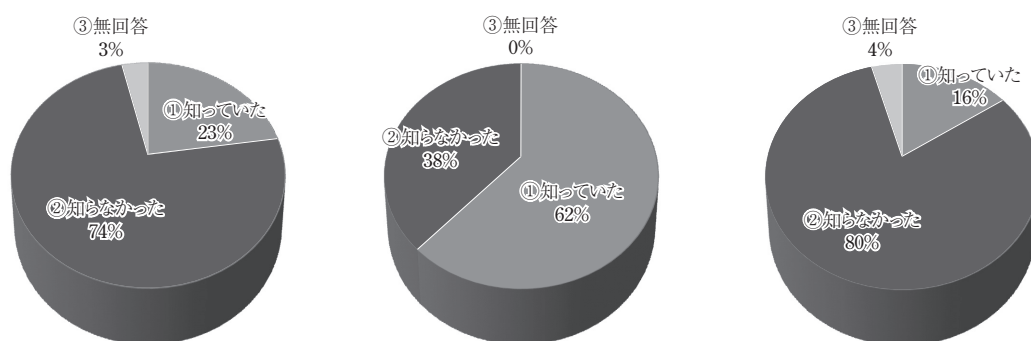


【図④10-1】 中学校教員全体 【図④10-2】 中学校教員国語 【図④10-3】 中学校教員国語以外

2.2.11. 『筆順指導の手びき』の認知について

現在、筆順指導の基準となっている『筆順指導の手びき』（昭和33（1958）年、文部省）を知っているかどうか（そこで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対的なものではないということ）について、2つの選択肢（「①知っていた」「②知らなかった」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④11-1】【図④11-2】【図④11-3】のようになる。

【図④11-1】より、中学校教員全体では、「①知っていた」の比率が23%、「②知らなかった」の比率が74%で、多くの中学校教員が知らない。「①知っていた」の比率について、小学校教員全体と比較すると中学校教員全体の方が15%低い。小学校教員は、基本的にすべての教科を指導するため、国語教育に関することある程度は学んでいる。そのため、専門教科が国語以外の教員であっても、現在、筆順指導の基準となっている『筆順指導の手びき』のことを知っている教員が多い。一方、中学校教員は、基本的に専門教科のみを指導するため、専門教科が



【図④11-1】 中学校教員全体 【図④11-2】 中学校教員国語 【図④11-3】 中学校教員国語以外

国語以外の教員は、『筆順指導の手びき』のことを知らないということである。

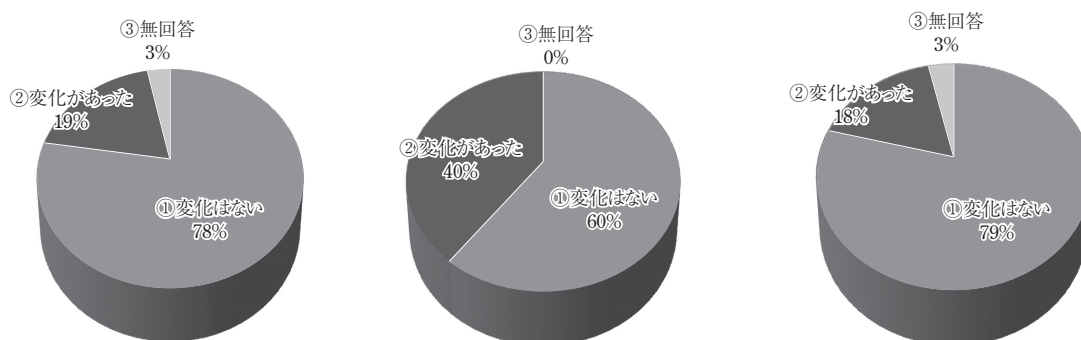
それは、【図④11-1】【図④11-2】の結果からもわかる。中学校教員国語では、「①知っていた」の比率が62%で、小学校教員国語よりも10%ほど高い。一方、中学校教員国語以外では、「①知っていた」の比率が16%で、小学校教員国語以外よりも20%近く低い。中学校教員では、専門教科が国語かどうかが大きく関係しているということである。

2.2.11.1. 『筆順指導の手びき』認知後の変化について

2.2.11.で『筆順指導の手びき』を「②知らなかった」と回答した中学校教員に、『筆順指導の手びき』が「現在の筆順の基準になっているということ」「そこで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対なものではないということ」を知って、心境の変化があったかどうかについて、2つの選択肢（「①変化はない」「②変化があった」）を設け、尋ねた。その結果を、中学校教員全体・中学校教員国語・中学校教員国語以外に分けて示すと、【図④11-1-1】【図④11-2-1】【図④11-3-1】のようになる。

【図④11-1-1】より、中学校教員全体では、「①変化はない」の比率が78%で、大半の中学校教員に変化がなかったことがわかる。この結果は、小学校教員全体とほぼ同じである。

2.2.11.で『筆順指導の手びき』を「②知らなかった」と回答した中学校教員国語は5人で非常に少ないため、単純に比較することはできないが、【図④11-2-1】【図④11-3-1】より、中学校教員国語では、「②変化があった」の比率が40%で、中学校教員国語以外より22%高い。中学校教員国語以外で「②変化があった」についての具体的な記述を見ると、大半が「（現在教えている）筆順は、一つの指針に過ぎないのだから、強制的に教える必要はないと思うようになった」という回答であった。ここから、中学校教員においても、小学校教員と同様に、『筆順指導の手びき』について認知していれば、筆順指導を行うか、また行くとすればどのように行かなど筆順指導の在り方に対する認識が変わってくる可能性があることがわかる。あたかも絶対的な規範として認識されている現在の筆順指導の在り方について考え直すためには、やはり教員が『筆順指導の手びき』のことを認知する必要があると言える。



【図④11-1-1】 中学校教員全体 【図④11-2-1】 中学校教員国語 【図④11-3-1】 中学校教員国語以外

第3部 日本語教育における調査結果の分析

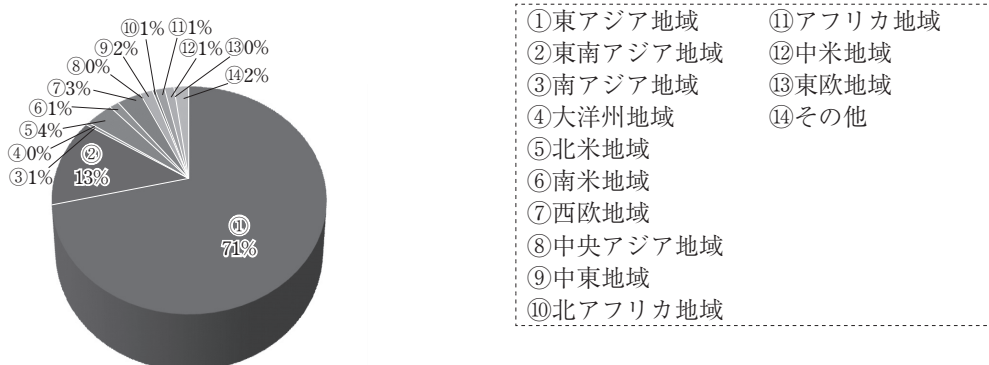
第1章 日本語教育における漢字学習者の調査結果の分析

1. 日本語学習者における調査結果の分析

1.1. 出身国・地域について

日本語学習者の出身国について、20の選択肢（「①中国」「②韓国（大韓民国）」「③モンゴル」「④インドネシア」「⑤タイ」「⑥フィリピン」「⑦ベトナム」「⑧マレーシア」「⑨ネパール」「⑩インド」「⑪オーストラリア」「⑫アメリカ」「⑬カナダ」「⑭フランス」「⑮ドイツ」「⑯ロシア」「⑰モザンビーク」「⑱ナイジェリア」「⑲ケニア」「⑳その他」）を設け、尋ねた。国際交流基金による地域分類に従って分類した結果結果を示すと、【図⑤1】のようになる。

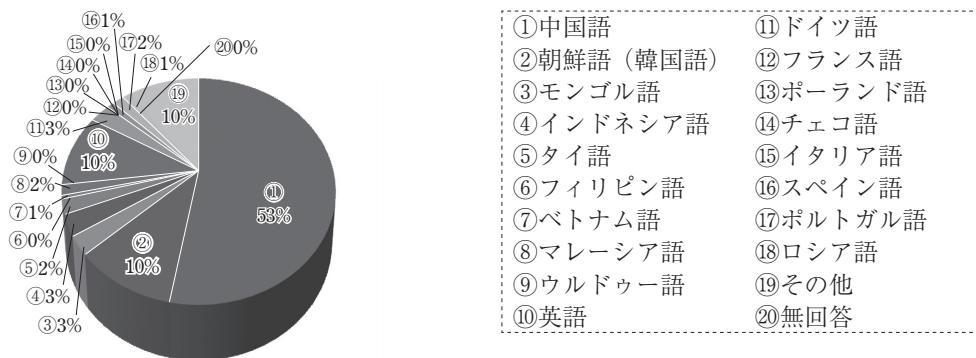
【図⑤1】より、「①東アジア地域」が71%で最も比率が高い。「②東南アジア地域」「③南アジア地域」を含める（「⑧中央アジア地域」は0人のため除く）と「アジア地域」が85%となり、大半を占めている。特に、「中国」出身者（香港を含む）が多く、全体の53%と半数を超えている。その次に多いのが、「韓国」で、全体の10%を占めている。



【図⑤1】日本語学習者全体

1.2. 使用言語について

使用言語について、19の選択肢（「①中国語」「②朝鮮語（韓国語）」「③モンゴル語」「④インドネシア語」「⑤タイ語」「⑥フィリピン語」「⑦ベトナム語」「⑧マレーシア語」「⑨ウルドゥー」



【図⑤2】日本語学習者全体

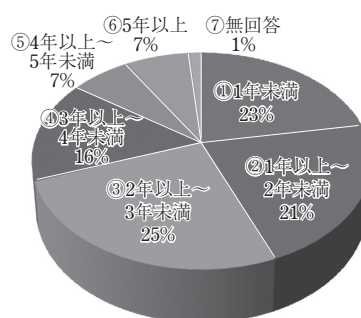
語」「⑩英語」「⑪ドイツ語」「⑫フランス語」「⑬ポーランド語」「⑭チェコ語」「⑮イタリア語」「⑯スペイン語」「⑰ポルトガル語」「⑱ロシア語」「⑲その他」)を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑤2】のようになる。

【図⑤2】より、「①中国語」が53%で最も比率が高く、半数以上を占めている。これは、1.1.の「出身国・地域」で述べたように、回答者の半数以上の出身国が「中国」であるためである。

1.3. 学習期間について

日本語の学習期間について、6つの選択肢（「①1年未満」「②1年以上～2年未満」「③2年以上～3年未満」「④3年以上～4年未満」「⑤4年以上～5年未満」「⑥5年以上」)を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑤3】のようになる。

【図⑤3】より、日本語学習者では、「③2年以上～3年未満」が25%で最も比率が高い。「①1年未満」「②1年以上～2年未満」を合わせた「3年未満」の日本語学習者の比率は70%近くになり、多くの日本語学習者を占めている。一方、「3年以上」の比率は30%で、特に「⑥5年以上」の比率となると、7%と非常に少ない。



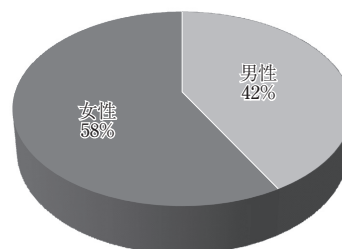
【図⑤3】日本語学習者全体

1.4. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図⑤4】のようになる。

【図⑤4】より、男性の比率が42%、女性の比率が58%で、やや女性の方が高い。

ただし、これより以降の結果については、漢字文化圏（中国（香港を含む）・台湾・モンゴル・韓国・ベトナム）と非漢字文化圏に分けて見ていくこととする。一口に「漢字文化圏」と言っても、それぞれ実情は異なる。韓国では、現在ハングルが一般的であり、特に若い世代では漢字を理解・使用できる人は非常に少ない。ベトナムでも、クオック・グーというアルファベット表記が一般的であり、漢字を理解・使用できるのは一部の人に限定されている。一方、中国は、漢字中心である。このように国や地域によって漢字の使用状況に差があるが、漢字の影響を大きく受けている（受けてきた）ということで、韓国やベトナムも「漢字文化圏」に含めた（どの国・地域を含めるかについては、社団法人日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』も参考にした）。



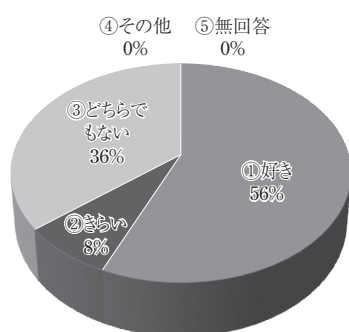
【図⑤4】日本語学習者全体

1.5. 漢字学習に対する好き嫌いについて

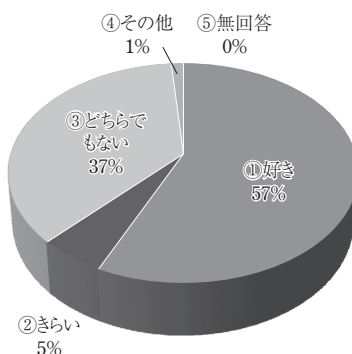
漢字学習が好きか嫌いかにについて、3つの選択肢（「①好き」「②きらい」「③どちらでもない」)を設け、尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・日本語学習者漢字文化圏（以下、「漢字文化圏」と表す）・日本語学習者非漢字文化圏（以下、「非漢字文化圏」と表す）に分けて示すと、【図⑤5-1】【図⑤5-2】【図⑤5-3】のようになる。

【図⑤5-1】より、日本語学習者全体では、「①好き」が56%で最も比率が高く、「②きらい」は8%と非常に少ない。国語教育における漢字学習者（小学生全体・中学生全体）が「③どちらでもない」が最も比率が高くなっていることから考えると、半数以上が「①好き」と回答している日本語学習者全体は、漢字学習に対して非常に肯定的であることがわかる。

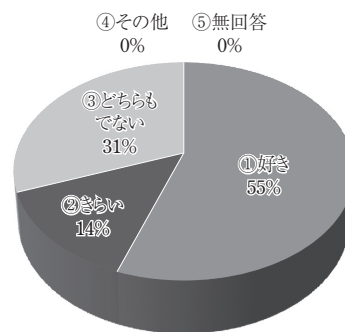
【図⑤5-2】【図⑤5-3】より、「①好き」の比率は、漢字文化圏・非漢字文化圏ともに、日本語学習者全体とほぼ同じ比率であるが、「②きらい」の比率に差がある。非漢字文化圏は「②きらい」の比率が、漢字文化圏より10%ほど高い。普段漢字を見ることがなく、漢字に慣れ親しんでいない非漢字文化圏の日本語学習者にとって、漢字学習は嫌なものとして捉えられている。



【図⑤5-1】日本語学習者全体



【図⑤5-2】漢字文化圏



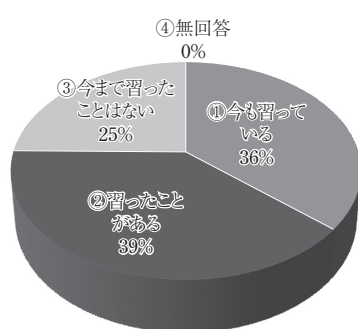
【図⑤5-3】非漢字文化圏

1.6. 筆順指導の有無について

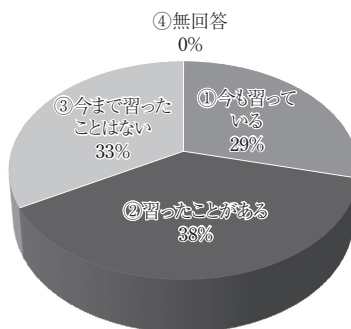
筆順指導を受けているか、その有無について、3つの選択肢（「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」「③今まで習ったことはない」）を設け、尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤6-1】【図⑤6-2】【図⑤6-3】のようになる。

【図⑤6-1】より、日本語学習者全体では、「①今も習っている」と「②今は習っていないが習ったことがある」を合わせた比率が75%で、大半の日本語学習者が筆順指導を受けている（受けていた）ことがわかる。

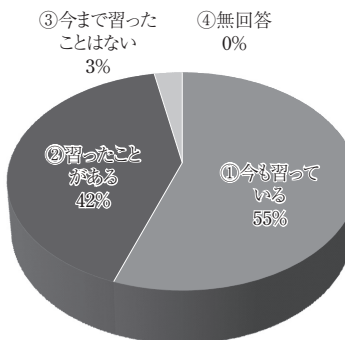
【図⑤6-2】【図⑤6-3】より、漢字文化圏と非漢字文化圏とで大きな差が見られる。漢字文化圏では、「③今まで習ったことはない」の比率が33%で、非漢字文化圏より30%も高い。一方、



【図⑤6-1】日本語学習者全体



【図⑤6-2】漢字文化圏



【図⑤6-3】非漢字文化圏

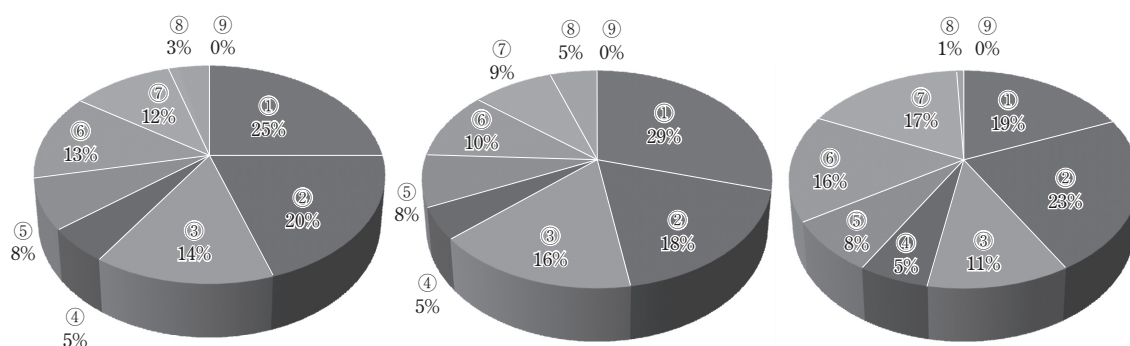
非漢字文化圏では、「①今も習っている」の比率が55%で、漢字文化圏より26%高く、「②今は習っていないが習ったことがある」と合わせると、その比率は97%とほぼ全員に近くなる。漢字文化圏では、日本語を学習する以前より漢字（筆順）を知っている（慣れている）ために、日本語学習の際に筆順指導を受けない学習者がある一定の比率で存在するのに対して、非漢字文化圏では、日本語を学習する際に初めて漢字に触れるため、ほぼ全員が漢字学習において筆順指導を受けているということがわかる。

1.6.1. 筆順指導を受ける理由について

1.6.の質問で「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した日本語学習者に、筆順指導を受けている（受けた）理由について、8つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤6-1-1】【図⑤6-2-1】【図⑤6-3-1】のようになる。

【図⑤6-1-1】より、日本語学習者全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が25%で最も比率が高く、その次に「②字が書きやすくなるから」の20%が続く。「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」の順に比率が高いということについては、小学生全体・中学生全体・小学校教員全体・中学校教員全体と同じである。国語教育・日本語教育、漢字学習者・漢字指導者にかかわらず共通していることがわかる。

【図⑤6-2-1】【図⑤6-3-1】より、非漢字文化圏は、「①字がきれいに書けるようになるから」も比率が漢字文化圏より10%低い。非漢字文化圏の学習者にとっては、「きれいに書く」よりもまずは「書けるようになる」ということが重視されていることがわかる。



【図⑤6-1-1】日本語学習者全体

【図⑤6-2-1】漢字文化圏

【図⑤6-3-1】非漢字文化圏

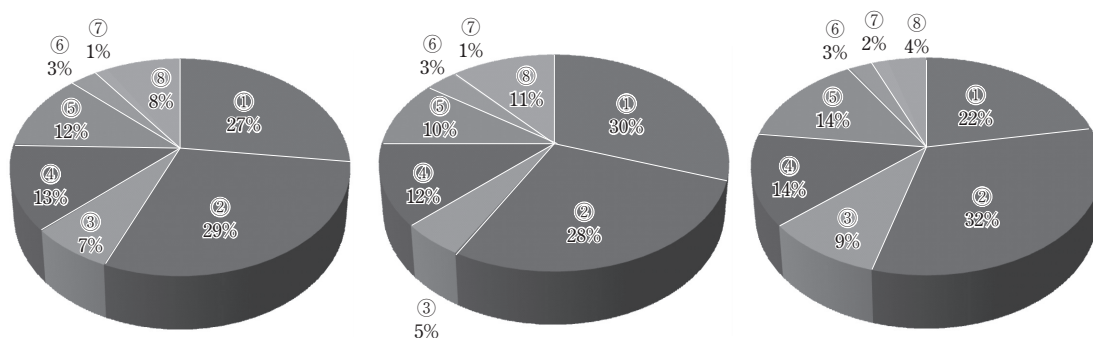
- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字が読めるようになるから
- ⑥字の成り立ちがわかるから
- ⑦字が覚えやすくなるから
- ⑧その他
- ⑨無回答

1.6.2. 筆順指導を受けての変化について

1.6.の質問で「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と回答した日本語学習者に、筆順指導を受けてどのような変化があったかについて、7つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字が書きやすくなった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が覚えやすくなった」「⑥何も変わらなかった」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤6-1-2】【図⑤6-2-2】【図⑤6-3-2】のようになる。

【図⑤6-1-2】より、日本語学習者全体では、「②字が書きやすくなった」が29%で最も比率が高い。1.6.1.の「筆順指導を受ける理由」でも、「字が書けるようになる」ことに関する選択肢の比率が高く、日本語学習者全体にとって、「字が書けるようになる」ということが第一に考えられているということがわかる。

【図⑤6-2-2】【図⑤6-3-2】より、漢字文化圏・非漢字文化圏ともに日本語学習者全体とほぼ同じ比率となっており、差はない。



【図⑤6-1-2】日本語学習者全体

【図⑤6-2-2】漢字文化圏

【図⑤6-3-2】非漢字文化圏

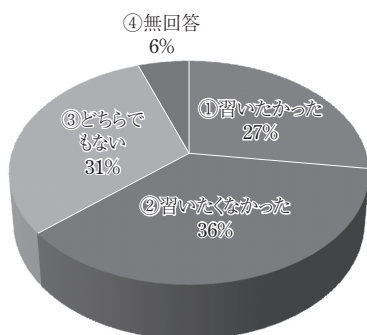
- ①字がきれいに書けるようになった
- ②字が書きやすくなった
- ③テストなどで答えられるようになった
- ④字の成り立ちがわかるようになった
- ⑤字が覚えやすくなった
- ⑥何も変わらなかった
- ⑦その他
- ⑧無回答

1.6.3. 筆順指導を受けてこなかった日本語学習者について

1.6.の質問で筆順を「③今まで習ったことはない」と回答した日本語学習者に、筆順指導を受けたかどうかについて、3つの選択肢（「①習いたかった」「②習いたくなかった」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。ただし、1.6.で「③今まで習ったことはない」と回答した日本語学習者のうち、大半は漢字文化圏の学習者であった（非漢字文化圏の学習者は2人しかいなかった）。そこで、この質問では、日本語学習者全体の結果を省略し、漢字文化圏を【図⑤6-2-3】で示し、非漢字文化圏については【表8】として実人数で示す。

【図⑤6-2-3】より、漢字文化圏では、「②習いたくなかった」が36%で最も比率が高い。た

だし、「①習いたかった」「③どちらでもない」も30%前後の比率でそれほど大きな差はない。非漢字文化圏については、回答者数が少ないため、詳細は不明である。



【図⑤ 6-2-3】 漢字文化圏

【表8】 非漢字文化圏

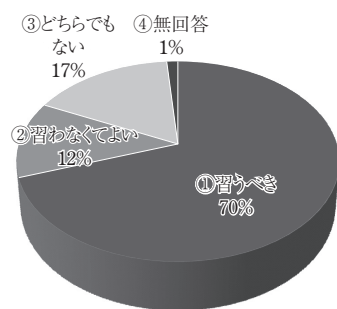
①習いたかった	1人
②習いたくなかった	0人
③どちらでもない	0人
④無回答	1人

1.7. 筆順指導の必要性について

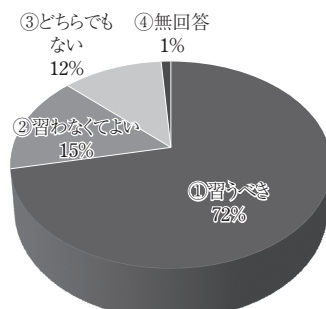
筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①習うべき」「②習わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤ 7-1】【図⑤ 7-2】【図⑤ 7-3】のようになる。

【図⑤ 7-1】より、日本語学習者全体では、「①習うべき」の比率が70%と高く、日本語学習者たちの多くが、筆順指導を「必要だ」と捉えていることがわかる。

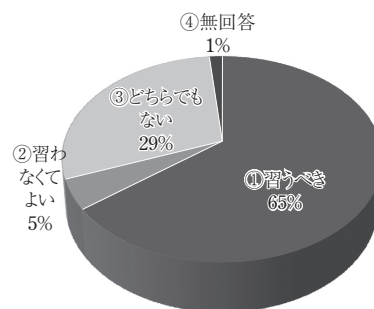
【図⑤ 7-2】【図⑤ 7-3】より、非漢字文化圏は、漢字文化圏よりも「①習うべき」の比率が7%低く、「③どちらでもない」の比率が17%高い。上述したように、非漢字文化圏の学習者にとっては、漢字を習得することが一番重要であり、筆順まで学習する余裕がないということである。



【図⑤ 7-1】 日本語学習者全体



【図⑤ 7-2】 漢字文化圏



【図⑤ 7-3】 非漢字文化圏

1.7.1. 筆順指導が必要である理由について

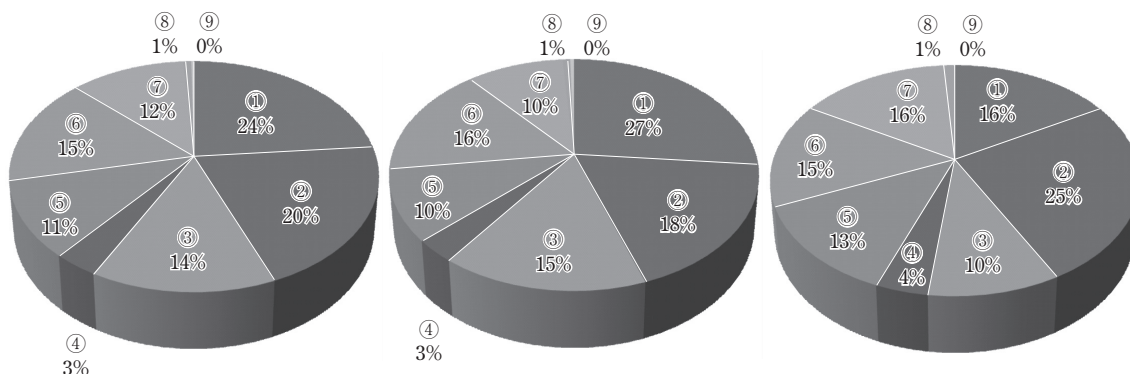
1.7.の質問で筆順を「①習うべき」と回答した日本語学習者に、筆順指導が必要な理由について、8つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤ 7-1-1】【図⑤ 7-2-1】【図⑤ 7-3-1】のようになる。

【図⑤ 7-1-1】より、日本語学習者全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が24%で最も比率が高く、その次に「②字が書きやすくなるから」の20%が続く。この結果は、

小学生・中学生・小学校教員・中学校教員と同じであり、国語教育・日本語教育、漢字学習者・漢字指導者にかかわらず共通している。

【図⑤7-2-1】【図⑤7-3-1】より、漢字文化圏・非漢字文化圏ともに日本語学習者とほぼ同じ比率になっており、差はない。

上記の結果は、1.6.1.の「筆順指導を受ける理由」とほぼ同じである。日本語学習者にとって、筆順指導を受ける理由と筆順指導を必要と考える理由とが同じものとして捉えられていることがわかる。



【図⑤7-1-1】日本語学習者全体

【図⑤7-2-1】漢字文化圏

【図⑤7-3-1】非漢字文化圏

- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなど問題に出るから
- ⑤字が読めるようになるから
- ⑥字の成り立ちがわかるから
- ⑦字が覚えやすくなるから
- ⑧その他
- ⑨無回答

1.7.2. 筆順指導が不必要である理由について

1.7.の質問で筆順を「②習わなくてよい」と回答した日本語学習者に、筆順指導が必要でない理由について、8つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから」「④書きやすい筆順で書いた方がよいから」「⑤筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑥筆順は自然に身につくものだから」「⑦テストなどに出ることはないから」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、1.7.で「②習わなくてよい」と回答した比率は、日本語学習者全体の12%（29人）と少ない。そこで、この質問の結果について、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて実人数を示すと、【表9】のようになる。

【表9】より、非漢字文化圏の回答が少ないものの、「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから」といった回答が多い。この結果からも、日本語学習者にとって、筆順よりも漢字を習得することの方が重視されていることがわかる。

【表9】 筆順指導が必要でない理由

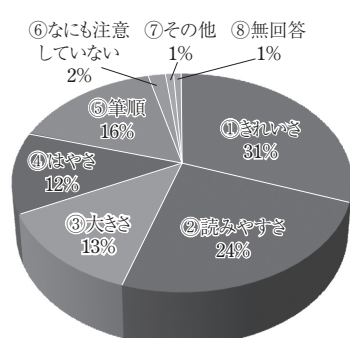
	全 体	漢 字	非漢字
①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから	10人	10人	0人
②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから	11人	10人	1人
③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから	8人	6人	2人
④書きやすい筆順で書いた方がよいから	8人	7人	1人
⑤筆順を覚えるのはたいへんだから	4人	4人	0人
⑥筆順は自然に身につくものだから	8人	7人	1人
⑦テストなどに出ることはないから	4人	4人	0人
⑧その他	3人	3人	0人
⑨無回答	3人	2人	1人

1.8. 漢字を書くときの注意点について

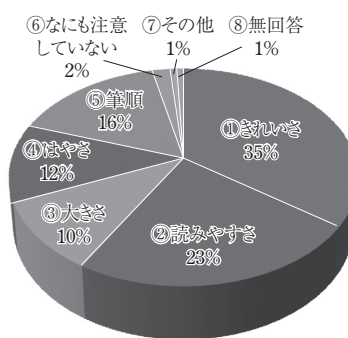
漢字を書くときの注意点について、7つの選択肢（「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤筆順」「⑥なにも注意していない」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤8-1】【図⑤8-2】【図⑤8-3】のようになる。

【図⑤8-1】より、日本語学習者全体では、「①きれいさ」が31%で最も比率が高く、その次に「②読みやすさ」の24%が続く。一方、「⑥なにも注意していない」は2%しかなく、大半の日本語学習者が何かしらに注意して書いていることがわかる。

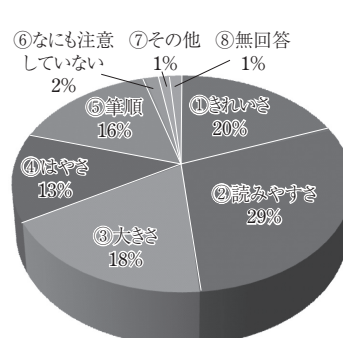
【図⑤8-2】【図⑤8-3】より、漢字文化圏の方が、非漢字文化圏より「①きれいさ」の比率が高く、「②読みやすさ」の比率が低い。漢字に慣れ親しんでいる漢字文化圏の学習者が、「きれいさ」を求めているのに対して、漢字に慣れ親しんでいない非漢字文化圏の学習者は、「きれいさ」ではなく「読みやすさ」を求めている。非漢字文化圏の方が「③大きさ」の比率が高いことも合わせて考えると、非漢字文化圏の学習者は、「書ける（読める）」ということを重視していることがわかる。



【図⑤8-1】 日本語学習者全体



【図⑤8-2】 漢字文化圏



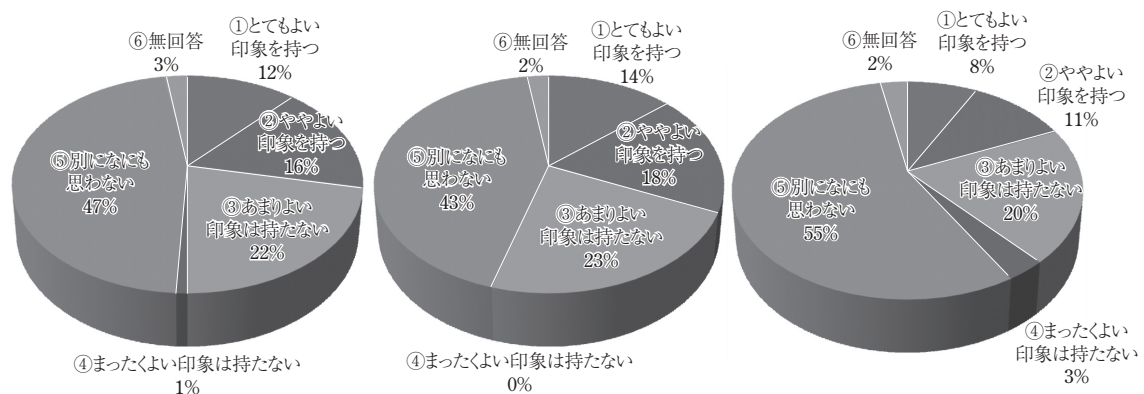
【図⑤8-3】 非漢字文化圏

1.9. 他人の筆順について

自分と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別にになにも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤9-1】【図⑤9-2】【図⑤9-3】のようになる。

【図⑤9-1】より、日本語学習者全体では、「⑤別にになにも思わない」が47%と最も比率が高く、半数近くの日本語学習者は他人の筆順に対して「何も感じていない」ことがわかる。「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた「よい印象を持たない」の比率は23%で、小学生全体・中学生全体・小学校教員全体・中学校教員全体の比率よりも低い。これらのことから、日本語学習者は、他人の筆順に対して特に気にしていない（厳しく見ていない）ことがわかる。

【図⑤9-2】【図⑤9-3】より、非漢字文化圏の方が、漢字文化圏よりも「⑤別にになにも思わない」の比率が高く、他人の筆順に対して特に気にしていない（厳しく見ていない）ことがわかる。



【図⑤9-1】日本語学習者全体

【図⑤9-2】漢字文化圏

【図⑤9-3】非漢字文化圏

1.10. 漢字学習上での苦勞について

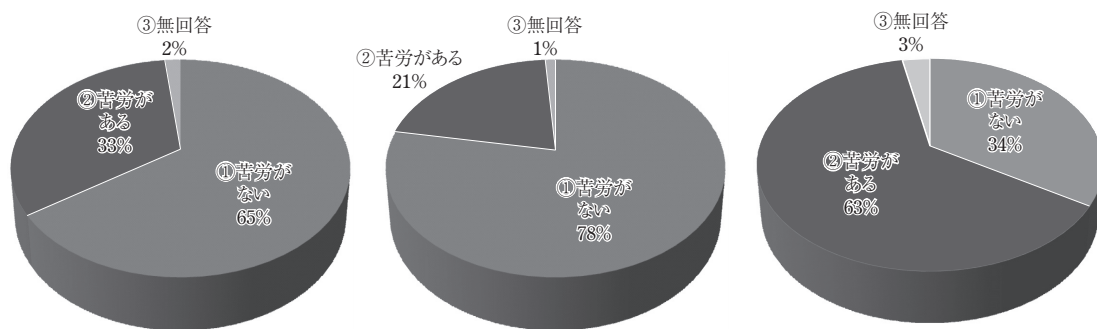
漢字学習上での苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を、日本語学習者全体・漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて示すと、【図⑤10-1】【図⑤10-2】【図⑤10-3】のようになる。

【図⑤10-1】より、日本語学習者全体では、「①苦勞がない」の比率が65%で、半数以上の日本語学習者は、漢字学習上で問題を抱えていない。ただし、これは今回のアンケート調査の回答者の多くが、漢字文化圏（その中でも特に中国）の学習者であることが影響している。それは、漢字文化圏・非漢字文化圏に分けて見ると、異なった結果を示すことからわかる。

【図⑤10-2】【図⑤10-3】より、漢字文化圏では、「①苦勞がない」の比率が78%、「②苦勞がある」の比率が21%、非漢字文化圏では、「①苦勞がない」の比率が34%、「②苦勞がある」の比率が63%と、逆の結果を示している。漢字に慣れ親しんでいる漢字文化圏の学習者にとって、漢字学習が当たり前のこととして捉えられているのに対して、漢字に慣れ親しんでいない非漢字文化圏の学習者にとって、漢字学習は未知のもので、なおかつ習得困難なものとして捉えら

れている。

「②苦勞がある」と回答した日本語学習者の記述を見ると、漢字文化圏の学習者では、「日本語と母語(主に中国語)とで違う漢字があるので間違えやすい」という回答が多いのに対して、非漢字文化圏の学習者では、「覚える字が多くてなかなか覚えられない」「漢字の覚え方がわからない」「音読みと訓読みがあって覚えるのがたいへん」などの回答が多い。漢字に慣れ親しんでいる学習者とまったく慣れ親しんでない学習者とで、学習上を感じる苦勞に大きな差が見られることがわかる。



【図⑤ 10-1】日本語学習者全体

【図⑤ 10-2】漢字文化圏

【図⑤ 10-3】非漢字文化圏

第2章 日本語教育における漢字指導者の調査結果の分析

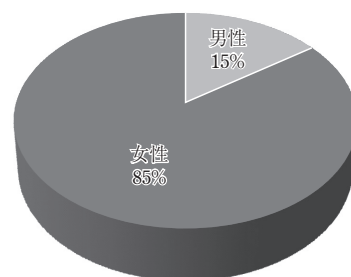
2. 日本語教員における調査結果の分析

日本語教員においては、性別や指導歴別に分析する方がより詳細に傾向を明らかにできる。しかし、今回のアンケート調査では、回答者数が多くないため、一括して結果を分析することとする。

2.1. 性別について

性別について、その結果を示すと、【図⑥1】のようになる。

【図⑥1】より、男性の比率が15%、女性の比率が85%で、男性よりも女性の方が高い(アンケート調査の依頼時に、性別が均等になるようお願いはしていない)。日本語教員は、男性よりも女性が多いということがわかる。

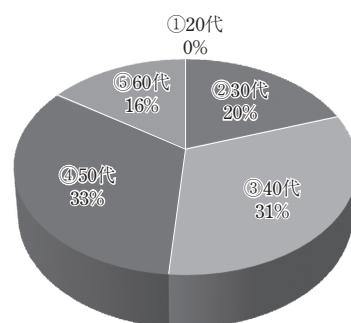


【図⑥ 1】日本語教員全体

2.2. 年代について

年代について、その結果を示すと、【図⑥2】のようになる。

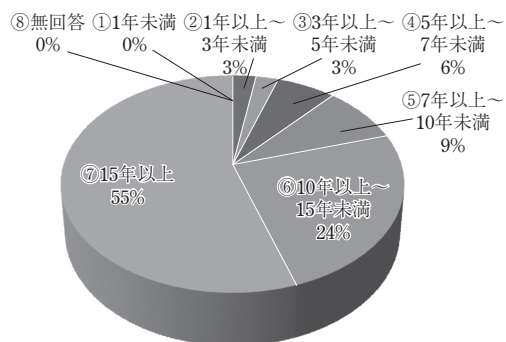
【図⑥2】より、50代が33%で最も比率が高く、その次に40代の31%が続く。この2つの年代を合わせた比率は64%となる。日本語教員の多くがこの2つの年代であることがわかる。



【図⑥ 2】日本語教員全体

2.3. 指導歴について

日本語教員としての指導歴について、7つの選択肢（「①1年未満」「②1年以上～3年未満」「③3年以上～5年未満」「④5年以上～7年未満」「⑤7年以上～10年未満」「⑥10年以上～15年未満」「⑦15年以上」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥3】のようになる。

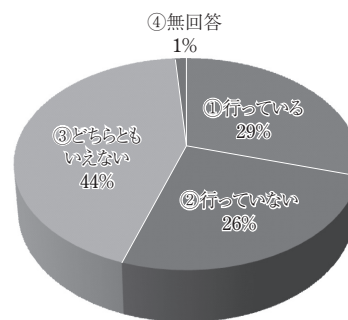


【図⑥3】日本語教員全体

【図⑥3】より、「⑦15年以上」が55%と最も比率が高く、その次に「⑥10年以上～15年未満」の24%が続く。2.2.の「年代」で述べたように、日本語教員が主に40・50代であることもあり、指導歴が長くなっている。

2.4. 漢字指導の有無について

漢字指導を積極的に行っているか、その有無について、3つの選択肢（「①行っている」「②行っていない」「③どちらともいえない」）を設け、尋ねた。その結果を示すと【図⑥4】のようになる。



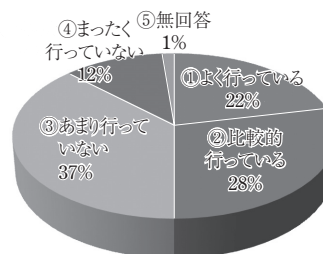
【図⑥4】日本語教員全体

【図⑥4】より、「③どちらともいえない」が44%で最も比率が高い。有無という点で見ると、「①行っている」は29%、「②行っていない」は26%とほぼ同じ比率である。日本語教員は、漢字指導に対して積極的でも、また消極的でもどちらでもないことがわかる。

「①行っている」の比率が29%ということについては、小学校教員全体の比率よりも低い。しかし、中学校教員全体の比率とほぼ同じである。中学校教員全体では、主に専門教科が国語の教員が漢字指導を積極的に行っているのに対して、日本語を専門とする日本語教員は、漢字指導を積極的に行っているわけでない。この点に、国語教育と日本語教育の違いが見られる。

2.5. 筆順指導の有無について

筆順指導を行っているか、その有無について、4つの選択肢（「①よく行っている」「②比較的行っている」「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥5】のようになる。



【図⑥5】日本語教員全体

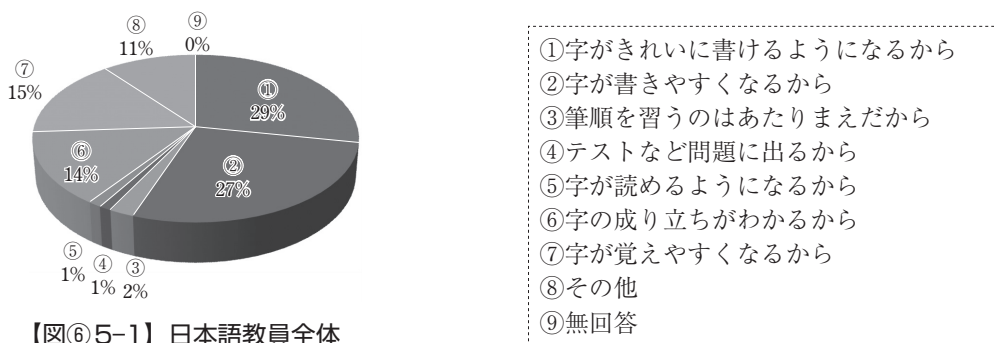
【図⑥5】より、「①よく行っている」と「②比較的行っている」を合わせた比率は50%で、半数の日本語教員が筆順指導を行っている。半数の日本語教員が筆順指導を行っているという結果は、小学校教員全体よりも低く、中学校教員全体よりも高い。日本語教員全体における筆順指導の状況は、小学校教員全体と中学校教員全体との中間に位置していることになる。

2.5.1. 筆順指導を行う理由について

2.5.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した日本語教員に、筆順指導を行う理由について、8つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑥5-1】のようになる。

【図⑥5-1】より、日本語教員全体では、「①字がきれいに書けるようになるから」が29%で最も比率が高く、その次に「②字が書きやすくなるから」が27%で続く。この結果は、小学生全体、中学生全体、小学校教員、中学校教員、日本語学習者と同じである。国語教育・日本語教育、漢字学習者・漢字指導者にかかわらず、「きれいに書くため」「字を書きやすくするため」に、筆順指導を行っていることがわかる。

また、3番目に「⑦字が覚えやすくなるから」が高い比率を示していることから、日本語教員は、漢字を覚えるためにも筆順が必要だと捉えていることがわかる。

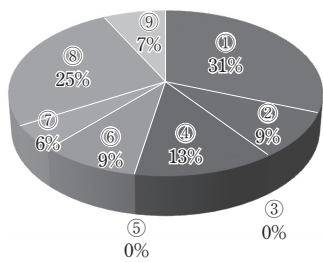


【図⑥5-1】日本語教員全体

2.5.2. 筆順指導を行っての変化について

2.5.の質問で筆順指導を「①よく行っている」「②比較的行っている」と回答した日本語教員に、筆順指導を行って学習者にどのような変化があったかについて、8つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになった」「②字がはやく書けるようになった」「③テストなどで答えられるようになった」「④字の成り立ちがわかるようになった」「⑤字が読めるようになった」「⑥字を覚えるようになった」「⑦何も変わらなかった」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑥5-2】のようになる。

【図⑥5-2】より、日本語教員全体では、「①字がきれいに書けるようになった」が31%で最も比率が高い。「①字がきれいに書けるようになった」が最も高い比率を示すということについては、小学生・中学生・小学校教員・中学校教員・日本語学習者と同じである。しかし、2番目に高い比率を示している「⑧その他」の記述を見ると、「筆順指導を行ってどのような変化があったかはわからない」といった回答も多く見られる。また、比率自体はそれほど高くはないものの、小学校教員で0%であった「⑦何も変わらなかった」が、日本語教員全体で6%見られることから、筆順指導の効果に懐疑的な日本語教員がいることがわかる。国語教育と比べて日本語教育では、筆順指導の効果をあまり実感していないということである。



【図⑥5-2】日本語教員全体

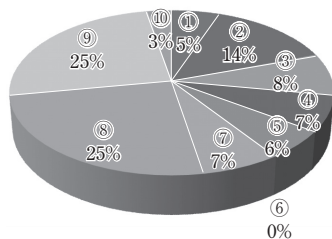
- ①字がきれいに書けるようになった
- ②字がはやく書けるようになった
- ③テストなどで答えられるようになった
- ④字の成り立ちがわかるようになった
- ⑤字が読めるようになった
- ⑥字を覚えるようになった
- ⑦何も変わらなかった
- ⑧その他
- ⑨無回答

2.5.3. 筆順指導を行わない理由について

2.5.の質問で筆順指導を「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と回答した日本語教員に、筆順指導を行っていない理由について、9つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから」「④書きやすい筆順で書いた方がよいから」「⑤筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑥筆順は自然に身につくものだから」「⑦テストなどに出ることはないから」「⑧筆順を教える時間がないから」「⑨その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑥5-3】のようになる。

【図⑥5-3】より、日本語教員全体では、「⑧筆順を教える時間がないから」が25%で最も比率が高い。国語教育（小学校教員・中学校教員）においても「筆順指導まで行う時間的余裕がない」という回答が多く見られており、日本語教育と同じであることがわかる。

しかし、「⑧筆順を教える時間がないから」と同じ比率を示している「⑨その他」について、その具体的な記述を見ると、「聴解、発音クラスを担当しているので、漢字を教えることがない」「読むことの方を重視しているから」「細かすぎる指導は必要ないと考えているから」「漢字圏の学生を教えているから（筆順を教える必要はない）」などの回答が見られる。日本語教員は、書くことよりも話す（聞く）ことを重視していることがわかる。



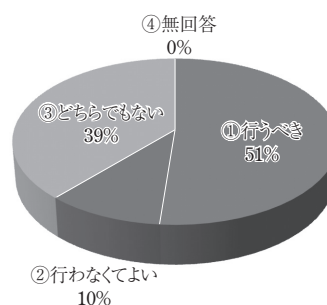
【図⑥5-3】日本語教員全体

- ①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから
- ②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから
- ③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから
- ④書きやすい筆順で書いた方がよいから
- ⑤筆順を覚えるのがたいへんだから
- ⑥筆順は自然に身につくものだから
- ⑦テストなどに出ることはないから
- ⑧筆順を教える時間がないから
- ⑨その他
- ⑩無回答

2.6. 筆順指導の必要性について

筆順指導の必要性について、3つの選択肢（「①行うべき」「②行わなくてよい」「③どちらでもない」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥6】のようになる。

【図⑥6】より、日本語教員全体では、「①行うべき」が51%で最も比率が高く、半数以上の日本語教員が筆順指導が「必要だ」と捉えている。ただし、51%という比率は、小学校教員全体よりも36%、中学校教員全体よりも19%低い。2.5.3.の「筆順指導を行わない理由」で述べたように、日本語教員は、書くことよりも話す（聞く）ことを重視しているために、国語教育（小学校教員・中学校教員）より筆順指導の必要性を感じていないことがわかる。

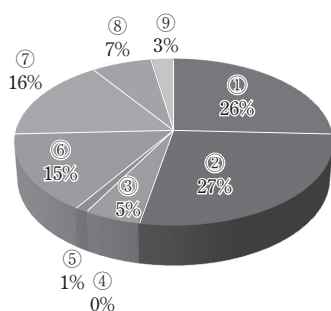


【図⑥6】日本語教員全体

2.6.1. 筆順指導が必要である理由について

2.6.の質問で筆順指導を「①行うべき」と回答した日本語教員に、筆順指導が必要な理由について、8つの選択肢（「①字がきれいに書けるようになるから」「②字が書きやすくなるから」「③筆順を習うのはあたりまえだから」「④テストなど問題に出るから」「⑤字が読めるようになるから」「⑥字の成り立ちがわかるから」「⑦字が覚えやすくなるから」「⑧その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑥6-1】のようになる。

【図⑥6-1】より、日本語教員全体では、「②字が書きやすくなるから」が27%で最も比率が高く、その次に「①字がきれいに書けるようになるから」が26%で続く。わずか1%の差であるが、「②字が書きやすくなるから」が「①字がきれいに書けるようになるから」よりも高い比率を示しているのは、日本語教員全体だけである。日本語教員は、「きれいさ」よりも「書きやすさ」を重視している。3番目に「⑦字が覚えやすくなるから」が高い比率を示していることも合わせて考えると、日本語教員はきれいに書くことも大切であるが、まずは漢字が書ける（漢字を覚える）ことが必要だ（そのためには、筆順指導を行うとよい）と捉えていることがわかる。



- ①字がきれいに書けるようになるから
- ②字が書きやすくなるから
- ③筆順を習うのはあたりまえだから
- ④テストなどの問題に出るから
- ⑤字が読めるようになるから
- ⑥字の成り立ちがわかるから
- ⑦字が覚えやすくなるから
- ⑧その他
- ⑨無回答

【図⑥6-1】日本語教育全体

2.6.2. 筆順指導に適切な時期について

2.6.の質問で筆順指導を「①行うべき」と回答した日本語教員に、筆順指導を行うのに適切な時期について、自由筆記で尋ねた。ただし、この質問に対する回答は、必須ではない。適切な時期を自由に回答する形式をとったため、すべての日本語教員から回答が得られたわけではないが、ここで得られた回答を見ると、すべて「漢字（日本語）を学び始めた初期段階（初級）」

であった。

「漢字を学び始めた初期段階」に筆順指導を行うということについては、第2部で述べた国語教育（小学校・中学校）においても同じである。国語教育・日本語教育にかかわらず、筆順指導は漢字学習の初期段階に行うものとして捉えられていることがわかる。

2.6.3. 筆順指導が不必要である理由について

2.6.の質問で筆順指導を「②行わなくてよい」と回答した日本語校教員に、筆順指導が必要でない理由について、9つの選択肢（「①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから」「②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」「③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから」「④書きやすい筆順で書いた方がよいから」「⑤筆順を覚えるのがたいへんだから」「⑥筆順は自然に身につくものだから」「⑦テストなどに出ることはないから」「⑧筆順を教える時間がないから」「⑨その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。ただし、2.6.で「②行わなくてよい」と回答した日本語教員は8人（比率は10%）と少ないため、実人数を【表10】に示す。

【表10】より、日本語教員全体では、「②筆順を知らなくても字が書ければよいから」が5人と最も多い。2.6.1.の「筆順指導が必要である理由」でも述べたように、日本語教員はきれいに書くことよりも、まずは漢字が書ける（漢字を覚える）ことが必要だと捉えている。

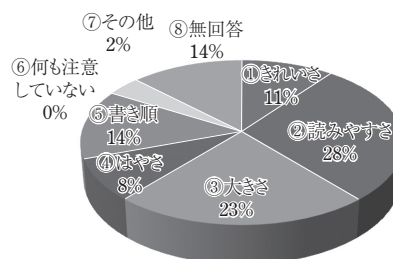
【表10】 筆順指導が必要でない理由

①筆順を知らなくても字がきれいに書けるから	2人
②筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから	5人
③筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから	2人
④書きやすい筆順で書いた方がよいから	1人
⑤筆順を覚えるのはたいへんだから	1人
⑥筆順は自然に身につくものだから	0人
⑦テストなどに出ることはないから	1人
⑧筆順を教える時間がないから	2人
⑨その他	1人
⑩無回答	2人

2.7. 漢字を書くときの注意点について

板書の際、漢字を書く上で注意している点について、7つの選択肢（「①きれいさ（美しさ）」「②読みやすさ」「③大きさ」「④はやさ（スピード）」「⑤書き順」「⑥何も注意していない」「⑦その他」）を設け、複数回答可で尋ねた。その結果を示すと、【図⑥7】のようになる。

【図⑥7】より、日本語教員全体では、「②読みやすさ」が28%で最も比率が高く、その次に「③大きさ」の23%が続く。小学校教員全体・中学校教員全体では、「③大きさ」の比率が最も高く、その次に「②読みやすさ」が続き、日本語教員全体の結果と順番が逆となっている。しかし、「②読みやすさ」と「③大きさ」が重視されているという点では

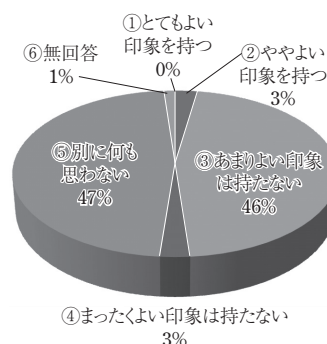


【図⑥7】 日本語教員全体

同じである。小学校教員・中学校教員と同様に、日本語教員も、日本語学習者に間違いなく正確に読める漢字を書こうとしていることがわかる。

2.8. 他人の筆順について

自分と違う筆順で字を書く人を見てどのような印象を持つかについて、5つの選択肢（「①とてもよい印象を持つ」「②ややよい印象を持つ」「③あまりよい印象は持たない」「④まったくよい印象は持たない」「⑤別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥8】のようになる。

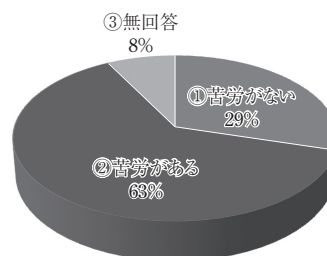


【図⑥8】日本語教員全体

【図⑥8】より、日本語教員全体では、「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた比率が49%、「⑤別に何も思わない」の比率が47%でほぼ同じである。日本語教員全体の「③あまりよい印象は持たない」と「④まったくよい印象は持たない」を合わせた「よい印象は持たない」の比率は、小学校教員全体・中学校教員全体よりも13%低く、日本語教員全体の方が、小学校教員全体・中学校教員全体よりも他人の筆順に対して寛容であることがわかる。これは、2.6.1の「筆順指導が必要である理由」や2.6.3の「筆順指導が不必要である理由」で述べたように、日本語教員はきれいに書くことよりも、まずは漢字が書ける（漢字を覚える）こと自体を優先しているためである。「きれいさ」や「筆順」は二の次として捉えられているということである。

2.9. 漢字指導上の苦勞について

漢字指導上の苦勞の有無について、2つの選択肢（「①苦勞がない」「②苦勞がある」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥9】のようになる。



【図⑥9】日本語教員全体

【図⑥9】より、日本語教員全体では、「②苦勞がある」の比率が63%で、半数を超えている。この63%という比率は、小学校教員全体・中学校教員全体よりも高い。日本語を母語とし、常に漢字に触れている日本語母語話者を指導する国語教育と、日本語を外国語として学ぶ日本語学習者を指導する日本語教育との違いが、この結果に見られる。

「②苦勞がある」についての記述を見ると、国語教育と同様に「漢字学習にあてられる時間的余裕がない」「音読みや訓読みなど複数の読みがある字を覚えさせるのがたいへん」「覚えなければならない字が多いため、学習者の負担が大きい」などの回答があった。しかし、それ以上に「学習者にとって漢字学習はおもしろくない学習になりやすい(単調な学習になりやすい)」「漢字学習に興味を持たせにくい」などの回答が多く、日本語教員は、漢字学習にいかに関心・関心を持たせるかで苦心していることがわかる。

また、「漢字圏と非漢字圏とで漢字学習に対する意欲や習熟度が異なる」「漢字圏と非漢字圏の学習者が同じ教室にいると指導しにくい」「漢字圏の学習者に母語との違いを理解させるのが難しい」という回答もあり、漢字文化圏と非漢字文化圏とで苦勞する点が異なっていること

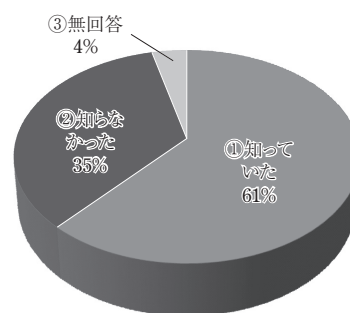
もわかる。

2.10. 『筆順指導の手びき』の認知について

現在、筆順指導の基準となっている『筆順指導の手びき』（昭和33（1958）年、文部省）を知っているかどうか（ここで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対的なものではないということ）について、2つの選択肢（「①知っていた」「②知らなかった」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥10】のようになる。

【図⑥10】より、日本語教員全体では、「①知っていた」の比率が61%で、半数以上の日本語教員が知っている。この61%という比率は、小学校教員全体・中学校教員全体よりも20%以上も高い比率であり、専門教科を国語とする中学校教員とほぼ同じである。日本語を専門とすることから、中学校教員国語と同様に、高い認知度となっている。

2.8.の「他人の筆順」で日本語教員全体が小学校教員・中学校教員よりも他人の筆順に対して寛容であることを述べたが、そのような認識となるのは、『筆順指導の手びき』の筆順があくまで一つの基準であるということをよく知っているからと考えられる。



【図⑥10】日本語教員全体

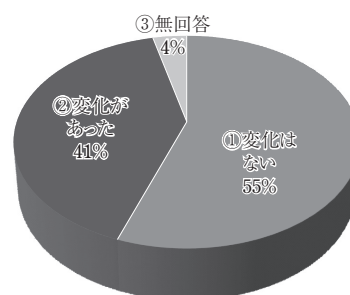
2.10.1. 『筆順指導の手びき』認知後の変化について

2.10.で『筆順指導の手びき』を「②知らなかった」と回答した日本語教員に、『筆順指導の手びき』が「現在の筆順の基準になっているということ」「ここで示されている筆順は、あくまで指針であって絶対的なものではないということ」を知って、心境の変化があったかどうかについて、2つの選択肢（「①変化はない」「②変化があった」）を設け、尋ねた。その結果を示すと、【図⑥10-1】のようになる。

【図⑥10-1】より、日本語教員全体では、「①変化はない」の比率がやや多いものの、「①変化はない」と「②変化があった」の比率がほぼ同じである。「②変化があった」の41%という比率については、小学校教員全体・中学校教員全体よりも20%ほど高い。

「②変化があった」と回答した日本語教員の具体的な記述を見ると、「筆順を、無理に教える必要はないと思うようになった」「筆順指導をしていないことに少し後ろめたさがあったが、気にしなくてもいいと思えるようになった」「現在示されている筆順以外を知りたい」「自分が正しく書けているわけでないので安心した」などの回答があり、『筆順指導の手びき』のことで、日本語教員がこれまで感じていた負担感を減少させることができている。

また、「それならば漢字検定8級に筆順の練習問題はいるのかいないのか……疑問に思います。それに、たまに中学校のテストにも筆順の問題が出ているようですが、それも疑問に思います。」という回答もあり、筆順（指導）が本当に必要かどうかを考え直す契機となっている。半数近くの日本語学習者は、『筆順指導の手びき』のことを知って何らかの変化を起こしていることから、あたかも絶対的な規範として認識されている現在の筆順指導の在り方について考



【図⑥10-1】日本語教員全体

え直すためには、まずは『筆順指導の手びき』のことは知る必要があると言える。

おわりに

これまで国語教育及び日本語教育において漢字学習者・漢字指導者を対象に行ったアンケート調査の結果を分析してきた。そこで明らかになった主なものをまとめると、次のようになる。

- (1) 漢字学習が「好き」の比率は、日本語学習者、小学生、中学生の順に高くなる（ただし、小学生・中学生は、「どちらでもない」の比率が最も高い）。
- (2) 漢字を書くときに注意する点について、漢字学習者（小学生・中学生・日本語学習者）は「きれいさ」「読みやすさ」を重視するのに対して、漢字指導者（小学校教員・中学校教員・日本語教員）は、「読みやすさ」「大きさ」を重視する。「読みやすさ」は共通するが、漢字指導者が「大きさ」に注意するのは、学習者に間違いなく読める漢字を書こうとするためである。
- (3) 筆順指導を受ける（受けてきた）比率は、小学生・中学生では80%以上で非常に高い。受ける（受けてきた）期間は、主に小学校の間である。日本語学習者においても、70%以上と非常に高い比率で筆順指導を受けており、漢字文化圏よりも非漢字文化圏の方が筆順指導を受ける比率が高い。
- (4) 筆順指導を行う比率は、中学校教員よりも小学校教員の方が高い。それは、小学校教員がすべての教科（国語）を指導するため、筆順指導を行う機会があるのに対して、中学校教員は専門教科のみを指導するため、専門教科が国語以外の教員は、筆順指導を行う機会がないからである。日本語教員で筆順指導を行っている比率は、小学校教員と中学校教員の中間になる。
- (5) 筆順指導を受ける理由、また行う理由は、小学生・中学生・小学校教員・中学校教員・日本語学習者・日本語教員すべてに共通して、「字がきれいに書けるようになるから」「字が書きやすくなるから」の比率が高い。
- (6) 筆順指導を受けることによって起きた変化、また行うことによって起きた変化は、小学生・中学生・小学校教員・中学校教員・日本語学習者・日本語教員すべてに共通して、「字がきれいに書けるようになった」の比率が高い。
- (7) 筆順指導を受けてこなかった学習者のうち、小学生・中学生は「筆順指導を受けたいとも受けたくないとも思っていない」の比率が最も高く、日本語学習者（主に漢字文化圏）は「筆順指導を受けたくない」の比率が最も高い。
- (8) 筆順指導を行わなかった理由は、小学校教員・中学校教員・日本語教員すべてに共通して「指導する時間的余裕がないから」という回答が最も多い。
- (9) 筆順指導について、小学生・小学校教員・中学校教員・日本語学習者では、70%以上の比率で「必要だ」と回答しているのに対して、中学生・日本語教員では50%程度と低い。
- (10) 筆順指導が必要な理由は、小学生・中学生・小学校教員・中学校教員・日本語学習者・日本語教員すべてに共通して、「字がきれいに書けるようになるから」「字が書きやすくなるから」の比率が高く、筆順指導を受ける理由・筆順指導を行う理由と同じである。
- (11) 筆順指導を行うのに適切な時期は、国語教育・日本語教育ともに漢字学習初期段階

という回答が多い。ただし、小学生は、「小学校から高校まで」の比率が最も高く、長期間に渡って学習する必要性を感じている。

- (12) 筆順指導が不必要な理由は、小学生では「書きやすい筆順で書いた方がよいから」の比率が高く、中学生・日本語学習者では「筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから」の比率が高い。
- (13) 学校で習う（自分と違う）筆順で字を書く人に対して、小学生・中学生・日本語学習者・日本語教員は「別に何も思わない」が50%程度で最も高く、半数の人が特に気にしていないのに対して、小学校教員・中学校教員は、60%以上の比率で「よくない」印象を持っており、他人の筆順に対して厳しく見ている。
- (14) 漢字学習上の苦勞について、小学生・中学生では「苦勞がある」の比率が50%程度で半数の学習者が苦勞を感じているが、日本語学習者は30%程度で、あまり苦勞を感じていない。ただし、「苦勞がない」と回答した日本語学習者の大半が漢字文化圏の学習者であり、非漢字文化圏の学習者だけで見ると60%以上が「苦勞がある」と回答している。漢字指導上の苦勞については、小学校教員・日本語教員では「苦勞がある」の比率が高いのに対して、中学校教員では低い。
- (15) 『筆順指導の手びき』のことについて、小学校教員国語・日本語教員では50%以上の比率で知っているが、中学校教員では20%程度である。ただし、知らなかった教員が『筆順指導の手びき』のことを知った後、小学校教員・中学校教員ではあまり心境の変化がなかったが、中学校教員国語・日本語教員では半数近くの教員に「無理に筆順を指導する必要がないと思うようになった」という心境の変化が起きている。

これらの分析結果を見ると、国語教育・日本語教育における筆順指導の実態及び筆順指導に対する意識について、かなりの部分が明らかになったことがわかる。従来、筆順に関する研究は、外田久美・押木秀樹・龍岡亮二・前田和昭（2002）が述べるように、「規範とされる筆順に関する研究」「規範とされる筆順等に含まれる合理性や意義に関する研究」「筆順の実態に関する研究」「筆順指導それ自体に関する研究」が主であり、「筆順指導の実態や意識」については研究が非常に遅れている。そのような中で、「筆順指導の実態や意識」に焦点をあてた研究を行うことで、上記のような分析結果を明らかにすることができた。

また、上記の分析結果を見ると、相違点もあるものの、国語教育と日本語教育とで共通している点が多いことに気付く。従来、筆順に関する研究の大半は、日本語母語話者が研究対象者であり、日本語を外国語として学ぶ日本語学習者を対象とした研究は非常に少ない。斎藤明・坂根慶子（1989）が指摘しているように、日本語教育では、話題として筆順のことがあがることはあっても、研究として行われてこなかった。そのような中、今回の研究では、国語教育だけでなく日本語教育にまで調査範囲を広げ、国語教育と日本語教育の共通点・相違点を明らかにすることができた。

さらに、本研究では、従来の研究のように漢字学習者だけ、あるいは漢字指導者だけではなく、漢字学習者・漢字指導者の両者を対象に調査を行うことで、漢字学習者と漢字指導者の状況を比較検討することもできた。この点も、本研究の大いなる成果と言えよう。

以上の分析結果から、国語教育において学校で学んだ筆順があたかも「正しい筆順＝絶対的なもの」と認識されている原因が、小学校教員の筆順に対する規範意識の高さにあることが明らかになった。小学校教員は、筆順指導は行うべきものと捉えており、それゆえ学校で習った

筆順以外で書く人に対しては厳しく見ている。この影響を学習者（小学生）は受け、学校で学ぶ筆順は「正しい筆順＝絶対的なもの」と捉えるようになるのである。

特に小学校低学年の時期は、学校の先生が言うことを正しいものとして無条件に受け入れる時期である。その時期は、漢字を学び始め、筆順指導が特に行われる時期と同じである。確かに、漢字学習初期段階で好き勝手に書いてよいという指導は行いにくく、何か一つの指針がある方が指導としては行いやすい。しかし、小学校教員が、どのような立場で指導を行うかによって、小学生の認識は大きく変わる。特に小学校低学年の時期は重要な時期である。この時期に、小学校教員は、筆順に対して規範意識を高く持ったまま指導を行ってよいのだろうか。

小学校教員は、筆順指導を行う理由として、「字がきれいに書けるようになる」「字が書きやすくなる」ことをあげている。しかし、何も筆順を学ばなくても、「きれいに」「書きやすく」書く方法は他にもあるはずである。しかも、現在指導されている筆順は、右利きの人用に作られたものであって、左利きの人のことは考慮に入っていないため、決して書きやすいものとは言えない。現在、小学校教員を中心に行われている筆順指導は、従来行われていたものを無批判的に踏襲しているだけではないだろうか。パソコンや携帯電話など電子機器の発達によって、小学生でも簡単に漢字変換できる時代にあって、従来のままの筆順指導を行っていく必要はない。日本語母語話者だけでなく日本語学習者も日本語（漢字）を学ぶ時代だからこそ筆順指導を行うべきなのか、その意義を見直す時期にきている。

そのためにも、まずは、指導する側の教員自身が、現在学校で学ぶ筆順が一つの指針に過ぎないことを知ることから始めてみる必要がある。回答者数としては決して多くはないものの、現在学校で指導する筆順が一つの指針であること（『筆順指導の手びき』のこと）を知らなかった教員が、そのことを知ることによって「無理に筆順指導を行う必要がないと思うようになった」と心境に変化が起きている。学習者に影響を与える教員自身が知ることによって、考えが変わるのである。

今後ますますグローバル化が進み、日本語を外国語として学ぶ日本語学習者の数が増加していくことが予測される。その中で、従来のままの筆順指導は成り立たない。今後の筆順指導の在り方については漢字指導の在り方を考えていくためには、日本語母語話者も日本語学習者も、「日本語」を媒介として同じように学ぶことのできる「日本語教育のユニバーサルデザイン化」が必要となってくる。

本研究は、荒削りな部分も多く問題も残されている。しかし、従来の研究にはない新たな視点から研究することで、多くのことを明らかにすることができた。それらの研究成果が、「日本語教育のユニバーサルデザイン化」構築に寄与することを期待し、筆を擱きたい。

【謝 辞】

本研究では、アンケート調査にご協力くださった1300人を超える方々をはじめ、アンケート調査票の作成がうまくいかず悩んでいた時に適切なご教示をくださった方、アンケート調査の目標人数に届かず苦心していた時に快く他の機関や協力者をご紹介くださった方など、実に多くの方々のご協力を得ました。お一人ずつお名前をあげることはできませんが、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

【参考文献】

- 秋山英治（2010）「筆順指導の実態について—高校生を対象としたアンケート調査をもとに—」『人文
学論叢』第12号
- 阿辻哲次（2008）『漢字を楽しむ』講談社現代新書
- 阿辻哲次（2009）『漢字文化の源流』（京大人気講義シリーズ）丸善
- 石川九楊（2005）『日本語の手ざわり』新潮選書
- 磯野美佳・澤田理恵子・押木秀樹（2000）「手書き文字に対する読みやすさ等の感覚とその世代差に
関する研究」『書写書道教育研究』第14号
- 押木秀樹（1997）「手書き文字研究の基礎としての研究の視点と研究構造の例」『書写書道研究』第
11号
- 押木秀樹・迎勝彦・龍岡亮二・前田和昭・齋木久美（2008）「中学生を対象とした学年別配当表所収
全字種の筆順調査結果のパターン別分析」『実技教育研究』第2号
- 国際交流基金（2008）『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年概要』
- 財団法人 日本漢字能力検定協会ホームページ（<http://www.kanken.or.jp/>）
- 斎藤明・坂根慶子（1989）『日本語教師ハンドブック』創拓社
- 坂根慶子（1995）「漢字の書写に対する評価について—漢字圏学習者の場合—」『東海大学紀要留学生
教育センター』第15号
- 笹原宏之（2008）『訓読みのはなし 漢字文化圏の中の日本語』光文社新書
- 清水史・秋山英治（2009）「高等教育における日本語リテラシー教育の現状と課題」『愛媛大学法文学
部論集 人文学科篇』第28号
- 清水史・秋山英治（2010）「中等教育における日本語リテラシー教育の現状と課題」『愛媛大学法文学
部論集 人文学科篇』第29号
- 社団法人 日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 外田久美・押木秀樹・龍岡亮二・前田和昭（2002）「中学生を対象とした学年別漢字配当表所収全字
種の筆順調査結果と基礎分析」『書写書道教育研究』第16号
- 津村幸恵・外田久美・宮澤正明・杉浦妙子・河合仁・塚本宏（1999）「中学校国語科免許必修の『書
道(書写を中心に)』における効果的な学習指導方法の研究と実践—筆順指導の在り方を通して—」
『書写書道教育研究』第13号
- 中村完（1988）「漢字文化圏の展開」『漢字講座第1巻 漢字とは』明治書院

卷末資料

(アンケート調査票)

■国語教育 (小学生・中学生・小学校教員・中学校教員)

■日本語教育 (日本語学習者〈日本語版・英語版〉・日本語教員)

漢字の書き順についてのアンケート

アンケートのおねがい

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという順番があります。これを「書き順」と言います。このアンケートは、みなさんが「書き順」について、どのように思っているのかについて教えてもらうものです。

このアンケートに答えることで、みなさんにふつごうになることはありませんので、思ったとおりに答えてください。よろしくおねがいします。

お問い合わせ先

えひめだいがくふぞくこうとうがっこう きょうゆ あきやま えいじ
愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 えひめけんまつやましたるみ ちようめ ほん ちようめ
愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

- (1) あなたは何年生ですか。あてはまる番号を1,2,3,4,5,6をつけてください。

しょうがっこう ねんせい
小学校 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6) 年生

- (2) あなたは男子ですか、女子ですか。あてはまる番号を1,2,3,4,5,6をつけてください。

① 男子 ② 女子

- (3) あなたは、漢字を勉強するのが好きですか。あてはまる番号を1,2,3,4,5,6をつけてください。

① 好き ② きらい ③ どちらでもない

- (4) あなたは、漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

① きれいさ (美しさ) ② よ 読みやすさ ③ おお 大きさ
④ はやさ (スピード) ⑤ か 書き順 ⑥ なにも注意していない
⑦ その他 ()

- (5) あなたは、学校で、書き順を習っていますか。あてはまる番号を1,2,3,4,5,6をつけてください。

「②習っていた」という人は、何年生まで習っていたのかも書いてください。

① いま 今も習っている ② 習っていた (小学校 年生まで)
③ いま 今まで習ったことはない

小学生版

「①今も習っている」「②習っていた」と答えた人は、(5-1)(5-2)を答えてください。
 「③今まで習ったことはない」と答えた人は、(5-3)を答えてください。

「①今も習っている」「②習っていた」と答えた人

(5-1) どうして書き順を習うと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになるから	② 字が書きやすくなるから
③ 書き順を習うのはあたりまえだから	④ テストなど問題に出るから
⑤ 字の成り立ちがわかるから	⑥ 字が覚えやすくなるから
⑦ その他	

(5-2) 書き順を習ってどのようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになった	② 字が書きやすくなった
③ テストなどで答えられるようになった	④ 字の成り立ちがわかるようになった
⑤ 字が覚えやすくなった	⑥ 何も変わらなかった
⑦ その他	

「③今まで習っていなかった」と答えた人

(5-3) 書き順を習いたかったですか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

① 習いたかった	② 習いたくなかった	③ どちらでもない
----------	------------	-----------

全員が答えてください

(6) 書き順を学校で習うべきだと思いますか。あてまる番号を1,2○をつけてください。

① 習うべき	② 習わなくてよい	③ どちらでもない
--------	-----------	-----------

- 「①習うべき」と答えた人は、(6-1)(6-2)を答えてください。
 「②習わなくてよい」と答えた人は、(6-3)を答えてください。
 「③どちらでもない」と答えた人は、(7)へ進んでください。

「①習うべき」と答えた人

(6-1) どうして書き順を習うべきだと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字の成り立ちがわかるから | ⑥ 字が覚えやすくなるから |
| ⑦ その他 | |

(6-2) いつ習うのがよいと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「⑧その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|------------|--------------|
| ① 小学校のあいだけ | ② 中学校のあいだけ |
| ③ 高校のあいだけ | ④ 小学校と中学校と高校 |
| ⑤ 小学校と中学校 | ⑥ 小学校と高校 |
| ⑦ 中学校と高校 | |
| ⑧ その他 | |

「②習わなくてよい」と答えた人

(6-3) どうして書き順を習わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | |
|---------------------------|
| ① 書き順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 書きやすい順番で書いた方がよいから |
| ④ 書き順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑤ 書き順は自然に身につくものだから |
| ⑥ テストなどに出ることはないから |
| ⑦ その他 |

ぜんいん こと
全員が答えてください

(7) がつこう なら か じゆん かと じゆん ひと み どのようないんしょうも
学校で習う書き順とちがう書き順の人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号
を1つ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ① とてもよい印象を持つ | ② ややよい印象を持つ |
| ③ あまりよい印象は持たない | ④ まったくよい印象は持たない |
| ⑤ 別になにも思わない(よい印象も悪い印象も持たない) | |

(8) かんじ がくしゆう とき くるう ほんごう
漢字を学習する時に苦勞していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてくだ
さい。「②苦勞がある」と答えた人は、どのようなことに苦勞しているのか、()にくわ
しく書いてください。

- | |
|---------|
| ① 苦勞がない |
| ② 苦勞がある |
-

これでおわりです。ありがとうございました。

漢字の書き順についてのアンケート

アンケートのおねがい

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという順番があります。これを「書き順」と言います。このアンケートは、みなさんが「書き順」について、どのように思っているのかについて教えてもらうものです。

このアンケートに答えることで、みなさんにふつごうになることはありませんので、思ったとおりに答えてください。よろしくおねがいします。

お問い合わせ先

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

(1) あなたは何年生ですか。あてはまる番号を12〇をつけてください。

中学校 (1 ・ 2 ・ 3) 年生

(2) あなたは男子ですか、女子ですか。あてはまる番号を12〇をつけてください。

① 男子 ② 女子

(3) あなたは、漢字を勉強するのが好きですか。あてはまる番号を12〇をつけてください。

① 好き ② きらい ③ どちらでもない

(4) あなたは、漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに〇をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

① きれいさ (美しさ) ② 読みやすさ ③ 大きさ
④ はやさ (スピード) ⑤ 書き順 ⑥ なにも注意していない
⑦ その他 ()

(5) あなたは、学校で、書き順を習っていますか。あてはまる番号を12〇をつけてください。

「②習っていた」という人は、何年生まで習っていたのかも書いてください。

① 今も習っている ② 習っていた (小学校 ・ 中学校 _____ 年生まで)
③ 今まで習ったことはない

「①今も習っている」「②習っていた」と答えた人は、(5-1)(5-2)を答えてください。
 「③今まで習ったことはない」と答えた人は、(5-3)を答えてください。

「①今も習っている」「②習っていた」と答えた人

(5-1) どうして書き順を習うと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字の成り立ちがわかるから | ⑥ 字が覚えやすくなるから |
| ⑦ その他 | |

(5-2) 書き順を習ってどのようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ① 字がきれいに書けるようになった | ② 字が書きやすくなった |
| ③ テストなどで答えられるようになった | ④ 字の成り立ちがわかるようになった |
| ⑤ 字が覚えやすくなった | ⑥ 何も変わらなかった |
| ⑦ その他 | |

「③今まで習っていなかった」と答えた人

(5-3) 書き順を習いたかったですか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| ① 習いたかった | ② 習いたくなかった | ③ どちらでもない |
|----------|------------|-----------|

全員が答えてください

(6) 書き順を学校で習うべきだと思いますか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- | | | |
|--------|-----------|-----------|
| ① 習うべき | ② 習わなくてよい | ③ どちらでもない |
|--------|-----------|-----------|

「①習うべき」と答えた人は、(6-1)(6-2)を答えてください。

「②習わなくてよい」と答えた人は、(6-3)を答えてください。

「③どちらでもない」と答えた人は、(7)へ進んでください。

「①習うべき」と答えた人

(6-1) どうして書き順を習うべきだと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字の成り立ちがわかるから | ⑥ 字が覚えやすくなるから |
| ⑦ その他 | |

(6-2) いつ習うのがよいと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

「⑧その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|-------------|--------------|
| ① 小学校のあいだだけ | ② 中学校のあいだだけ |
| ③ 高校のあいだだけ | ④ 小学校と中学校と高校 |
| ⑤ 小学校と中学校 | ⑥ 小学校と高校 |
| ⑦ 中学校と高校 | |
| ⑧ その他 | |

「②習わなくてよい」と答えた人

(6-3) どうして書き順を習わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | |
|---------------------------|
| ① 書き順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 書き順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 書きやすい順番で書いた方がよいから |
| ④ 書き順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑤ 書き順は自然に身につくものだから |
| ⑥ テストなどに出ることはないから |
| ⑦ その他 |

全員が答えてください

(7) 学校で習う書き順とちがう書き順の人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ① とてもよい印象を持つ | ② ややよい印象を持つ |
| ③ あまりよい印象は持たない | ④ まったくよい印象は持たない |
| ⑤ 別になにも思わない(よい印象も悪い印象も持たない) | |

(8) 漢字を学習する時に苦勞していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②苦勞がある」と答えた人は、どのようなことに苦勞しているのか、()にくわしく書いてください。

- | |
|---------|
| ① 苦勞がない |
| ② 苦勞がある |
-

これで終わりです。ありがとうございました。

漢字の筆順指導についてのアンケート

アンケートのお願い

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという「筆順（書き順）」があります。このアンケートでは、先生方が「筆順」について、どのように思っているか、またどのような指導をなさっているかについて、お答えいただくものです。

このアンケートにお答えいただくことで、不都合になることはありません（調査は、無記名調査で、回答結果は統計的に処理します。学術的な目的以外には使用しません）ので、思った通りにお答えください。ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

ご協力よろしくお願ひします。

お問い合わせ先

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

(1) 主に何年生を担当していますか。あてはまる番号を1-2-3-4-5-6をつけてください。

小学校（ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ）年生

(2) 男性ですか、女性ですか。あてはまる番号を1-2をつけてください。

① 男性 ② 女性

(3) 年代として、あてはまる番号を1-2-3-4-5をつけてください。

① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代

(4) 重点に教えている教科（専門教科）があれば、あてはまる番号をすべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑩その他」を答えた方は、（ ）に詳しく書いてください。

① 国語 ② 社会 ③ 算数 ④ 理科 ⑤ 生活 ⑥ 音楽
⑦ 図画工作 ⑧ 家庭 ⑨ 体育 ⑩ その他（ ）

(5) 漢字指導を積極的に行っていますか。あてはまる番号を1-2-3をつけてください。

① 行っている ② 行っていない ③ どちらともいえない

(6) 漢字指導の際に、筆順指導を行っていますか。あてはまる番号を1-2-3-4をつけてください。

① よく行っている ② 比較的行っている
③ あまり行っていない ④ まったく行っていない

「①よく行っている」「②比較的行っている」と答えた方は、(6-1)(6-2)へ
「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方は、(6-3)へ

「①よく行っている」「②比較的行っている」と答えた方

(6-1) なぜ筆順指導を行うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになるから	② 字が書きやすくなるから
③ 筆順を習うのはあたりまえだから	④ テストなど問題に出るから
⑤ 字の成り立ちがわかるから	⑥ 字が覚えやすくなるから
⑦ その他	

(6-2) 筆順指導を行って児童にどのような変化が見られるようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになった	② 字がはやく書けるようになった
③ テストなどで答えられるようになった	④ 字の成り立ちがわかるようになった
⑤ 字を覚えるようになった	⑥ 何も変わらなかった
⑦ その他	

「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方

(6-3) なぜ筆順指導を行っていないのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから
② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから
③ 書きやすい筆順で書いた方がよいから
④ 筆順を覚えるのがたいへんだから
⑤ 筆順は自然に身につくものだから
⑥ テストなどに出ることはないから
⑦ その他

(7) 筆順指導を行うべきだと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① 行うべき	② 行わなくてよい	③ どちらでもない
--------	-----------	-----------

「①行うべき」と答えた方は、(7-1) (7-2)へ
「②行わなくてよい」と答えた方は、(7-3)へ
「③どちらでもない」と答えた方は、(8)へ

「①行うべき」と答えた方

(7-1) なぜ筆順指導を行うべきだと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字の成り立ちがわかるから | ⑥ 字が覚えやすくなるから |
| ⑦ その他 | |

(7-2) 筆順指導を行うならいつがよいと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「⑧その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | | |
|--------------|-----------|----------|
| ① 小学校の間だけ | ② 中学校の間だけ | ③ 高校の間だけ |
| ④ 小学校と中学校と高校 | ⑤ 小学校と中学校 | ⑥ 小学校と高校 |
| ⑦ 中学校と高校 | | |
| ⑧ その他 | | |

「②行わなくてよい」と答えた方

(7-3) なぜ筆順指導を行わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | |
|--------------------------|
| ① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 書きやすい筆順で書いた方がよいから |
| ④ 筆順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑤ 筆順は自然に身につくものだから |
| ⑥ テストなどに出ることはないから |
| ⑦ その他 |

(8) 黒板での板書など漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | | |
|--------------|---------|-------------|
| ① きれいさ (美しさ) | ② 読みやすさ | ③ 大きさ |
| ④ はやさ (スピード) | ⑤ 書き順 | ⑥ 何も注意していない |
| ⑦ その他 (| |) |

小学校教員版

- (9) 学校で学ぶ筆順と違った順番で漢字を書いている人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① とてもよい印象を持つ	② ややよい印象を持つ
③ あまりよい印象は持たない	④ まったくよい印象は持たない
⑤ 別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）	

- (10) 漢字指導を行う際に苦勞していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②苦勞がある」と答えた方は、どのようなことに苦勞しているのか、()に詳しく書いてください。

① 苦勞がない	}
② 苦勞がある	

- (11) 現在学校で教えている筆順は、文部省編『筆順指導の手引き』（昭和33年）によるものです。その『筆順指導の手引き』には、「筆順は正確で整った字を書くためのものである。原則はあるが、必ずしも一つの漢字に一つの筆順しかないというわけではない。」とあり、現在学校で教えている筆順は、あくまで一つの指針にすぎないことがわかります。あなたは、このことを知っていましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① 知っていた	② 知らなかった
---------	----------

「①知っていた」と答えた方は、以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
 「②知らなかった」と答えた方は、(11-1)へ

「②知らなかった」と答えた方

- (11-1) 上記のことを知って、筆順指導に対する考えに、何か変化がありましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②変化があった」と答えた方は、どのように変わったのか、()に詳しく書いてください。

① 変化はない	}
② 変化があった	

以上で終わりです。ありがとうございました。

漢字の筆順指導についてのアンケート

アンケートのお願い

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという「筆順（書き順）」があります。このアンケートでは、先生方が「筆順」について、どのように思っているか、またどのような指導をなさっているかについて、お答えいただくものです。

このアンケートにお答えいただくことで、不都合になることはありません（調査は、無記名調査で、回答結果は統計的に処理します。学術的な目的以外には使用しません）ので、思った通りにお答えください。ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

ご協力よろしくお願いします。

お問い合わせ先

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

(1) 主に何年生を担当していますか。あてはまる番号を1-2-3をつけてください。

中学校（ 1 ・ 2 ・ 3 ）年生

(2) 男性ですか、女性ですか。あてはまる番号を1-2をつけてください。

① 男性 ② 女性

(3) 年代として、あてはまる番号を1-2-3-4-5をつけてください。

① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代

(4) 教えている教科として、あてはまる番号を1-2-3-4-5-6-7-8-9-10をつけてください。複数の教科を教えている方は、主に教えている教科を教えてください。

① 国語 ② 社会 ③ 数学 ④ 理科 ⑤ 音楽 ⑥ 美術
⑦ 技術・家庭 ⑧ 保健体育 ⑨ 英語 ⑩ その他（ ）

(5) 漢字指導を積極的に行っていますか。あてはまる番号を1-2-3をつけてください。

① 行っている ② 行っていない ③ どちらともいえない

(6) 漢字指導の際に、筆順指導を行っていますか。あてはまる番号を1-2-3-4をつけてください。

① よく行っている ② 比較的行っている
③ あまり行っていない ④ まったく行っていない

「①よく行っている」「②比較的に行っている」と答えた方は、(6-1)(6-2)へ
「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方は、(6-3)へ

「①よく行っている」「②比較的行っている」と答えた方

(6-1) なぜ筆順指導を行うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください(複数回答可)。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになるから	② 字が書きやすくなるから
③ 筆順を習うのはあたりまえだから	④ テストなど問題に出るから
⑤ 字の成り立ちがわかるから	⑥ 字が覚えやすくなるから
⑦ その他	

(6-2) 筆順指導を行って生徒にどのような変化が見られるようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください(複数回答可)。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 字がきれいに書けるようになった	② 字がはやく書けるようになった
③ テストなどで答えられるようになった	④ 字の成り立ちがわかるようになった
⑤ 字を覚えるようになった	⑥ 何も変わらなかった
⑦ その他	

「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方

(6-3) なぜ筆順指導を行っていないのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください(複数回答可)。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから
② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから
③ 書きやすい筆順で書いた方がよいから
④ 筆順を覚えるのがたいへんだから
⑤ 筆順は自然に身につくものだから
⑥ テストなどに出ることはないから
⑦ その他

(7) 筆順指導を行うべきだと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① 行うべき	② 行わなくてよい	③ どちらでもない
--------	-----------	-----------

「①行うべき」と答えた方は、(7-1)、(7-2)へ
 「②行わなくてよい」と答えた方は、(7-3)へ
 「③どちらでもない」と答えた方は、(8)へ

「①行うべき」と答えた方

(7-1) なぜ筆順指導を行うべきだと思ったのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字の成り立ちがわかるから | ⑥ 字が覚えやすくなるから |
| ⑦ その他 | |

(7-2) 筆順指導を行うならいつがよいと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「⑧その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | | |
|--------------|-----------|----------|
| ① 小学校の間だけ | ② 中学校の間だけ | ③ 高校の間だけ |
| ④ 小学校と中学校と高校 | ⑤ 小学校と中学校 | ⑥ 小学校と高校 |
| ⑦ 中学校と高校 | | |
| ⑧ その他 | | |

「②行わなくてよい」と答えた方

(7-3) なぜ筆順指導を行わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | |
|--------------------------|
| ① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 書きやすい筆順で書いた方がよいから |
| ④ 筆順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑤ 筆順は自然に身につくものだから |
| ⑥ テストなどに出ることはないから |
| ⑦ その他 |

(8) 黒板での板書など漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | | |
|--------------|---------|-------------|
| ① きれいさ (美しさ) | ② 読みやすさ | ③ 大きさ |
| ④ はやさ (スピード) | ⑤ 書き順 | ⑥ 何も注意していない |
| ⑦ その他 (| |) |

中学校教員版

- (9) 学校で学ぶ筆順と違った順番で漢字を書いている人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① とてもよい印象を持つ	② ややよい印象を持つ
③ あまりよい印象は持たない	④ まったくよい印象は持たない
⑤ 別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない）	

- (10) 漢字指導を行う際に苦勞していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②苦勞がある」と答えた方は、どのようなことに苦勞しているのか、()に詳しく書いてください。

① 苦勞がない	}
② 苦勞がある	

- (11) 現在学校で教えている筆順は、文部省編『筆順指導の手引き』（昭和33年）によるものです。その『筆順指導の手引き』には、「筆順は正確で整った字を書くためのものである。原則はあるが、必ずしも一つの漢字に一つの筆順しかないというわけではない。」とあり、現在学校で教えている筆順は、あくまで一つの指針にすぎないことがわかります。あなたは、このことを知っていましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

① 知っていた	② 知らなかった
---------	----------

「①知っていた」と答えた方は、以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
 「②知らなかった」と答えた方は、(11-1)へ

「②知らなかった」と答えた方

- (11-1) 上記のことを知って、筆順指導に対する考えに、何か変化がありましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②変化があった」と答えた方は、どのように変わったのか、()に詳しく書いてください。

① 変化はない	}
② 変化があった	

以上で終わりです。ありがとうございました。

漢字の筆順についてのアンケート

アンケートのおねがい

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという順番があります。これを「筆順(書き順)」と言います。このアンケートは、みなさんが「筆順(書き順)」について、どのように思っているのかについて教えてください。

このアンケートに答えることで、みなさんに不都合になることはありませんので、思ったとおりに教えてください。よろしくおねがいします。

お問い合わせ先

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 愛媛県松山市榑味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

- (1) あなたの出身国はどこですか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|-------|
| ① 中国 | ② 韓国 | ③ モンゴル | ④ インドネシア | ⑤ タイ |
| ⑥ フィリピン | ⑦ ベトナム | ⑧ マレーシア | ⑨ ネパール | ⑩ インド |
| ⑪ オーストラリア | ⑫ アメリカ | ⑬ カナダ | ⑭ フランス | ⑮ ドイツ |
| ⑯ ロシア | ⑰ モザンビーク | ⑱ ナイジェリア | ⑲ ケニア | |
| ⑳ その他 () | | | | |

- (2) あなたが出身国で使っている言葉は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「②その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | | | |
|----------|------------|-----------|-----------|
| ① 中国語 | ② 朝鮮語(韓国語) | ③ モンゴル語 | ④ インドネシア語 |
| ⑤ タイ語 | ⑥ フィリピン語 | ⑦ ベトナム語 | ⑧ マレーシア語 |
| ⑨ ウルドゥー語 | ⑩ 英語 | ⑪ ドイツ語 | ⑫ フランス語 |
| ⑬ ポーランド語 | ⑭ チェコ語 | ⑮ イタリア語 | ⑯ スペイン語 |
| ⑰ ポルトガル語 | ⑱ ロシア語 | ⑲ その他 () | |

- (3) あなたは、どのくらいの期間、日本語を勉強していますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ① 1年未満 | ② 1年以上～2年未満 | ③ 2年以上～3年未満 |
| ④ 3年以上～4年未満 | ⑤ 4年以上～5年未満 | ⑥ 5年以上 |

- (4) あなたは、男性ですか、女性ですか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | |
|------|------|
| ① 男性 | ② 女性 |
|------|------|

日本語学習者・日本語版

(5) あなたは、漢字を学習するのが好きですか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- ① 好き ② きれい ③ どちらでもない

(6) あなたは、日本語を学習するときに、筆順を習っていますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- ① 今も習っている ② 今は習っていないが習ったことがある
③ 今まで習ったことはない

「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と答えた人は、(6-1)(6-2)を答えてください。
「③今まで習ったことはない」と答えた人は、(6-3)を答えてください。

「①今も習っている」「②今は習っていないが習ったことがある」と答えた人

(6-1) どうして筆順を習うと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
「⑧その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- ① 字がきれいに書けるようになるから ② 字が書きやすくなるから
③ 筆順を習うのはあたりまえだから ④ テストなど問題に出るから
⑤ 字が読めるようになるから ⑥ 字の成り立ちがわかるから
⑦ 字が覚えやすくなるから
⑧ その他

(6-2) 筆順を習ってどのようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- ① 字がきれいに書けるようになった ② 字が書きやすくなった
③ テストなどで答えられるようになった ④ 字の成り立ちがわかるようになった
⑤ 字が覚えやすくなった ⑥ 何も変わらなかった
⑦ その他

「③今まで習っていなかった」と答えた人

(6-3) 筆順を習いたかったですか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- ① 習いたかった ② 習いたくなかった ③ どちらでもない

全員が答えてください

(7) 筆順を習うべきだと思いますか。あてまる番号を1つ○をつけてください。

- | | | |
|--------|-----------|-----------|
| ① 習うべき | ② 習わなくてよい | ③ どちらでもない |
|--------|-----------|-----------|

「①習うべき」と答えた人は、(7-1)、(7-2)を答えてください。
 「②習わなくてよい」と答えた人は、(7-3)を答えてください。
 「③どちらでもない」と答えた人は、(8)へ進んでください。

「①習うべき」と答えた人

(7-1) どうして筆順を習うべきだと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑧その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 筆順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字が読めるようになるから | ⑥ 字の成り立ちがわかるから |
| ⑦ 字が覚えやすくなるから | |
| ⑧ その他 | () |

「②習わなくてよい」と答えた人

(7-2) どうして筆順を習わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | |
|--------------------------|
| ① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 筆順を知らなくても読めればそれでよいから |
| ④ 書きやすい順番で書いた方がよいから |
| ⑤ 筆順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑥ 筆順は自然に身につくものだから |
| ⑦ テストなどに出ることはないから |
| ⑧ その他 |

全員が答えてください

(8) 漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた人は、()にくわしく書いてください。

- | | | |
|-------------|---------|--------------|
| ① きれいさ(美しさ) | ② 読みやすさ | ③ 大きさ |
| ④ はやさ(スピード) | ⑤ 筆順 | ⑥ なにも注意していない |
| ⑦ その他 | () | |

日本語学習者・日本語版

- (9) 自分の筆順とちがう筆順の人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- ① とてもよい印象を持つ
② ややよい印象を持つ
③ あまりよい印象は持たない
④ まったくよい印象は持たない
⑤ 別になにも思わない（よい印象も悪い印象も持たない）

- (10) 漢字を学習する時に苦労していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②苦労がある」と答えた人は、どのようなことに苦労しているのか、()にくわしく書いてください。

- ① 苦労がない
② 苦労がある

- (11) 所属機関（学校名など）を書いてください。

これで終わりです。ありがとうございました。

Questionnaire About Kanji Stroke Order

Every Kanji is supposed to be written with a certain stroke order. For example the character 「右」 starts with the 「ノ」 and the character 「左」 starts with the 「一」. This questionnaire is made in order to understand what you think about kanji stroke order.

This questionnaire won't be used in any inappropriate way, so please feel free to answer honestly. Thank you for your time.

Contact Information:

Akiyama Eiji, Ehime University High School
〒 790-8566 Ehime Matsuyama Tarumi 3-2-40
TEL : 089-946-9911 FAX : 089-977-8458
E-mail : akiyamae@q4hi.agr.ehime-u.ac.jp

(1) Where were you born?

Please circle one, or fill in ⑳, if that applies.

- ① China ② Korea ③ Mongolia ④ Indonesia ⑤ Thailand ⑥ The Philippines
⑦ Vietnam ⑧ Malaysia ⑨ Nepal ⑩ India ⑪ Australia ⑫ America
⑬ Canada ⑭ France ⑮ German ⑯ Russia ⑰ Mozambique ⑱ Nigeria
⑲ Kenya ⑳ Other ()

(2) What language do you use in your country?

Please circle all that apply to you and fill in ⑲ if you use a language or languages not listed.

- ① Chinese ② Korean ③ Mongolian ④ Indonesian ⑤ Thai
⑥ Philippine ⑦ Vietnamese ⑧ Bahasa Malaysia ⑨ Urdu ⑩ English
⑪ German ⑫ French ⑬ Polish ⑭ Czech ⑮ Italian ⑯ Spanish
⑰ Portuguese ⑱ Russian ⑲ Other language ()

(3) How long have you studied Japanese?

Please circle one.

- ① Less than 1 year ② Between 1 and 2 years ③ Between 2 and 3 years
④ Between 3 and 4 years ⑤ Between 4 and 5 years ⑥ More than 5 years

(4) What is your sex?

Please circle one.

- ① Male ② Female

(5) How well do you like studying Kanji?

Please circle one.

- ① I like it a lot. ② I do not like it at all. ③ I can take it or leave it.

(6) When you study Kanji, do you also learn the stroke order?

Please circle one.

- ① I am learning it now. ② I'm not learning it now but I have in the past. ③ Never.

For those answering ① or ②, please answer Questions (6-1) and (6-2) before going on to Question 7.

For those answering ③, please go to Question (6-3).

(For those who answered ① or ② in Question 6)

(6 - 1) Why do you think you are learning or have learned Kanji stroke order?

Please circle all that apply and fill in ⑧ if that applies.

- ① To be able to write neatly. ② To be able to write Kanji easier.
 ③ It is natural to learn the stroke order. ④ It will be or was on tests.
 ⑤ To be able to read Kanji. ⑥ To be able to understand how Kanji are composed.
 ⑦ To be able to remember Kanji easier.
 ⑧ Other: {

(6 - 2) What have you actually gotten from learning Kanji stroke order?

Please circle all that apply and fill in ⑦ if that applies.

- ① You can write Kanji neatly. ② You can write Kanji easier.
 ③ You can answer questions on tests. ④ You can understand how Kanji are composed.
 ⑤ You can read Kanji. ⑥ Nothing has changed.
 ⑦ Other: {

(For those who answered ③ in Question 6)

(6-3) Did you want to learn Kanji stroke order?

- ① Yes ② No ③ Neither

For everyone:

(7) Do you think learning Kanji stroke order should be required?

Please circle one .

- ① It should be required. ② It shouldn' t be required. ③ I can go either way.

For those answering ①, please answer Question (7-1) before going to Question 8.

For those answering ②, please go to Question (7-2) before going to Question 8.

For those answering ③, please go directly to Question 8.

(For those who answered ① in Question 7)

(7-1) Why do you think we should learn Kanji stroke order?

Please circle all that apply and fill in ⑧ if that applies.

- ① To be able to write neatly. ② To be able to write Kanji easier.
③ It is natural to learn the stroke order. ④ It will be or was on tests.
⑤ To be able to read Kanji. ⑥ To be able to understand how Kanji are composed.
⑦ To be able to remember Kanji easier.
⑧ Other: _____

(For those who answered ② in Question 7)

(7-2) Why do you think we don' t have to learn Kanji stroke order?

Please circle all that apply and fill in ⑧ if that applies.

- ① We don' t have to know the stroke order in order to write Kanji neatly.
② As long as I can write Kanji, I don' t need to learn the stroke order.
③ We don' t have to know the stroke order in order to read Kanji.
④ We should be able to write Kanji in whatever order we find easy to write.
⑤ It is difficult to learn Kanji stroke order.
⑥ We will eventually master Kanji stroke order with out actively learning it.
⑦ It won' t be in tests.
⑧ Other: _____

漢字の筆順指導についてのアンケート

アンケートのお願い

漢字には、たとえば「右」という字は「ノ」から、「左」という字は「一」から書くという「筆順（書き順）」があります。このアンケートでは、先生方が「筆順」について、どのように思っているか、またどのような指導をなさっているかについて、お答えいただくものです。

このアンケートにお答えいただくことで、不都合になることはありません（調査は、無記名調査で、回答結果は統計的に処理します。学術的な目的以外には使用しません）ので、思った通りにお答えください。ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

ご協力よろしくお願ひします。

お問い合わせ先

愛媛大学附属高等学校 教諭 秋山 英治
〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目2番40号
電話：089-946-9911 FAX：089-977-8458
E-mail：akiyamae@4qhi.agr.ehime-u.ac.jp

(1) 男性ですか、女性ですか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- ① 男性 ② 女性

(2) 年代として、あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- ① 20代 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代

(3) 日本語学習者に日本語を教えてどのくらいになりますか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- ① 1年未満 ② 1年以上～3年未満 ③ 3年以上～5年未満
④ 5年以上～7年未満 ⑤ 7年以上～10年未満 ⑥ 10年以上～15年未満
⑦ 15年以上

(4) 漢字指導を積極的に行っていますか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- ① 行っている ② 行っていない ③ どちらともいえない

(5) 漢字指導の際に、筆順指導を行っていますか。あてはまる番号を1,2○をつけてください。

- ① よく行っている ② 比較的行っている
③ あまり行っていない ④ まったく行っていない

「①よく行っている」「②比較的行っている」と答えた方は、(5-1)(5-2)へ
「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方は、(5-3)へ

「①よく行っている」「②比較的行っている」と答えた方

(5-1) なぜ筆順指導を行うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑧その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 筆順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字が読めるようになるから | ⑥ 字の成り立ちがわかるから |
| ⑦ 字が覚えやすくなるから | |
| ⑧ その他 | |

(5-2) 筆順指導を行って学習者にどのような変化が見られるようになりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑧その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ① 字がきれいに書けるようになった | ② 字がはやく書けるようになった |
| ③ テストなどで答えられるようになった | ④ 字の成り立ちがわかるようになった |
| ⑤ 字が読めるようになった | ⑥ 字を覚えるようになった |
| ⑦ 何も変わらなかった | |
| ⑧ その他 | |

「③あまり行っていない」「④まったく行っていない」と答えた方

(5-3) なぜ筆順指導を行っていないのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください（複数回答可）。「⑨その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | |
|--------------------------|
| ① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから |
| ④ 書きやすい筆順で書いた方がよいから |
| ⑤ 筆順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑥ 筆順は自然に身につくものだから |
| ⑦ テストなどに出ることはないから |
| ⑧ 筆順を教える時間がないから |
| ⑨ その他 |

(6) 筆順指導を行うべきだと思いますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | | |
|--------|-----------|-----------|
| ① 行うべき | ② 行わなくてよい | ③ どちらでもない |
|--------|-----------|-----------|

「①行うべき」と答えた方は、(6-1) (6-2)へ

「②行わなくてよい」と答えた方は、(6-3)へ

「③どちらでもない」と答えた方は、(7)へ

「①行うべき」と答えた方

(6-1) なぜ筆順指導を行うべきだと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑧その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① 字がきれいに書けるようになるから | ② 字が書きやすくなるから |
| ③ 書き順を習うのはあたりまえだから | ④ テストなど問題に出るから |
| ⑤ 字が読めるようになるから | ⑥ 字の成り立ちがわかるから |
| ⑦ 字が覚えやすくなるから | |
| ⑧ その他 | |

(6-2) 筆順指導を行う時期として適切な時期があれば、()に詳しく書いてください。

「②行わなくてよい」と答えた方

(6-3) なぜ筆順指導を行わなくてよいと思うのですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑨その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | |
|--------------------------|
| ① 筆順を知らなくても字がきれいに書けるから |
| ② 筆順を知らなくても字が書ければそれでよいから |
| ③ 筆順を知らなくても字が読めればそれでよいから |
| ④ 書きやすい筆順で書いた方がよいから |
| ⑤ 筆順を覚えるのがたいへんだから |
| ⑥ 筆順は自然に身につくものだから |
| ⑦ テストなどに出ることはないから |
| ⑧ 筆順を教える時間がないから |
| ⑨ その他 |

(7) 板書など漢字を書くとき、どのようなことに注意して書いていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。「⑦その他」を答えた方は、()に詳しく書いてください。

- | | | |
|--------------|---------|-------------|
| ① きれいさ (美しさ) | ② 読みやすさ | ③ 大きさ |
| ④ はやさ (スピード) | ⑤ 書き順 | ⑥ 何も注意していない |
| ⑦ その他 (| |) |

- (8) 学校で学ぶ筆順と違った順番で漢字を書いている人を見てどのような印象を持ちますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ① とてもよい印象を持つ | ② ややよい印象を持つ |
| ③ あまりよい印象は持たない | ④ まったくよい印象は持たない |
| ⑤ 別に何も思わない（よい印象も悪い印象も持たない） | |

- (9) 漢字指導を行う際に苦労していることはありますか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②苦労がある」と答えた方は、どのようなことに苦労しているのか、()に詳しく書いてください。

- | |
|---------|
| ① 苦労がない |
| ② 苦労がある |

- (10) 現在正しいと言われている筆順は、文部省編『筆順指導の手引き』（昭和33年）によるものです。その『筆順指導の手引き』には、「筆順は正確で整った字を書くためのものである。原則はあるが、必ずしも一つの漢字に一つの筆順しかないというわけではない。」とあり、現在正しいと言われている筆順は、あくまで一つの指針にすぎないことがわかります。あなたは、このことを知っていましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。

- | | |
|---------|----------|
| ① 知っていた | ② 知らなかった |
|---------|----------|

「①知っていた」と答えた方は、以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
 「②知らなかった」と答えた方は、(10-1)へ

「②知らなかった」と答えた方

- (10-1) 上記のことを知って、筆順指導に対する考えに、何か変化がありましたか。あてはまる番号を1つ○をつけてください。「②変化があった」と答えた方は、どのように変わったのか、()に詳しく書いてください。

- | |
|----------|
| ① 変化はない |
| ② 変化があった |

以上で終わりです。ありがとうございました。